

市立横手病院年報

平成 24 年 度

市 立 横 手 病 院

平成24年度年報発刊にあたり

市立横手病院院長 丹 羽 誠

あの東日本大震災から1年が経過した次の年度である。

(1) 診療体制では、呼吸器アレルギー内科で、24年度末に常勤医が不在となることが早々に明らかとなった。外来の応援も縮小することとなり、患者様の不安が募った。院内・院外の連携で対応を行い、その後の体制づくりに努力が続いている。外科は、常勤医の交代で新しい力を迎える事が出来たが、その後に常勤医が減少することとなった。

そのような中、大学眼科より当院で白内障手術を行いたいと言う希望があり、25年度開始に向けて準備が進められたのは、幸いであった。

(2) 24年度開始したこととして特筆すべきは「患者サポート体制」整備がある。患者様ご家族からの医療上の質問、生活上および入院上の不安などの相談は、本来、受け持ちスタッフが現場で受けるべきことである。しかし、忙しそうな現場で十分には相談できないことが現実であり、これに対応するために「患者相談窓口」と「総合案内」が設置された。

病院の使命として、「全うに診断し、治療を行う」と同時に、「患者様に安心して頂くこと」がある。個々の心がけで対応するだけではなく、組織として行おうとする形が進歩したことは、重要なことである。

(3) 平均在院日数11日

「DPC対象」の急性期病院として国に求められている内容を整備するべく努力してきた。平均在院日数は一つの指標でしかないが、当院のこの数字は、全国平均には及ばないものの、それに近いものである。しかし、秋田県内では群を抜いて最上位に短く、各院長からは驚嘆されている。まず、もちろん上手に治療して退院可能としていること、そして、ご家族や施設との連携がなされていること、による。誇るべきことである。

我々の日々の営みが、進歩しているものであることを願う。しかし現実には厳しい。停滞したり、思うようにいかないことが多々ある。平成24年度年報をここにお届けする。

目 次

巻頭言	1	脳神経内科	34
目 次	2	消化器科	36
沿 革	7	循環器科	37
基本理念・基本方針	14	呼吸器科・アレルギー科	38
倫理綱領	15	心療内科	39
患者様の権利と責務	16	外科	40
病院の概要	19	整形外科	43
開設者	19	小児科	45
名 称	19	小児科アレルギー科	49
所在地	19	産婦人科	50
開設年月日	19	眼科	52
事業管理者	19	泌尿器科	53
病床数	19	放射線科	54
診療科目	19	麻酔科	56
看護体系	19	リハビリテーション科	57
医療機関の指定等	19	救急センター	63
病院施設の概要	20	薬剤科	64
病院統計	23	診療放射線科	66
収支決算	23	看護科	69
診療科別入院患者数	25	2 A病棟	74
診療科別外来患者数	26	3 A病棟	76
新患患者数	27	3 B病棟	77
再診患者数	27	3 C病棟	78
地域別患者数の状況	28	4 C病棟	79
紹介患者数	29	外来部門	80
救急患者統計	30	手術室・中央材料室・洗濯室	82
部門報告	33	人工透析室	83
診療科	33	訪問看護センター	85
内 科	33	ME室	87
老年科	33	臨床検査科	92

食養科	94	電子カルテ委員会	146
健康管理センター	96	D P C 委員会	147
事務局	98	地域交流推進委員会	148
総務課	98	薬事委員会	150
医事課	105	衛生委員会	152
医療安全管理室	106	患者サービス向上委員会	153
医療情報管理室	111	広報委員会	154
地域医療連携室	112	診療記録開示審査委員会	155
医師事務支援室	114	年報編集委員会	156
委員会活動	117	個人情報保護委員会	157
リスクマネージャー委員会	117	医療ガス安全管理委員会	158
医療事故対策委員会	118	防災対策委員会	159
医療安全管理委員会	119	医療廃棄物管理委員会	160
倫理委員会	121	看護科の委員会	161
栄養管理委員会	123	教育委員会	161
N S T 委員会	124	看護研究委員会	163
褥瘡対策委員会	126	計画記録委員会	164
緩和ケアチーム委員会	128	固定チームナーシング委員会	165
救急センター運営委員会	129	師長主任会議	166
手術室運営委員会	130	主任会	167
糖尿病委員会	131	師長会	169
臨床検査適正化委員会	132	看護補助者会	170
図書委員会	134	学術研究業績	173
臨床研修管理委員会	136	同好会活動	177
臨床研修プログラム	138	野球部	177
治験委員会	141	バレーボール部	178
化学療法委員会	142	編集後記	179
病院教育委員会	143		
クリニカルパス委員会	144		
医療情報管理委員会	145		

沿 革

沿革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醜翻診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醜翻診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)
- 平成2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 平成3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 平成4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4～5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7～8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。
個室4床 201・218・367・420号室
2人部屋6床 350・321・422号室

- 平成5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 平成6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 平成7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定
「安心できる良質な医療の提供」
「心ふれあう人間味豊かな対応」
基本方針策定
「地域医療への貢献」
「患者サービスの充実」
「健全な病院経営」
運営方針策定
「急性期医療の充実」
「生活習慣病の予防」
「検診業務の拡大」
- 平成8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工
- 平成9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 平成10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 平成11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。
地域の人々に信頼される病院を目指します。
安心できる良質な医療の提供
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。
地域医療・保健に貢献します。
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行
- 3月25日～27日 病院機能評価受審
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生
- 11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催

- 2月10日 病院機能評価窓口相談
- 5月9日 新CT使用開始
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察
- 9月23日 閉市式 市民会館
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 10月1日 電子カルテ稼動
- 平成20年6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）
- 平成21年2月1日 増改築工事開始
- 3月6日 病院増築安全祈願祭
- 平成22年5月6日 新館オープンセレモニー
- 6月14日～7月2日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 7月5日～7月15日 秋大医学部3年次早期地域医療研修
- 12月2日 東北厚生局施設基準監査
- 12月5日 市民と集う看護フォーラム
- 平成23年5月12日～16日 釜石市災害医療応援派遣
(医師・看護師・PT等3人1チーム、延15人派遣)
- 5月31日 増改築工事竣工
- 6月1日 一般病棟入院基本料（7：1）承認
- 7月30日 増改築工事竣工式
- 9月1日 クレジットカード払い開始
- 11月6日 病院祭
- 平成24年3月31日 長山事業管理者退任

平成24年度の主な出来事

- 平成24年4月1日 辞令交付式
- 感染防止対策加算Ⅰ取得
- 患者サポート体制充実加算取得

4月2日～4日 新規採用職員研修
4月6日 禁煙外来開設
4月13日 病院歓送迎会（ラ・ポート）
5月27日 電気設備年次点検
5月8日～17日 県立衛生看護学院在宅看護論実習
5月28日～6月6日 県立衛生看護学院在宅看護論実習
6月1日 感染対策室の新設
6月20日～29日 県立衛生看護学院在宅看護論実習
6月28日 防災訓練（上期）
7月10日～20日 秋大医学部3年次早期臨床研修
7月11日 研修医マッチング説明会（秋田市）
7月15日 臨床研修病院合同説明会（東京都）
7月25日 ふれあい看護体験
8月1日 急性期看護補助体制加算取得
8月15日 盆踊り
8月18日 看護学生合同病院説明会（秋田市）
8月19日 職員採用試験（看護師・助産師・薬剤師）
8月24日 医療安全研修会（市役所 南庁舎講堂）
8月31日 企業会計決算特別委員会
9月8日 全県病院対抗バレーボール大会（秋田市）
10月4日・13日 研修旅行（平泉）
10月9日～18日 県立衛生看護学院在宅看護論実習
10月9日・23日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習
10月20日 研修旅行（仙北市）
10月24日 防災訓練（下期）
11月2日～13日 県立衛生看護学院在宅看護論実習
11月4日 糖尿病週間「講演会」
11月6日 地域医療連携セミナー
11月6日・20日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習
11月14日 市立横手・市立大森病院合同 感染管理研修会
（かまくら館 2Fホール）
11月16日 第14回コメディカル研究発表会
11月18日 市民と集う看護フォーラム
11月25日 第20回秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）
12月5日 保険診療に関する研修会
12月9日 職員採用試験（看護師・臨床検査技師）
12月21日 大忘年会（ラ・ポート）
12月23日 第19回白衣のクリスマスコンサート

平成25年 1月4日 年始式

1月11日・15日・17日 接遇研修

1月23日 医療安全研修会

2月8日 院内感染対策研修会

2月20日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）

3月10日 職員採用試験（看護師・作業療法士）

3月20日 臨床研修病院合同説明会（仙台市）

3月15日 病院送別会（横手セントラルホテル）

3月22日・28日～29日 退職者辞令交付式

基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。

病院の概要

病院の概要

開設者	横手市長 五十嵐 忠悦
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	丹 羽 誠
病床数	一般病床225床（第2A病棟39床、第3A病棟49床、第3B病棟44床、 第3C病棟47床、第4C病棟46床）、感染症病床4床、計229床
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、 産婦人科、泌尿器科、眼科、心療内科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、 耳鼻いんこう科（休診）
看護体系	患者2.5：看護1、患者7：看護補助1

医療機関の指定等

指 定	救急告示指定 地域医療センター病院 臨床研修病院指定施設 母性保護法指定設備医療機関
認 定	財団法人日本医療機能評価機構認定 運動療法施設基準承認施設（運動療法施設、作業療法施設） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設 日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設

病院施設の概要

敷地面積	8172.16m ²
建築面積	4793.60m ²

	構造	延面積(m ²)	完成年月日
本館 (A棟)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	5,130.66	昭和60年8月24日
新館 (B棟)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	6,389.99	平成4年7月31日
本館 (C棟)	鉄筋コンクリート造、地上4階、塔屋1階	4,524.95	平成22年4月15日
計		16,045.60	

病院統計

収支決算

貸借対照表

	平成 24 年度	単位:円
固定資産	5,034,172,160	
有形固定資産	5,033,144,580	
土地	387,443,919	
建物	3,577,510,996	
構築物	31,691,398	
器械及び備品	1,027,954,706	
車両	8,543,561	
建設仮勘定	0	
無形固定資産	1,027,580	
電話加入権	1,027,580	
流動資産	2,459,385,875	
現金預金	1,515,477,230	
未収金	902,788,071	
貯蔵品	41,120,574	
その他流動資産	0	
資産合計	7,493,558,035	
流動負債	185,026,675	
未払金	164,224,315	
預り金	20,802,360	
預り有価証券	0	
負債合計	185,026,675	
資本金	7,071,808,321	
自己資本金	3,378,665,153	
借入資本金	3,693,143,168	
企業債	3,693,143,168	
剰余金	236,723,039	
資本剰余金	57,285,000	
受贈財産評価額	0	
他会計負担金	57,285,000	
他会計補助金	0	
国県補助金	0	
利益剰余金	179,438,039	
減債積立金	18,400,000	
当年度未処分利益剰余金	161,038,039	
資本合計	7,308,531,360	
負債資本合計	7,493,558,035	

収益的収支決算（税抜き）

科目	平成 24 年度
病院事業収益	4,946,598,290
医業収益	4,611,886,829
入院収益	2,848,851,846
外来収益	1,496,480,124
その他医業	266,554,859
医業外収益	334,251,971
受取利息及び配当金	429,432
国県補助金	5,649,265
他会計補助金	5,861,100
他会計負担金	303,871,000
その他医業外収益	18,441,174
特別利益	459,490
病院事業費用	4,974,013,593
医業費用	4,906,869,155
給与費	2,789,311,914
材料費	1,090,331,310
経費	557,558,579
減価償却費	417,332,023
資産減耗費	32,588,255
研究研修費	19,722,474
重量税	24,600
医業外費用	66,865,068
支払利息及び企業債取扱諸費	66,074,262
雑損失	790,806
特別損失	279,370

単位：円

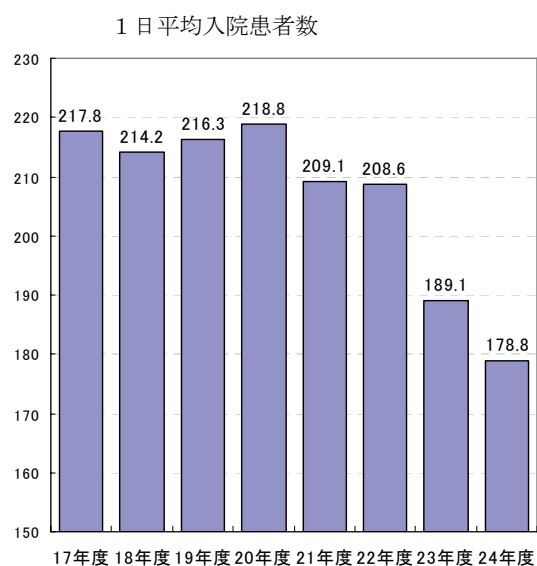
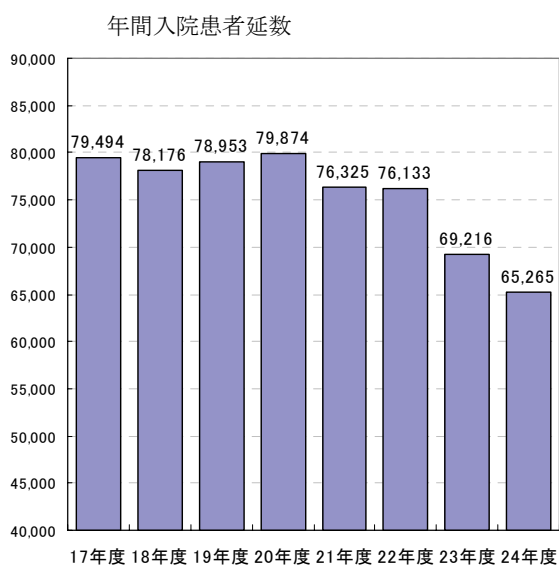
資本的収支決算

資本的収入	315,835,000
他会計出資金	114,835,000
企業債	201,000,000
固定資産売却代金	0
資本的支出	723,590,566
建設改良費	257,344,246
企業債償還金	466,246,320
差引収支不足額	△ 407,755,566
補てん財源	407,755,566
過年度分損益勘定留保資金	407,755,566

診療科別入院患者数

科	年間入院患者延数							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内科	7,668	7,929	8,256	3,174	2,345	2,331	2,520	2,577
呼吸器科	5,382	7,034	7,494	7,309	8,280	5,289	4,839	5,609
消化器内科	18,914	18,022	24,822	27,180	28,561	30,189	25,897	23,316
循環器内科	9,314	7,716	9,540	12,732	6,643	5,724	5,496	6,503
外科	11,851	14,397	13,653	13,981	12,718	12,220	10,849	9,638
整形外科	11,751	9,999	4,895	5,745	9,992	10,978	10,117	9,191
産婦人科	4,304	4,074	3,169	3,446	3,025	4,029	4,506	3,593
小児科	5,656	4,285	3,842	3,562	2,475	2,735	2,533	2,743
泌尿器科	4,654	4,720	3,282	2,745	2,236	2,535	2,350	1,991
麻酔科					50	103	109	104
計	79,494	78,176	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	65,265

科	1日平均入院患者数							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内科	21.0	21.7	22.6	8.7	6.4	6.4	6.9	7.1
呼吸器科	14.7	19.3	20.5	20.0	22.7	14.5	13.2	15.4
消化器内科	51.8	49.4	68.0	74.5	78.2	82.7	70.8	63.9
循環器内科	25.5	21.1	26.1	34.9	18.2	15.7	15.0	17.8
外科	32.5	39.4	37.4	38.3	34.8	33.5	29.6	26.4
整形外科	32.2	27.4	13.4	15.7	27.4	30.1	27.6	25.2
産婦人科	11.8	11.2	8.7	9.4	8.3	11.0	12.3	9.8
小児科	15.5	11.7	10.5	9.8	6.8	7.5	6.9	7.5
泌尿器科	12.8	12.9	9.0	7.5	6.1	6.9	6.4	5.5
麻酔科						0.3	0.3	0.3
計	217.8	214.2	216.3	218.8	209.1	208.6	189.1	178.8

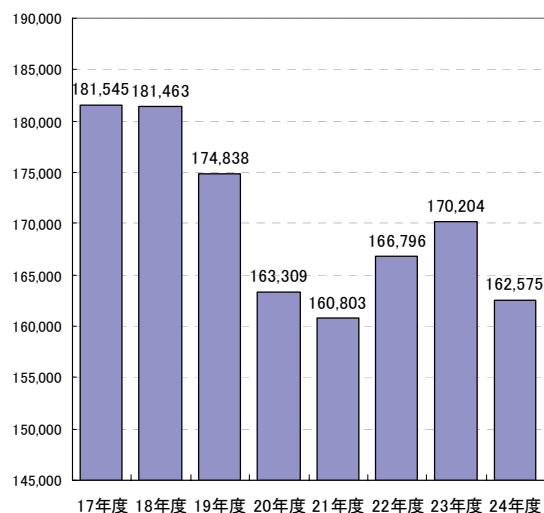


診療科別外来患者数

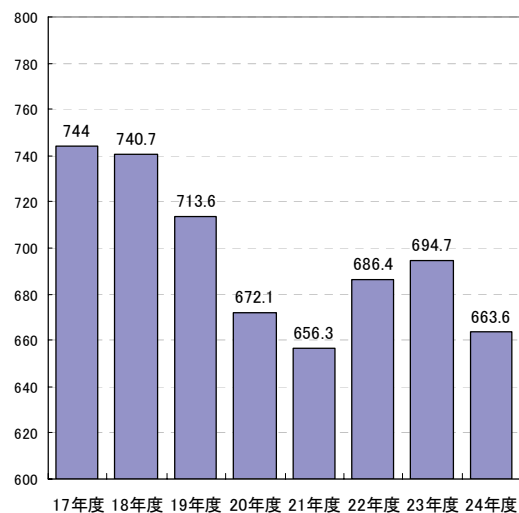
科	年間外来患者延数							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内科	41,620	41,654	46,973	43,193	43,365	42,841	42,030	39,805
呼吸器科	3,519	5,265	5,078	5,388	4,740	4,557	4,801	5,082
消化器内科	18,625	16,571	17,060	17,725	18,719	20,588	21,284	20,333
循環器内科	13,335	13,636	14,425	13,288	11,300	11,372	11,199	10,868
外科	14,647	15,565	15,473	15,050	14,432	15,292	16,662	16,008
整形外科	28,478	26,881	20,321	17,968	19,717	22,205	24,977	24,718
産婦人科	7,348	7,959	7,032	6,814	6,432	7,346	8,175	7,444
小児科	38,562	38,025	33,790	30,118	26,896	26,017	23,792	21,458
泌尿器科	14,224	14,640	13,377	12,557	13,330	13,746	14,437	14,030
眼科	1,187	1,267	1,309	1,208	1,571	2,070	2,095	2,125
麻酔科					301	762	752	704
計	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	124,317	162,575

科	1日平均外来患者数							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内科	170.6	170.0	191.7	177.7	177.0	176.3	171.6	162.5
呼吸器科	14.4	21.5	20.7	22.2	19.3	18.8	19.6	20.7
消化器内科	76.3	67.6	69.6	72.9	76.4	84.7	86.9	83.0
循環器内科	54.7	55.7	58.9	54.7	46.1	46.8	45.7	44.4
外科	60.0	63.5	63.2	61.9	58.9	62.9	68.0	65.3
整形外科	116.7	109.7	82.9	73.9	80.5	91.4	101.9	100.9
産婦人科	30.1	32.5	28.7	28.0	26.3	30.2	33.4	30.4
小児科	158.0	155.2	137.9	123.9	109.8	107.1	97.1	87.6
泌尿器科	58.3	59.8	54.6	51.7	54.4	56.6	58.9	57.3
眼科	4.9	5.2	5.3	5.0	6.4	8.5	8.6	8.7
麻酔科							3.1	2.9
計	744.0	740.7	713.6	672.1	656.3	686.4	507.4	663.6

年間外来患者延数



1日平均外来患者数



新患患者数（外来）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内科	753	916	817	936	881	852	808
外科	248	206	156	152	155	180	150
整形外科	568	281	239	289	428	379	398
婦人科	139	118	102	88	124	108	92
小児科	759	563	343	375	327	344	312
泌尿器科	76	62	46	42	64	59	60
眼科	2	4	0	7	7	7	11
心療内科	2	3	1	3	1	3	0
アレルギー・呼吸器内科	117	75	68	15	6	6	7
消化器内科	164	255	215	185	143	112	102
循環器内科	97	85	43	6	16	8	8
放射線科	9	4	19	11	62	19	16
人工透析	7	3	1	0	0	5	3
麻酔科（ ^h インクリニック）	0	0	0	8	6	5	1
合計	2,941	2,575	2,050	2,117	2,220	2,087	1,968

再診患者数（外来・延べ）

診療科	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内科	26,403	29,806	27,177	27,669	28,032	25,922	24,541
外科	12,327	12,296	11,934	11,599	12,184	13,118	12,459
整形外科	20,390	15,733	14,313	15,691	17,627	20,239	20,044
婦人科	4,628	4,308	4,220	4,314	4,752	5,564	5,287
小児科	26,551	21,882	19,795	16,592	16,582	15,020	13,432
泌尿器科	6,390	5,655	4,773	5,120	5,473	6,054	6,200
眼科	1,005	1,028	1,009	1,236	1,615	1,723	1,805
心療内科	803	1,674	1,467	1,518	794	1,300	1,023
アレルギー・呼吸器内科	3,945	4,065	4,407	3,987	3,898	4,000	4,322
消化器内科	13,567	13,764	14,594	15,399	17,003	17,331	16,620
循環器内科	10,700	11,440	10,961	9,476	9,354	9,024	8,821
放射線科	74	73	72	100	112	82	109
訪問看護センター	1,430	1,877	2,154	1,436	1,035	824	643
麻酔科（ ^h インクリニック）	5,167	5,932	6,312	239	642	637	619
合計	133,380	129,533	123,188	120,919	125,424	120,838	115,925

地域別患者数の状況

【入院】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
横手市	37,153	36,628	36,693	35,090	33,944	34,190	32,871	29,710	26,370
平鹿町	8,343	8,363	8,696	8,338	8,707	9,029	8,000	6,828	6,571
雄物川町	5,233	5,212	4,701	3,737	3,837	4,140	3,820	3,422	2,353
大森町	1,182	1,111	989	709	866	1,161	673	1,067	952
大雄	2,825	2,708	2,240	2,278	2,340	1,939	2,283	2,179	2,454
十文字町	5,713	5,697	5,489	6,519	6,782	5,614	6,482	5,759	5,703
増田町	2,759	2,799	2,609	3,922	3,964	2,535	3,015	3,090	3,003
山内	4,420	4,321	4,903	4,376	3,745	3,803	3,191	2,801	3,335
美郷町	4,506	4,397	1,591	1,868	1,513	1,250	323	743	994
湯沢・雄勝	4,878	5,056	6,479	8,651	10,576	8,620	9,009	8,941	8,056
大仙・仙北	924	941	1,930	2,347	2,564	3,057	3,326	3,045	3,584
湯田町	468	448	529	693	463	477	935	666	843
その他	2,486	1,813	1,527	425	573	510	2,205	965	1,047
合計	80,890	79,494	78,376	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	65,265

【外来】

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
横手市	98,831	98,943	93,178	88,798	80,959	78,338	79,024	81,530	76,465
平鹿町	19,662	20,179	19,055	17,941	16,359	16,239	16,547	16,888	16,087
雄物川町	10,211	10,369	10,501	9,809	8,606	8,533	8,878	8,686	7,886
大森町	3,297	3,300	3,118	2,809	2,663	2,401	2,315	2,522	2,486
大雄	6,115	6,223	6,481	5,792	5,711	5,339	4,782	4,814	4,581
十文字町	9,890	10,340	12,012	11,682	11,611	11,951	12,529	13,022	12,281
増田町	5,204	5,362	6,775	6,515	6,233	6,045	6,592	6,495	6,301
山内	7,664	7,734	7,392	7,001	6,173	6,006	5,903	5,836	5,865
美郷町	5,514	5,161	4,182	3,926	3,128	2,957	1,275	2,487	2,680
湯沢・雄勝	8,017	8,255	11,609	13,473	14,463	14,884	16,370	17,662	17,731
大仙・仙北	2,044	2,013	4,124	4,738	5,176	5,479	7,885	6,519	6,778
湯田町	803	838	764	820	840	773	1,018	1,131	1,210
その他	3,029	2,828	2,272	1,534	1,387	1,858	3,678	2,612	2,224
合計	180,281	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	170,204	162,575

紹介患者数（科別）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
内 科	321	316	167	165	175	147	172
消化器科	493	664	746	770	916	893	785
循環器科	149	188	130	124	136	143	188
呼吸器科	123	106	80	95	72	78	88
外 科	157	124	132	125	140	173	151
整形外科	356	248	246	315	332	421	394
婦人科	207	169	156	181	199	215	208
小児科	487	375	310	291	272	270	302
泌尿器科	110	69	112	89	99	97	119
眼 科	9	4	6	17	45	56	57
心療内科	4	20	9	9	12	6	3
麻酔科				20	15	15	13
放射線科	707	590	712	760	712	624	678
計	3,123	2,873	2,806	2,961	3,125	3,138	3,158

救急患者統計

救急患者数	救急車		その他		帰宅		入院		転送		その他		軽症		中等症		重症		死亡	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
18年度	16,186	647	15,539	94.4%	853	5.3%	21	0.1%	31	0.2%	15,302	94.5%	594	3.7%	259	1.6%	31	0.2%		
19年度	14,694	701	13,993	93.5%	896	6.1%	31	0.2%	35	0.2%	13,763	93.7%	584	4.0%	312	2.1%	35	0.2%		
20年度	12,070	680	11,390	92.8%	808	6.7%	32	0.3%	29	0.2%	11,232	93.1%	490	4.1%	318	2.6%	29	0.2%		
21年度	12,946	706	12,240	93.1%	821	6.3%	33	0.3%	35	0.3%	12,085	93.3%	486	3.8%	335	2.6%	35	0.3%		
22年度	11,241	882	10,359	82.8%	892	7.9%	27	0.2%	35	0.3%	10,314	91.8%	556	4.9%	336	3.0%	35	0.3%		
23年度	11,507	959	10,548	91.6%	873	7.6%	38	0.3%	50	0.5%	10,582	92.0%	577	5.0%	297	2.6%	50	0.4%		
24年度	11,404	893	10,511	90.9%	944	8.3%	37	0.3%	48	0.5%	10,361	91.3%	638	5.6%	307	2.7%	48	0.4%		

	内科	小児科	整形外科	外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	計
18年度	5,061	8,204	1,495	1,043	230	153	0	16,186
19年度	5,193	7,286	995	913	160	146	1	14,694
20年度	4,366	5,766	803	893	104	136	2	12,070
21年度	4,769	6,480	810	595	173	114	5	12,946
22年度	4,336	4,733	1,038	808	173	143	10	11,241
23年度	4,576	4,761	994	800	214	156	6	11,507
24年度	4,782	4,349	1,070	844	200	150	9	11,404

横手市内のみ

	横手市	増田町	平鹿町	雄物川町	大森町	十文字町	山内	大雄	計
18年度	7,176	805	1,702	951	377	1,366	774	673	13,824
19年度	6,702	720	1,564	795	273	1,235	674	535	12,498
20年度	5,288	575	1,342	656	192	1,112	564	447	10,176
21年度	5,791	632	1,392	695	249	1,181	605	438	10,983
22年度	5,165	497	1,201	571	147	1,016	488	369	9,454
23年度	5,213	543	1,212	581	147	990	561	348	9,595
24年度	5,242	536	1,233	460	148	990	505	373	9,487

部門報告

部 門 報 告

診療科

内 科

老 年 科

平成24年度の糖尿病・内分泌分野の診療は、（月曜日）清水、（火曜日）細葉、（木曜日）佐藤が引き続き担当させて頂いた。1日の平均再来数は40～60名程度であるが糖尿病患者に関しては高齢化が進んでおり、合併症が進行した患者も多くなっている。このため、新規透析導入をお願いする患者数も増加してきている印象である。

診療疾患は、糖尿病、高血圧、脂質異常症が大部分で、次いで甲状腺疾患、副腎、下垂体等の内分泌疾患の順となっている。最近は、二次性高血圧の鑑別で原発性アルドステロン症が疑われ、外来で負荷試験を行うケースが増えたため、外来スタッフ及び検査室にご協力頂き、スムーズに外来で内分泌疾患の負荷試験を行うことができるように体制を整えて頂いた。また、原発性副甲状腺機能亢進症、下垂体疾患、副腎不全などその他の内分泌疾患のご紹介も年々増加してきており、静脈サンプリング等さらに精査が必要な場合は秋田大学にて行っている。

当院に常勤医師がいないため、本年度も糖尿病ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群等の緊急入院等、消化器内科の先生には大変お世話になった。現在は外来のみではあるが、専門医の診察が必要な重症患者や新患者にできるだけ多く対応し、地域医療に貢献できるように努力していきたい。

<文責 細葉美穂子>

脳神経内科

スタッフ：医 師 塩屋 齊
外来診察助手 佐藤陽子

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来
火曜日（午後）・・・脳ドック
水曜日（午前・午後）・・・頭痛外来
木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来
金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成24年度頭痛初診患者数：総計675人（男性192人、女性483人）

片頭痛： 485人（男性116人、女性369人）

緊張型頭痛：108人（男性 29人、女性 79人）

群発頭痛： 22人（男性 20人、女性 2人）

神経痛： 57人（男性 19人、女性 38人）

副鼻腔炎： 13人（男性 8人、女性 5人）

その他（くも膜下出血、脳出血、脳腫瘍、他）：21人

上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は47人で全体の7.0%を占めていた

平成24年度疾患別入院患者数：総計74人

脳梗塞： 55人

一過性脳虚血発作： 1人

脳出血： 8人

くも膜下出血： 2人

脳挫傷、急性硬膜下血腫： 2人

脳腫瘍： 1人

ウイルス性脳炎： 1人

神経痛発作： 1人

てんかん発作： 2人

急性心膜炎： 1人

「講演・学会発表」：

平成24年2月10日（金）

第一三共株式会社 社内教育講演会

「慢性頭痛の診断と治療：使用する薬剤とその選択」

横手市交流センターY2（わいわい）ぷらざ

平成24年7月21日（土）

秋田頭痛治療ネットワーク講演会 総合司会
一般講演「頭痛診療の問題点」
特別講演「静岡県における頭痛医療連携の取り組み」
イヤタカ

平成24年12月9日（日）
日本頭痛学会講演「第四回 頭痛の達人養成塾」オーガナイザー
「『羊の皮を被ったオオカミ』頭痛」
東京ステーションコンファレンス

<文責 塩屋 斉>

消化器科

消化器内科医師

船岡 正人	
藤盛 修成	
奥山 厚	
武内 郷子	
荒田 英	(後期研修医 3年目)
鈴木 優響	
中島 裕子	(週 2 回腹部超音波検査担当)
佐藤美知子	(週 1 回腹部超音波検査担当)
渡部 昇	(週 1 回内視鏡検査担当)

平成24年4月～後期研修医の渡部先生と木下先生が秋田大学第一内科および北海道消化器科病院へ移動した。渡部先生には週1回内視鏡の手伝いをしていただいている。日常業務はさらに大変になったが、若手の鈴木優響先生と、秋田大学からのたすきがけ研修医石岡先生が急成長し、何とか1年無事に乗り切ることができた。二人とも平成25年度は秋田大学第一内科にもどるが、消化器内科としてのセンスがすばらしく、今後の成長を期待したい。ぜひまた横手病院にもどってきて欲しいと思う。

内視鏡検査数は前年度に比し全般にごくわずかだが減少した。C型慢性肝炎に対する3剤併用療法は6名の患者さんに対して開始した。消化器疾患のほぼ全てに対応可能であるが、マンパワー不足の感は否めない。学会発表もなかったため、次年度はがんばりたい。

平成 24 年度の内視鏡検査件数

上部消化管内視鏡検査 (総数)	6208
胃粘膜下層剥離術・粘膜切除術	75
食道粘膜下層剥離術	21
胃瘻造設術	43
食道静脈瘤硬化療法	25
ERCP	11
EST・胆道ステント留置	66
大腸内視鏡検査 (総数)	2266
粘膜切除・ポリープ切除術	510
計	8474

<文責 船岡正人>

循環器科

スタッフ

常勤医師

循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

高木 遥子 (平成23年4月1日から 現在在職中)

検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

大嶋 聡子 (生理検査室)

外来診察助手(循環器科担当)

金子 洋子

佐藤 陽子

検査 (平成24年4月1日から平成25年3月31日)

心臓カテーテル検査	25件
心臓超音波検査	1749件
頸動脈超音波検査	323件
ホルター心電図	330件
トレッドミル	10件
24時間心電血圧計	14件
ペースメーカー植え込み	12件 (新規 8、交換 4)
下大静脈フィルター留置	0件
血圧脈波検査	294件

循環器科は、根本・和泉・高木の3人体制となって、2年めである。高木が火曜日の心エコーを担当、心臓カテーテル検査でも穿刺に始まり、カテーテル操作を行うまでに成長し、根本と二人で検査を行うことができるようになってきた。入院は根本とのチームではあるが、循環器科の一員として戦力になってきている。

毎年の事ながら、循環器科の若返りを図りたいところではあるが、大学も人数が少なく、実現は厳しそうである。

仕事内容としては、大きな変化はなく、入院患者は高齢者の心不全を中心であり、年々、患者平均年齢は上がっている印象である。そのため、合併症も多く、入院期間が長くなる傾向にある。退院しても、すぐに再入院してくるケースも多く、主治医としては頭の痛いところである。

<文責 和泉千香子>

呼吸器科・アレルギー科

<診療内容の概要>

現在、火曜日は秋田大学からの応援医師（玉木真美）が外来を担当しています。また、金曜日は鈴木（朋美）医師が午前は成人のアレルギー外来を、午後は小児科において減感作療法を用いた小児アレルギー外来を担当しています。

しかし現在、当科常勤医がおらず、患者様、地域の先生方には大変ご迷惑おかけしており、お詫び申し上げます。

<特徴・特色>

気管支喘息などアレルギー疾患はストレスにより増悪する（心身相関する）という報告が多数あり、また呼吸器科においては、過呼吸症候群、原因不明の胸苦など、心療内科的・緩和医療的アプローチが非常に重要となってきました。当科では問診・症状によって心療内科的アプローチが必要と考えられた症例には積極的に心理テストを行い、心身症、神経症、うつ病等の鑑別を行い、心身両側面から診断・治療を行うよう心がけています。

心療内科

心療内科は毎週火曜日、金曜日と診療を行っている。完全予約制で、スタッフは医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制で行っている。

平成24年度は4月1日から、外部からの新規の外来患者受付は停止している。ただし、入院病棟および外来担当医を介しての新規外来患者の受け付けは、相談により受けることが多い。

火曜日・金曜日とも、榊田理恵が外来を担当している。外来のほか依頼を受けて入院でも診療している。子どもの心療内科、ということで、やはり15歳以下の子どもの受診は多い。状態・疾患では、不登校が最も多く、他に発達障害（自閉症など）、となっている。「子どもの心療内科」と標榜しているが、診療は多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。受診人数は約10～20人／日である。一人につき30分を目安としているが、初診の場合特に1時間は超えることが多い。また、看護師との役割分担においても、看護サイドの受容的かかわりにより、受診している患者さんたちの自己治癒力が引き出されている。隣接する精神科病院の興生病院の協力も得て臨床心理士によるカウンセリングの導入されており、子供の場合著効がみられており、今後も継続する方針である。火曜日、金曜日に臨床心理士によるカウンセリング、箱庭療法、プレイセラピーなどを定期的に行っている。

<文責 榊田理恵>

外科

総括

消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。伊勢医師の当院への移動により内視鏡外科手術症例の増加が期待された。

スタッフ

常勤

- ・丹羽 誠 (S55秋田卒) 院長
- ・吉岡 浩 (S59自治卒)
- ・粕谷 孝光 (S63秋田卒)
- ・加藤 健 (H6秋田卒) 平成24年8月から本荘第一病院外科に移動
- ・伊勢 憲人 (H9秋田卒) 平成24年8月に秋田大学消化器外科学講座から移動
- ・本郷麻依子 (H20秋田卒) 外科専門研修3年目

専門医修練認定施設関係

- ・日本外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設

人事動向

- ・丹羽 院長には乳腺の大部分の手術に携わっていただいた。平鹿病院の乳腺外来縮小に伴い乳腺外来数・乳腺手術数が増加した。また、多忙にもかかわらず外科診療については引き続き御指導いただいた。
- ・本郷医師は3年間の外科専門研修3年目に入り、積極的に難易度の高い手術の経験も積んだ。
- ・加藤医師が平成24年8月から本荘第一病院外科に移動し、伊勢医師が秋田大学消化器外科学講座から当院勤務となった。伊勢医師は内視鏡外科手術の技術認定医で、内視鏡外科手術症例の増加が期待された。
- ・臨床研修医の外科研修は、本年度はなかった。

診療関係

- ・リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高貝先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC高橋美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。
- ・専門外来の乳腺外来は、週2回完全予約制も軌道に乗り、丹羽院長が担当した。前述したように確実に患者さんの増加もあり手術症例の増加につながったと思われる。センチネルリンパ節生検も標準術式となり、これは平鹿病院病理診断科の御協力があることである。
- ・平成21年に待望していた麻酔科常勤医寺田先生(麻酔学会指導医)を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。横手市梅の木クリニック松元茂先生には月間6～7日の午後からの麻酔にご協力をお願いした。また、秋田大学生理学講座、柴田先生には毎週(木)の麻酔を担当いただ

いた。平成24年9月から本郷修平医師が麻酔科・専門研修に従事となった。寺田先生・松元先生・柴田先生・本郷先生の御協力によって、手術症例が増えるなかでもスムーズに手術が行える体制をしいていただいた。

- ・肺悪性で縦隔郭清を前提とする症例の手術では、秋田大学呼吸器外科小川教授に御指導を頂いた。
- ・消化器癌、乳がん化学療法選択枝増大に伴い、オーダーリングでの標準化、パスの整備を行った。また、薬剤師の積極的関与が進み、診療の質の向上に貢献している。
- ・DPC診療体制にあわせたパスの整備、退院調整に努めた。
- ・小川感染管理認定看護師と協力し、昨年に引き続きSSIサーベイランスを日常業務とした。
- ・病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週1回金曜日午後のカンファランスを丁寧に行うように務めた。

<文責 吉岡 浩>

2012年 手術件数

		件数	備考
食道悪性疾患		3	
胃十二指腸悪性疾患	胃全摘	20	腹腔鏡下手術 2 を含む
	幽門側胃切除	24	腹腔鏡下手術 7 を含む
	幽門保存胃切除		
	噴門側胃切除	2	腹腔鏡下手術 1 を含む
	その他	3	腹腔鏡下手術 1 を含む
胃十二指腸良性疾患		5	腹腔鏡下手術 3 を含む
小腸悪性疾患		1	
大腸悪性疾患	結腸切除	32	腹腔鏡下手術 10 を含む
	直腸切除	19	腹腔鏡下手術 10 を含む
	直腸切断	9	腹腔鏡下手術 2 を含む
	その他	6	
腸良性疾患		21	
肝悪性疾患	2 区域切除以上	1	
	区域切除		
	部分切除		
	FRA	3	腹腔鏡下手術 2 を含む
	その他		
肝良性疾患			
胆嚢悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除		
	その他		
胆管悪性疾患	肝切除	1	
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除	4	
	その他	1	
胆道良性疾患		2	

胆石症		37	腹腔鏡下手術 33 を含む
膵悪性疾患	膵頭十二指腸切除	3	
	膵体尾部切除	1	
	膵全摘		
	その他		
膵良性疾患	膵炎手術		
	その他		
虫垂炎手術		26	腹腔鏡下手術 23 を含む
ヘルニア手術	鼠径ヘルニア	62	小児 9 を含む
	大腿ヘルニア	1	
	閉鎖孔ヘルニア	1	
	臍ヘルニア	1	
	腹壁癒痕ヘルニア	1	
肛門良性疾患		21	
その他		101	
計			

呼吸器疾患	肺	8	
	縦隔		
	横隔膜		
乳腺疾患		31	
甲状腺疾患		3	

学会発表

全国

第85回日本超音波医学会学術集会、 5月、 東京

本郷麻依子、長沼裕子、石田秀明、吉岡 浩、粕谷孝光、加藤 健、丹羽 誠
 USで術前診断できた胆嚢穿孔の1例

第50回日本癌治療学会学術集会、 10月、 横浜

粕谷孝光、加藤 健、吉岡麻依子、吉岡 浩、丹羽 誠

Capecitabine/Cisplatin 併用療法を施行後根治切除し得た StageIV胃癌の一例

整形外科

スタッフ

平成24年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

鈴木 真純

看護師：小野ゆう子

谷藤 文子

清水まゆ美

事務：藤原真喜子

概要、平成24年度特記事項、業務内容

【外来】

H. 24年4月より佐々木研医師と交代で鈴木真純医師が大学医局より派遣され、常勤医3名体制で業務が行われることとなった。若手の医師であり当初とまどう場面もみられたが、すぐに業務をこなせるようになった。

外来患者数 2032人/月、101人/日、紹介率 16.6%であった。

【入院】

入院患者総数 8861人/年、25人/日、平均在院日数は18.6日であった。昨年より手術件数も減少したが、外傷手術の多い1年だった印象である。

手術件数

総数	371
----	-----

脊椎	105
----	-----

腰椎 ヘルニア切除術 30

開窓術 33

PLIF 20

胸椎 4

頸椎 拡大術 10

その他 7

上肢帯	28
-----	----

骨接合術 15

肘部管開放術 4

その他 9

手	82
---	----

骨接合術	32
ばね指	15
手根管開放術	18
その他	4

股関節	63
-----	----

T H A	8
人工骨頭置換術	15
骨接合術	37
その他	3

膝関節	27
-----	----

T K A	11
その他	16

下腿、足部	58
-------	----

骨接合術	37
アキレス腱縫合	8
その他	13

H. 24. 4月より秋田大学より佐々木研医師の移動に伴い、市立秋田総合病院より鈴木真純医師が着任し、常勤医3名での診療となった。

鈴木医師は持ち前のバイタリティと若さで積極的に仕事をこなし、それに引っ張られるように外傷の症例が増えていった。鈴木医師を指導した富岡医師の努力に拠るところも大きいですが、新しいブロック麻酔の方法を確立し県内にも広まっていった。

四肢の外傷症例はいつも飛び込みでやってくるため、ブロック麻酔で手術できる体制を築けたことは手術予定を円滑に進めていく上で非常に重要となった。

病診連携によりできるだけ外来患者を縮小していくことが世の中の流れとなっている。外来診療による負担をできるだけ減らして、手術症例・診療所からの紹介患者・救急症例に対応できる時間的余裕を作ることが、整形外科に求められている社会的な使命と考えている。

<文責 江畑公仁男>

小児科

Staff 医師：常勤 小松 明
 非常勤 小山田 遵（第1、3月曜日午前中、～H24.8月）
 岡崎三枝子（毎週水曜、H24.9月～）
 看護師：石田亜希子、渋谷 美紀
 事務：高橋 香里、梅川 素子（～H24.11月）、鈴木亜季子（H24.12月～）

外来

診療時間：午前8時30分～、午後14時～ 内容：表-I～IVを参照。

表-I：外来診療内容

	午 前	午 後
月	一般診療	検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン）
火		乳児健診
水		予防接種
木		1、3週 乳児健診
金		慢性外来

表-II：各外来患者数

	一般外来	乳児健診				予防接種	慢性外来	合計
		1か月	7ヶ月	10ヶ月	その他			
H24/4月	1590	31	11	13	1	244	101	1991
5月	1210	35	2	19	0	292	110	1668
6月	944	34	4	11	1	242	111	1347
7月	915	30	8	11	0	250	117	1331
8月	1425	23	7	10	0	292	137	1894
9月	1394	29	11	11	0	214	95	1754
10月	1514	33	7	11	1	480	124	2170
11月	1237	24	9	8	0	653	163	2094
12月	1403	23	8	14	1	591	136	2176
H25/1月	1230	32	5	11	0	339	116	1733
2月	1270	21	10	18	0	228	111	1658
3月	1168	42	8	12	2	270	140	1642
合計	15300	357	90	149	6	4095	1461	21458

表-III：予防接種内訳

DPT	409	おたふく	89
四混	85	水痘	66
不活化ポリオ	350	B型肝炎	39
MR	252	インフルエンザ	1045
BCG	117	ロタ	53
日本脳炎	494	肺炎球菌	558

BCG	117		ヒブ	531
DT	6		合計	4095

- * 一日平均患者数 約58.8人（土、日、祝日も含む）。前年比 -2.4人。
- * 外来患者総数 21458人。前年比 -2334人。
- * 一般外来患者総数 15300人。前年比 -2202人。
- * 乳児健診受診総数 602人。前年比 -8人。
- * 予防接種総数 4095回。前年比 -59人。
- * 慢性外来患者総数 1461人。前年比 -62人。

表-IV 医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介			当院から紹介	
朝日ヶ丘レディースクリニック	178		高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	94
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	52		条里プラタナス耳鼻科	26
条里プラタナス耳鼻科	13		平鹿総合病院 小児科	18
しおたこどもクリニック	13		平鹿総合病院 耳鼻咽喉科	2
醍醐クリニック	10		佐野耳鼻咽喉科医院	19
岡田小児科医院	7		阿部耳鼻咽喉科医院	11
平鹿総合病院	4		秋田大学附属病院小児科	10
千葉小児科医院	4		すずき皮膚科医院	6
市立大森病院	2		雄勝中央病院 耳鼻咽喉科	4
仙南診療所	2		雄勝中央病院 小児科	1
雄物川クリニック	2		中通総合病院 小児科	2
			中通総合病院 耳鼻咽喉科	1
			守口耳鼻咽喉科医院	3
			秋田県立医療療育センター	3
			山田眼科医院	2
			仙台医療センター	2
			東北労災病院	2
他 医療機関	15		他 医療機関	19
合計	302		合計	225

昨年度に比し、他院からの紹介は32件増、当院からの紹介は52件減。

病棟（入院）

4 C病棟（整形外科との混合病棟、定床14床）。新生児入院は2 F新生児室にて管理。

表－V：疾患別入院数

		患者数	
感染症	気管支炎・肺炎等 1)	275	538
	上気道炎 2)	43	
	喉頭炎	29	
	腸炎 3)	136	
	歯肉・口内炎 4)	20	
	中耳炎	14	
	髄膜炎・脳炎 5)	3	
	インフルエンザ 6)	10	
	その他 7)	8	
気管支喘息		21	
精神・神経系	熱性けいれん	0	5
	無熱性けいれん	5	
	その他	0	
周産期	新生児一過性多呼吸 など 8)	7	
川崎病		3	
代謝・内分泌系 9)		9	
その他 10)		19	
合計		602	

総入院数は 602人、前年比 +70人。

- 1) RSV感染症 54例、マイコプラズマ肺炎 75例を含む。
上咽頭培養で起因菌が検出されたものは、インフルエンザ桿菌 21例、肺炎球菌 6例、モラキセラ・カタラーリス 9例。
- 2) 溶連菌感染症 5例、アデノウイルス扁桃炎 1例を含む。
- 3) ロタウイルス感染症 61例、ノロウイルス感染症 4例、アデノウイルス腸炎1例、O-165感染症～HUS 1例、カンピロバクター感染症 2例、エルシニア感染症 2例、サルモネラ感染症 1例、を含む。
- 4) 手足口病 12例、ヘルパンギーナ 2例、ヘルペスウイルス感染症 3例を含む。
- 5) 起因ウイルス不明の髄膜炎 2例、ADEM 1例。
- 6) インフルエンザA 7例、B 3例。
- 7) 敗血症 1例、顔面蜂窩織炎 1例、水痘 1例、帯状疱疹 1例、流行性耳下腺炎 1例、尿路感染症 1例、伝染性単核症 1例、SSSS 1例を含む。
- 8) 哺乳不良 1例、仮死 3例、TTN 3例。
- 9) GH 分泌負荷試験 7例、周期性ACTH・ADH放出症候群 2例。
- 10) 特発性血小板減少性紫斑病 2例、アレルギー性紫斑病 3例、逆流性食道炎 1例、腸重積 3例、急性虫垂炎 1例、腸間膜リンパ節炎 4例、食物アレルギー 3例、蕁麻疹 1例 肝腫瘍 1例。

表－VI：年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0－1才	68	57	125
1－2才	65	56	121
2－3才	38	41	79
3－4才	20	26	46
4－5才	14	19	33
5－6才	24	13	37
6－8才	25	23	48
8－10才	20	26	46
10－12才	19	19	38
12－14才	7	10	17
14才～	7	5	12
合計	307	295	602

院外活動

明照保育園（園医）

県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診

ももの家講話

最後に

マイコプラズマ肺炎が猛威を振るい、季節感のないRSVが流行した1年であった。秋田県初となる、O-165感染症を経験したり、ADEM～MSと発展する重症児もあり、いずれも秋田大学へ搬送、加療していただいた。いつものことながら搬送先の先生方にはご迷惑をおかけし、恐縮至極である。今後とも当科を見捨てず、宜しくお願い致します。

<文責 小松 明>

小児アレルギー科

平成24年5月より市立横手病院にて、金曜午後の小児科外来内でアレルギー疾患（主に食物アレルギー）を担当させて頂くことになりました。食物アレルギー児が増加する中、少しでもお役に立てればと思っております。来年度からは院内の体制を整え、日帰り入院での食物負荷試験にも対応していく予定です。よろしくお願い致します。

<文責 鈴木朋美>

産婦人科

平成24年度の産婦人科は2年間勤務された佐々木満枝先生に代わり、2年ぶりに滝澤淳先生が平鹿総合病院より戻ってきました。産科スタッフには新しく加わったメンバーはいませんでした。

満枝先生がいる間は大きな手術がとても多く、分娩数も2年目に大幅に増加しました。忙しい中をよく乗り切ってくれたと思います。

以前のメンバーに戻り、特に女性医師がいなくなったせいでぐっと暇になるかと思いましたが、分娩数はそれほど減らさずに済みました。逆に手術は数も内容も、かなり減少した印象があります。科としては特に目新しいことはありませんが、数年前より少しずつ行っていた外来化学療法はかなり軌道に乗ってきたと思います。

今後も、産婦人科には厳しい環境が続くと思いますが、需要がある限りはがんばっていきたいと思います。

<文責 畑沢淳一>

平成24年度手術件数

手術件数 140件（全身麻酔90件）

腹式子宮全摘術(筋腫)	6	試験開腹術	1
腹式子宮全摘術(腺筋症)	1	開腹卵巣手術	1
腔式子宮全摘術(筋腫)	2	卵管留膿腫手術	1
腔式子宮全摘術(腺筋症)	1	腹腔鏡下卵巣嚢腫手術	17
腔式子宮全摘術(異形成)	3	腹腔鏡下内膜症手術	2
腹腔鏡検査→腔式子宮全摘	1	腹腔鏡下筋腫切除	3
子宮脱手術	13	腹腔鏡下子宮外妊娠手術	1
腔壁形成	2	腹腔鏡下ドレナージ	1
腔癒着切除	1	止血術	1
腔閉鎖術	1	子宮鏡検査	14
腹腔鏡下卵巣嚢腫切除+子宮脱	1	レゼクト(筋腫)	1
子宮頸部円錐切除術	10	レゼクト(内膜ポリープ)	1
子宮筋腫核出術	3	内膜生検	1
筋腫分娩切除	2	コンジローマ焼灼術	1
頸管ポリープ切除	2	バルトリン腺嚢胞造袋術	1
子宮頸癌(広汎子宮全摘術)	1	帝王切開術	21
子宮体癌(廓清あり)	3	流産手術	6
子宮体癌(廓清なし)	3	人工妊娠中絶術	3
子宮体癌再発病巣切除	2	流産手術+卵管結紮	1
卵巣癌(廓清あり)	2		
卵巣癌(廓清なし)	1		

分娩数 164件

自然分娩	115件
圧出分娩	8件
吸引分娩	10件
鉗子分娩	7件
骨盤位牽出	2件
帝王切開	22件（双胎1件を含む）

眼 科

<スタッフ>

医 師： 岩川 雅哉（月曜日）、阿部 早苗（木曜日）、早川 真弘（金曜日）

視能訓練士： 高橋千佳子（月曜日、金曜日）、山上 薫（木曜日）

看 護 師： 千田真理子、畠山 裕子

事 務： 高橋 朋子（月曜日）、藤原真喜子（木曜日）、佐藤 昌子（金曜日）

平成24年度の眼科の診察は、昨年度に引き続き週3日体制で行いました。1日の平均再来患者数は15名から20名程度でした。原則として、患者さんには事前に予約をしていただき、時間通り診察するよう努めました。ただし、急患に関してはこの限りではなく、診療時間内であれば即日診察をさせて頂きました。診療疾患は、ドライアイ、白内障、緑内障などが多い印象でした。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術、眼瞼痙攣・片側顔面痙攣に対するボトックス®注射、霰粒腫切開などの処置も行いました。院内の先生からは、主に糖尿病および高血圧症患者さんの眼底検査で当科をご紹介いただきました。

診療以外には、検診の眼底写真判定も行いました。疫学調査によって、40歳以上の日本人の20人に1人が緑内障であることがわかっており、さらに緑内障は日本人の失明原因の第1位であります。当院での検診で緑内障を疑われて当科を受診され、緑内障が早期に見つかった患者さんもいらっしゃいました。緑内障は慢性疾患であり、患者さんが根気強く治療を続けていくためにも、視野検査の結果や点眼治療の効果などわかりやすく説明するようにしています。

さて、今年度の最も大きな変更点は、視能訓練士が加わったことでした。視能訓練士とはご存知の方も多いとは思いますが、「視能訓練士法」という法律に基づく国家資格をもった医療技術者で、視力を始めとする眼科検査のスペシャリストです。眼鏡やコンタクト合わせはもちろんのこと、斜視・弱視の治療の際には欠かせない存在です。視能訓練士が加わったことで、診察の質もこれまで以上にパワーアップしたと自負しています。

来年度は現在の診療体制に加え、新たに白内障手術が始まります。患者さんの QOV (Quality of Vision) 向上のため、スタッフ一同頑張りますので、引き続きよろしく願いいたします。

<文責 阿部早苗>

泌尿器科

<スタッフ>

医 師： 伊藤 卓雄
外来看護師： 藤坂マリ子
外 来 事 務： 三浦 君子
入 院： 主に 3 B 病棟

<平成24年度特記事項>

診療体制としては前年度から大きな変化はなかった。
引き続き伊藤の医師一人体制で泌尿器科診療・透析診療を担当した。
医療機器の新規導入・更新はなかった。

<日常業務>

外来診療は月曜から金曜までの毎日午前。
検査・手術等は不定期で午後に施行。
透析は月曜から土曜日まで午前・午後・夜間（月水金のみ）の3部制、祝祭日関係なく稼働。

<概要>

外来： 例年通り、排尿障害、尿路結石、尿路悪性腫瘍、末期腎不全、等々の尿路一般疾患を広く診療した。
入院： 手術例や前立腺生検例が主であった。入院日数が短期になるのは前述のような患者の特性であると思われる。
手術： 経尿道手術（TUR）、透析シャント手術を主に施行した。前立腺全摘や鏡視下手術も秋田大学泌尿器科教室医師に応援いただき施行した。尿管結石をはじめとする尿管鏡手術適応例は他院に紹介した。

<総括>

医師一人体制での診療のため様々な制限が避けられない中、外科をはじめとした他科の先生方やスタッフの皆さんに支えていただきながらなんとかやっているのが実情です。当面はマンパワーの改善はなさそうですが、現状なりに、それでも向上心を忘れずに、より良い泌尿器科医療が提供できるように努めて参ります。

放射線科

スタッフ

常勤医師 : 泉 純一
非常勤医師 : 平野弘子
応援医師 : 秋田大学放射線科より随時

特記事項

MRI機種は平成23年2月14日よりGE社製1.5T機種(HDxt 1.5T ver.16)を、CT機種は平成17年5月よりBrilliance CT 40(Philips社)を、また血管造影システムは平成20年10月よりBransist Safire(SHIMADZU社)を継続使用している。

業務内容

平成24年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT6526件、MRI1982件、単純写真7424件であった。院内診療科からの依頼による単純写真読影件数は638件で、このうち胸部単純写真が630件であった。造影CT検査のうちCT angiography(CTA)が168症例に行われ、さらにCTAのうち冠動脈CTが95件であった。またCT colonographyは28人に施行されている。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT315件、MRI349件で、昨年度よりそれぞれ41件、8件増加していた。また単純写真件数は19件であった。他施設依頼CT、MRIは、各々読影件数全体の4.8%、17.6%を占めていた(表1)。

CT/MRIには画像診断管理加算2が、単純写真には画像診断管理加算1が算定されている。

血管造影検査は42件で、ほとんどがIVR目的であった。内訳は、肝腫瘍に対するTACEが34件、重症膵炎に対する動注用カテーテル留置が2件、胃静脈瘤に対するBRTOが1件、腹部外傷および消化管出血に対する止血目的としての塞栓術がそれぞれ1件、胆管癌に対する術前門脈塞栓が1件、肝癌に対する動注1件、結果的に撮影のみで終了した例が1件であった。

検診業務としては、脳ドックが181件、胸部単純写真読影が6786件、CTによる内臓脂肪量測定が51件、肺がん検診が25件であった(表1)。

表2に過去5年間の検査・読影件数の推移を示す。

<文責 泉 純一>

表1:平成 24 年度 検査・読影件数

検査		件数	%
CT	総計	6526	100.0
	病診	315	4.8
	CT angiography	168	2.6
	CT coronary angiography	95	1.5
	CT colonography	28	0.4
	健診内臓脂肪	51	0.8
	健診肺 CT	25	0.4
MRI	総計	1982	100.0
	病診	349	17.6
	健診脳ドック	181	9.1
単純写真	総計	7424	100.0
	健診	6786	91.4
	病診	19	0.3
血管造影	総計	42	100.0
	TACE	34	81.0
	その他の塞栓	3	7.0
	動注用カテーテル留置	2	4.8
	撮影のみ	1	2.4
	BRT0	1	2.4
	動注のみ	1	2.4

表 2:放射線科で施行された年度別読影件数

年度	CT	MRI	単純写真	血管造影
平成 20 年度	6592	1538	5851	23
平成 21 年度	6469	1546	6401	28
平成 22 年度	6994	1815	6904	34
平成 23 年度	6765	1800	7210	33
平成 24 年度	6526	1982	7424	42

麻 醉 科

スタッフ

常 勤：寺田 宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅の木ペインクリニック）

柴田 繁啓（秋田大学生理学講座）ほか

業務内容

1. 手術での麻酔または検査での麻酔

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔
件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。

2. 外来（ペインクリニック）

平成21年6月から開設。月・水・金曜日午前

治療対象

○帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

○顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

○腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、
圧迫骨折、頰肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会
陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性委縮症などのうち手術の対象
にならないもの）

○けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

○まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に变な方向を向い
てしまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

実績

新規患者数 50 名、延べ患者数 708 名。疾患別内訳は、筋骨格系疼痛が 402 例、帯状疱疹痛が 164 例、顔面の激しい痛みを生じる三叉神経痛は 84 例である。そのほかの神経障害性疼痛の診療 46 例や顔面痙攣のボツリヌス毒素などによる治療 10 例も行った。治療内容の内訳は、腰下肢痛や体幹の帯状疱疹に対して行う硬膜外ブロックが 86 件、星状神経節ブロックが 8 件、三叉神経ブロックが 16 件（ガッセル神経節ブロックの高周波熱凝固治療を含む）、神経根ブロック及び末梢神経ブロック 58 件、その他のブロック治療 122 件、イオントフォレーシスを含む薬物治療 418 件などであった。

<文責 寺田宏達>

リハビリテーション科

I. リハビリテーション科・組織

江畑公仁男	(副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科長)
小田嶋尚人	(技師長) 理学療法士
高橋 貞広	(室長) 理学療法士
高橋 洋	(主任) 作業療法士
高橋 茂実	(主任) 理学療法士
鈴木 務	(副主任) 理学療法士
熊谷 剛	(副主任) 作業療法士
古関 佳人	(副主任) 言語聴覚士
山谷 加奈	(副主任) 理学療法士
加賀 直之	作業療法士
石川 順基	理学療法士
渋谷 美紀	助手

II. 目標

1. 安全安心なリハビリテーションを提供する。
2. 効果があり、効率的で患者様に貢献できるリハビリテーションを目指す。
3. 地域住民のニーズを把握し、在宅リハの検討を進める。
4. 業務改善を進める。

III. 定例スケジュール

毎週月曜日	:	リハビリテーション科ミーティング
第1月曜日	:	4 C病棟カンファレンス
第1火曜日	:	3 A病棟カンファレンス
第1金曜日	:	3 C病棟カンファレンス
第2水曜日	:	2 A病棟カンファレンス
第2金曜日	:	3 B病棟カンファレンス

IV. 業務

1. 院外活動

①横手市デイサービスセンター 康寿館

平成24年5月28日(月)～6月1日(金)

②出前健康講座

平成24年8月15日	「脳卒中のリハビリテーション」	高橋 貞広
平成25年1月11日	「誤嚥ってなあに」	高橋 洋
2月21日	「糖尿病の理学療法」	小田嶋尚人

2. 研修活動

月日	用務	場所	氏名
4月20日	日本手の外科学会公開シンポジウム	横浜市	熊谷 剛
4月20～21日	第24回日本ハンドセラピー学会	横浜市	熊谷 剛
4月21～22日	第21回秋田県作業療法学会	潟上市	高橋 洋・加賀直之
5月12～13日	秋田県がんのリハビリテーション研修会	秋田市	鈴木 務・石川順基
5月19～20日	第24回活動分析研究大会	甲府市	加賀直之
5月25～27日	第47回日本理学療法学会学術大会	神戸市	石川順基
5月26日	秋田県言語聴覚士会総会	秋田市	古関佳人
6月22日	リハビリテーション技術講習会	県リハセン	加賀直之
6月23日	第1回秋田県理学療法士会研修会	秋田大学	小田嶋・貞広・茂実・鈴木
7月7日	秋田県理学療法士会南部ブロック研修会	横手病院	小田嶋・貞広・茂実・石川
7月8日	平成24年度現職者共通講習会	秋田大学	加賀直之
7月28日	秋田県理学療法士会中央ブロック研修会	秋田大学	高橋茂実・鈴木・山谷
8月4日	秋田県理学療法士会第2回生涯学習講演会	秋田大学	山谷加奈
8月5日	秋田県作業療法士会現職者講習	秋田大学	加賀直之
8月18～19日	日本ハンドセラピー学会認定養成カリキュラム	仙台市	熊谷 剛
8月23～24日	日本作業療法士協会認定講習会	東京都	熊谷 剛
8月26日	岩手県臨床リハ研修会医学研修セミナー	盛岡市	鈴木 務
9月22日	日本作業療法士協会認定講習会	仙台市	熊谷 剛
9月29～30日	東北作業療法学会	山形市	高橋 洋・熊谷・加賀
10月14日	東北摂食嚥下リハビリテーション研修会	仙台市	高橋 洋・古関佳人
10月20日	秋田県理学療法士会生涯学習講演会	秋田市	山谷加奈
10月27～28日	秋田県理学療法士会第2回研修会	秋田大学	鈴木 務
11月8～9日	日本自治体病院学会	香川市	熊谷 剛
11月10日	秋田県作業療法士会発達部門研修会	秋田市	高橋 洋・加賀直之
11月11日	秋田県リハスタッフ育成研修	県リハセン	鈴木 務
11月18日	京都大学運動機能セミナー	京都市	石川順基
11月24～25日	第51回作業療法全国研修会	盛岡市	熊谷 剛・加賀直之
12月1日	秋田県理学療法士会南部ブロック研修会	仙北組合病院	高橋貞広・高橋茂実
12月1～2日	日本作業療法士協会認定講習会	東京都	熊谷 剛
12月2日	秋田県作業療法士会身障部門研修会	秋田大学	高橋 洋・加賀直之
1月28日	ケア・テックセミナー	盛岡市	加賀直之
2月2日	秋田県糖尿病看護ネットワーク	平鹿病院	小田嶋尚人
3月3日	秋田県理学療法士学会	秋田大学	小田嶋尚人
3月9～10日	秋田県呼吸リハ懇話会ベーシック研修会	秋田市	鈴木 務

3. 臨床実習

①理学療法学科

秋田大学	総合臨床実習	2名	高橋 茂実	担当
	基礎臨床実習	2名	高橋 茂実	担当
弘前大学	臨床実習Ⅳ	1名	高橋 貞広	担当
青森県立保健大学	総合臨床実習	1名	鈴木 務	担当
仙台保健福祉専門学校	臨床実習	1名	小田嶋尚人	担当

②作業療法学科

秋田大学		1名	熊谷 剛	担当
仙台保健福祉専門学校		1名	高橋 洋	担当

IV. 総括

今年度は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士ともスタッフに変更はなかった。年度終了と同時に3月31日をもって7年間勤務した熊谷剛君が退職となった。

8月1日からオーダーリングシステム部分で新リハシステムの運用を開始した。患者予約の段階での実施単位の管理やリハ患者登録の履歴管理が容易になった。また新しいアプリケーションにより患者受付から実施登録までの動きが一つのアプリケーションで管理できるようになり待ち時間の短縮や患者誤認のリスクを軽減することにつながった。

診療報酬関係では施設基準に変わりはない。外来リハビリテーション診療料は算定せず、医師の診察による再診料を算定することとなった。診療報酬改定前とシステムの運用等において大きな変更がなかったため混乱することはなかった。

6月25日リハ科内でのドクターグリーンコール訓練が行われた。患者急変時の対応について「ドクターグリーン」コールだけではなく、救急カーターの調達、患者移送について実際の場面を想定して訓練が出来たことは有意義だった。

実施患者数・単位数について患者数は理学療法・作業療法・言語聴覚療法の合計で97%程度に落ち込んでいるが単位数については108%に増加した(図1)。昨年度も一昨年度に比べて単位数は増加しており収益に貢献できている。単年度の入院患者数の今年の傾向は、理学療法・作業療法・言語聴覚療法とも2月をピークに年度末にかけて増加する傾向があった。(図2～4)

臨床実習は理学療法士養成校・作業療法士養成校から例年通りの受け入れと地元学生の受け入れを行った。臨床実習指導について理学療法学科は弘前大学・高橋貞広、秋田大学・高橋茂実、青森県立保健大学・鈴木務。作業療法学科については秋田大学が熊谷、仙台保健福祉専門学校は高橋洋が指導者となった。

医療機器では作業療法室にレッドコードを新設、ディジロックボードセットを新規購入した。ハンドウエイト用ラックは破損個所が多く使用が危険なため更新した。

患者の受診状況については資料を参照していただきたい。(図5～7)

<文責 小田嶋尚人>

図1 年度別実績の推移

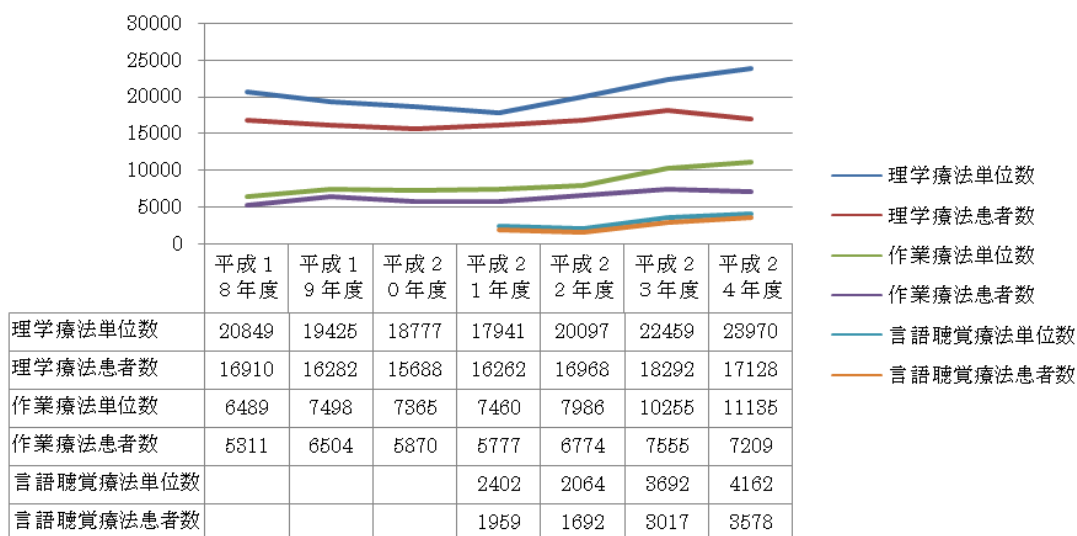


図2 理学療法患者数・単位数

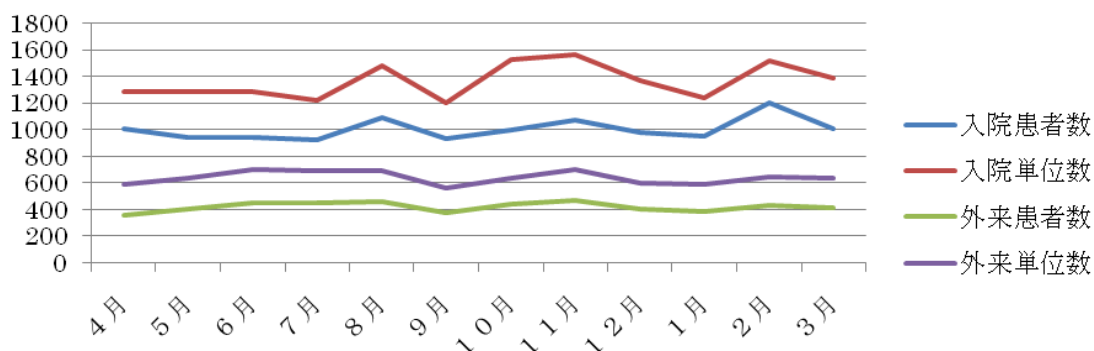


図3 作業療法患者数・単位数

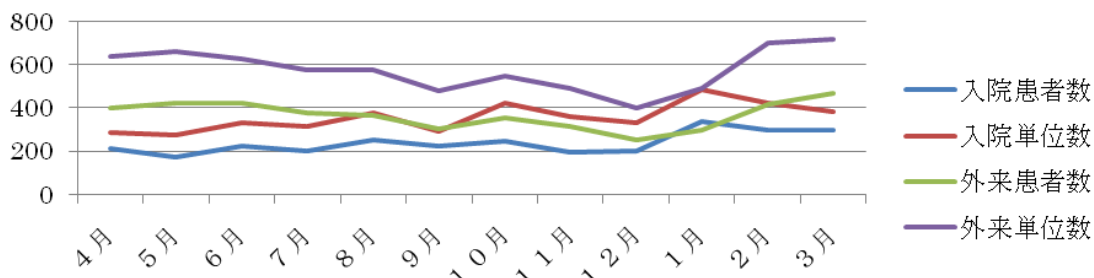


図4 言語聴覚療法患者数・単位数

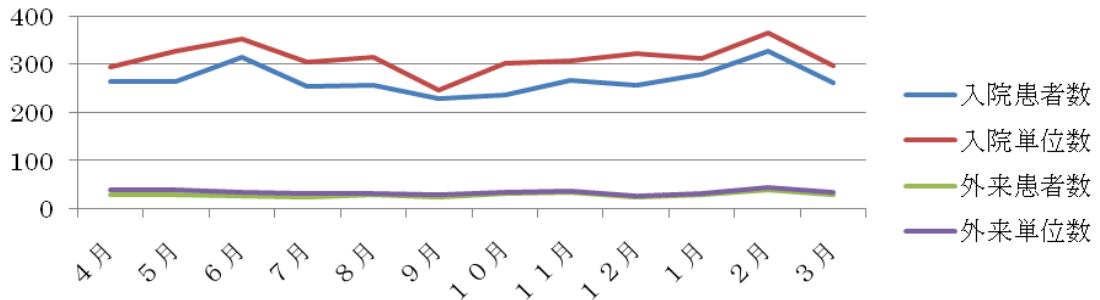


図5 診療科別割合

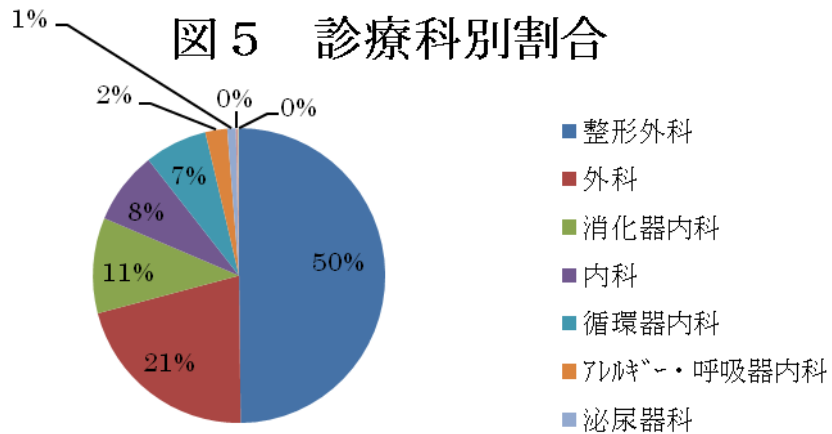


図6 疾患別リハ

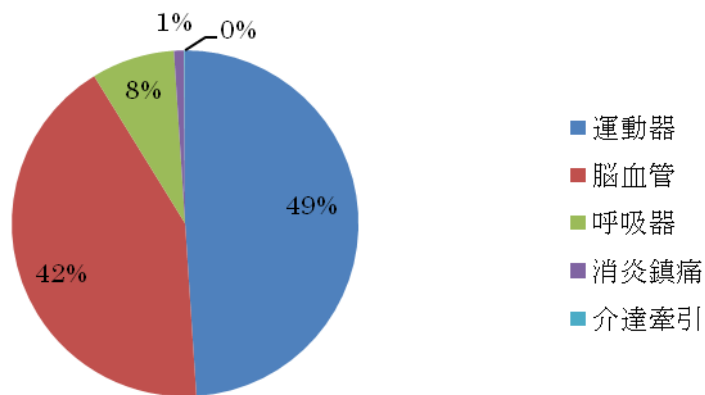
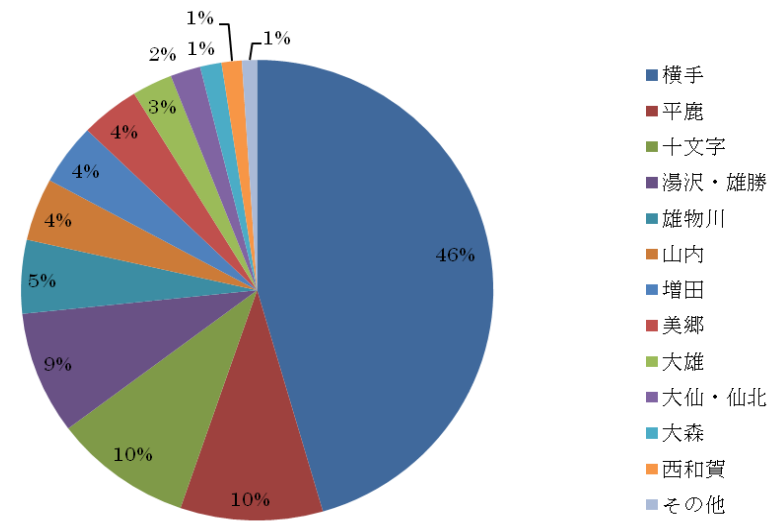


図7 地域



救急センター

<救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員(非常勤職員も含めて)の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

<スタッフ>

救急センター責任者 江畑公仁男

専任看護師 佐藤 鋼子

<救急患者取扱状況> H24年4月1日～H25年3月31日分

1. 取扱患者数 11,404人

2. 来院時間と来院方法

患者数

区分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜(再掲)	計
救急車	292人	601人	147人	893人
その他	0人	10,511人	873人	10,511人
計	292人	11,112人	1,020人	11,404人

3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内科	4,782人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	4,349人	循環器科	0人	その他	150人
整形外科	1,070人	産婦人科	200人		
外科	844人	眼科	9人	計	11,404人

4. 患者の症状など

区分	疾病程度(患者数(人))				受付後の扱い(患者数(人))			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	83	12	6	0	82	18	1	0
急病	9,361	595	251	48	9,327	845	35	48
その他	917	31	50	0	916	81	1	0
計	10,361	638	307	48	10,325	944	37	48

<H24年度総括>

高齢化に伴い全体的に高齢者の救急搬送が多いが、そのほかにも年齢や症状、救急依頼の状況などは多様であり、初期対応においていろいろな判断の責任は大きい。

救急運営委員会での症例検討会や、BLS研修などスタッフ教育とともに、より迅速で効果的な質の高い救急医療をチームで行うために更に全体で質の向上をめざしたい。

<文責 佐藤鋼子>

薬 剤 科

科 長	石田 良樹	
薬 剤 師	佐々木洋子	渡邊 圭子
	小宅 英樹	谷川 裕子
	武石 知希	
薬剤助手	大山 丹子	北小路由紀
	柿崎 幸	高橋 紀子
	近江真梨子	高橋みきこ（～H24. 9）
	藤井 香織	小柳 聡子（H24. 4～）
	飯詰 恵子（H24. 4～H25. 2）	
	石塚 夏音（H25. 2～）	

平成24年度目標

- 1) 人材育成による業務付加価値の向上
人的資質の向上、と権限委譲による業務の効率化、高付加価値化をめざす。
- 2) 業務効率化による医療の質的向上
医療安全、患者満足度向上等、医療の質的向上のために薬剤管理指導件数、カバー率を目標管理する。また薬剤病棟業務加算に向けての調査、効率化を推進する。
- 3) 医療費削減への貢献
国策であるGeneric普及に則り、病院の資源効率および患者負担軽減のため、Generic採用比率を向上させる。

医療現場では持参薬を始め過去に想定されなかったリスクが増大している。一般的にコスト削減と医療安全はトレードオフの関係にあると言われるが薬剤師が介入することにより、その両立を期待するものである。その資質向上の一環として薬剤科を主体とした月2回の医薬品安全会議を本年より定例で開催する事となった。

また、国の政策でもある後発品使用の推進のため本年度も積極的な後発品への切り替え作業を行い、後発品15品目を採用。後発品比率を11.4%まで向上させた。

院外発表等

- 小宅英樹 「当院におけるNSTラウンドについて」
第3回横手病院薬剤師業務研究会
- 武石知希 「当院の抗菌薬使用状況の現状と課題～血液培養陽性患者に注目して」
第32回秋田県臨床薬学研究会

認定等

- 石田良樹 感染制御認定薬剤師 日本病院薬剤師会
佐々木洋子 秋田県糖尿病療養指導士 秋田県糖尿病対策推進協議会

平成24年度実績

院外処方せん件数	90952件	無菌製剤処理件数	5564件
院内処方せん件数	16124件	入院持参薬鑑別件数	3166件
院外処方せん発行率	84.9%	外来薬品費	404260千円
入院処方せん件数	28712件	入院薬品費	263647千円
外来注射件数	23230件	総医薬品費	667907千円
入院注射件数	149975件	薬品費/医業収益	15.4%
外来化学療法件数	883件	外来薬品費/患者数	2487円
入院化学療法件数	659件	入院薬品費/患者数	4043円
薬剤管理指導件数	2996件	後発品比率	11.4%

<文責 石田良樹>

診療放射線科

スタッフ

診療放射線技師	技師長	藤原 理吉	
	室長	郡山 邦夫	
	室長	法花堂 学	
	主任	細谷 謙	
	主任	根岸 裕介	平成 24 年 4 月 1 日から
	副主任	齊藤 千尋	
	副主任	佐藤 裕基	
	副主任	村上 千恵	
	看護師	佐々木史子	平成 25 年 3 月 31 日まで
		織田美和子	
	受付	三浦 真理	

平成24年度目標と評価

目標： 被ばく低減の啓発（正当化の判断となる当院の標準的な検査の被ばく線量をイントラネット上で閲覧できるように構築することや放射線被ばく低減を目的とした研修会の開催）

取り組み、行動内容：

平成24年9月7日と平成25年3月4日に研修を行った。イントラネット環境の構築を医療情報管理室の協力の下実施した。被ばく線量の掲示に伴い条件などを再検討した。

結果： 放射線の基礎知識の普及が図られた。エビデンスのある医療の一環として当院の放射線検査における被ばく線量を掲示したので正当化の判断やQ&Aについて利用を促進していきたい。

関連資格取得状況

放射線管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙
放射線機器管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学
医用画像情報管理士	藤原 理吉、根岸 裕介
肺がんCT検診認定技師	法花堂 学、細谷 謙
検診マンモグラフィ精度管理・撮影技術認定	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙、齊藤 千尋
臨床実習指導教員	郡山 邦夫、法花堂 学

院内・院外の発表

7月6日	(社)秋田県放射線技師会県南支部 MRI勉強会	
	下肢動脈撮像について Inhance 3D Deltaflow の検討	郡山 邦夫

9月29日	(公社) 日本診療放射線技師会 学術大会 頭部CTガイドライン、最適化の指標は	法花堂 学
9月29日	(公社) 日本診療放射線技師会 日本放射線公衆安全学会学術大会 レントゲン手帳運用の現状	藤原 理吉
9月29日	(公社) 日本診療放射線技師会 学術大会 医療被ばく安全管理委員会 空気からの外部被ばくと呼吸による内部被ばく	藤原 理吉
11月25日	第20回秋田県医療学術交流会 霧箱を用いた身近な放射線存在の啓発を行って	細谷 謙
3月9日	県南支部総会学術大会 児撮影時における介助者の被ばく線量の測定	齊藤 千尋

平成24年度 放射線科カンファランスと担当者 (演題)

4月19日	感染対策講座	藤原 理吉
5月17日	腹部CT検査における撮像条件の考え方	法花堂 学
6月7日	肝臓CTの基礎とその運用	齊藤 千尋
7月12日	CT室内散乱線分布の測定	佐藤 裕基
8月9日	マンモグラフィにおけるポジショニングの評価	村上 千恵
9月13日	画像の標準規格	根岸 裕介
10月21日	コ・メディカル頸部MRA (MR Angiograph) の 撮像条件の再検討について	郡山 邦夫
11月8日	PCを造ろう!	細谷 謙
12月13日	知っておきたい放射線被ばくの基礎知識	藤原 理吉
1月12日	スライス厚測定について	法花堂 学
2月28日	小児撮影時における被爆線量の測定	齊藤 千尋
3月14日	コアベータの使用経験	佐藤 裕基

20年度を100とした時の推移

	年度(平成)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
一般撮影	総撮影件数	100	88	109	111	111
	出張撮影件数	100	96	94	99	93
	乳房撮影件数	100	105	103	121	121
健診	胸部撮影人数	100	104	109	115	128
	胃透視検査人数	100	100	93	86	98
造影・透視検査	消化管	100	115	124	120	82
	肝・胆・膵	100	64	73	48	54
	泌尿器・産科領域	100	72	59	48	27
	整形領域	100	128	144	145	150
	心カテ・血管造影	100	154	144	133	167

CT人数	100	98	106	102	98
MRI人数	100	99	122	114	125

件数・人数の推移

		年度(平成)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
一般撮影	総撮影件数	外来	22,558	22,932	27,431	28,609	29,465
		入院	11,938	9,663	10,117	9,580	8,880
		合計	34,496	30,234	37,548	38,189	38,345
	総曝射回数	外来	34,939	38,733	42,960	45,966	47,583
		入院	15,083	11,852	12,594	12,083	11,394
		合計	50,022	50,585	55,554	58,049	58,977
	出張撮影件数			6,104	5,834	5,757	6,024
乳房撮影件数			2,155	2,253	2,227	2,603	2,618
フィルム枚数			2,527	185	167	213	192
健診	胸部撮影人数		5,515	5,753	6,005	6,351	7,046
	胃透視検査人数		923	926	857	796	906
造影・透視検査	消化管		501	575	619	599	411
	肝・胆・膵		199	128	145	95	107
	泌尿器・産科領域		282	204	167	135	75
	整形領域		208	266	300	302	313
	心カテ・血管造影		39	60	56	52	65
CT	人数	外来	4,828	5,154	5,552	5,410	5,204
		入院	1,750	1,286	1,395	1,304	1,249
		合計	6,578	6,440	6,947	6,714	6,453
	フィルム枚数			1,231	1,337	1,229	1,342
MRI	人数	外来	1,275	1,439	1,676	1,593	1,763
		入院	293	153	234	200	201
		合計	1,568	1,545	1,910	1,793	1,964
	フィルム枚数			1,260	1,296	1,026	941

<文責 藤原理吉>

看護科

急性期医療を展開している病院では、平均在院日数の短縮化がなされてきている。平成23年度平均在院日数12.6日であったが、平成25年度平均在院日数は12日と更に短くなっており、定期入院以外の緊急入院間患者を受け入れるためのベット確保や、病床稼働率を向上させるために現場は苦慮している。病床稼働率の向上にはベットコントロールを担っている人だけでなく、部署など組織的な動きが必要である。ベットコントロールの強化とそれに伴う各病棟の責任者である師長・主任の力も非常に大きかったと感じている。

平成24年度は急性期看護補助体制50対1取得のほかに、急性期看護補助体制夜間100対1取得に向けて看護補助者を増員し、平成24年7月～看護補助者2名ずつ夜勤開始（2交代制勤務）となり、8月夜間急性期看護補助者体制加算を取得したこと。これまで3C病棟（消化器病棟）の深夜勤務者2人のため、夜間の緊急入院において空床が報告されていても入院させられない状況であったが、平成25年3月から3人夜勤に変更になり、深夜勤務3人になったことでこの問題は解消された。安全に安心して勤務できる体制になったことは病院・現場にとってかなり大きい。

また、看護補助者を増員したことにより看護師の業務軽減に繋がったことはいうまでもないが、業務分担や教育体制の構築など現場にはさまざまな課題があるので、今後も継続して取り組んでいく方針である。

看護科理念・方針

- 理念 1、人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。
2、地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1、専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。
2、病院の健全経営に積極的に参加します。

平成24年度看護科目標と結果評価

看護の質を高め、患者さんとともに喜びを感じあえる看護を提供しよう

1) 固定チームナーシングを定着し、小集団活動を充実させる

各部署で固定チームナーシングの定着に向けて、固定チームとしての役割を認識しそれぞれの役割を發揮するなど、いろいろなことに取り組んだ一年であった。研修会に参加しチーム会、リーダー会、全体会の必要性など研修で学び、各部署で伝達・問題提起し改善策を検討した。問題発生時はカンファレンスを行い、入院時から退院に向けての目標を設定できるようになったり、少しずつではあるが意識づけされてきている。個人の力量やモチベーションの格差があるため、今後同じ目標に向かって進むことができるようにしていくのが課題である。

2) 新人教育・現認教育の見直しをする

看護科教育委員会が主体となり計画し実践している。毎年、秋田県主催の新人教育責任者研修・新人教育担当者研修に参加しているが今年度も2名参加した。研修を修了した職員が集まり研修会内容の検討・開催時期などについて話し合いをして行っている。現任教育に関しては、看護の知識・技術とともに質の高い専門性がなければなりません。一つの行為をいま

までの習慣や経験に頼るのではなく、根拠に基づいて行うことが必要なので、自分のキャリアは自分で発展させて専門職としての「やりがい」につなげていきたいと考える。

3) 離職防止に努める

平成24年度は途中退職者を含め退職者の多い年でしたが、随時募集において看護師7名採用になったことは非常にうれしいことであった。新人だけでなく中途採用者の看護師もやる気を持って働き続けられる環境を作ることが重要である。看護師の採用促進と定着を図り、職員同士がお互いを大切に働き続けられる職場づくりを考えていかなければならない。職員一人ひとりが大切であり必要とされている事を伝えている。

○看護要員関連

平成24年度産休・育児休業・長期病欠・退職状況

	24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年 1月	2月	3月	延	平均
産 休	3 (1)	3 (1)	2 (1)	4	3	4	4	2	1	3	3	4	36	3
育児休業	9	9	9	10 (1)	10 (1)	10 (1)	11 (1)	12 (1)	13 (1)	13 (1)	13 (1)	11 (1)	113	9
合 計	13	13	12	15	14	15	16	15	15	17	17	16		
長期病欠 休 職	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	
採 用	14 (2)	1			1	1	1	1	2				21 (2)	
退 職	1	1	(1)		1 (1)	1	1		1		(1)	3	9 (3)	

() 嘱託

平成24年4月 看護師正職員 平均年齢 36.7歳
 平成24年度 産休育休取得者 (H25年3月現在) 11人
 初産 9人 経産 2人 (1人)
 育児休暇日数 平均 393日
 平均職員 167人
 離職率 6.0%

平成24年度看護科職員総合数 (平成25年3月末 244名)

保健師 6名
 助産師 10名
 看護師 156名 (嘱託・パート18名含)
 准看護師 6名 (嘱託5名含)
 看護補助者 53名 (嘱託52名含)

○インターシップ受け入れ

・ 7 / 4 横手市立鳳中学校 1年生 2名

- ・ 7 / 23 ・ 7 / 26 秋田県立平成高等学校 2 年生 4 名
- ・ 8 / 1 ~ 8 / 2 秋田県立横手清陵学院高等学校 2 年 1 名
- ・ 8 / 6 秋田県立横手高校 1 年 8 名
- ・ H25 ・ 1 / 9 ~ 1 / 10 秋田県立横手清陵学院高等学校 2 年 1 名
- ・ H25 ・ 2 / 5 横手市立朝倉小学校 6 年 4 名

○看護学生実習受け入れ

- ・ 秋田県立衛生看護学院看護科 3 年（在宅看護論実習）
期間 平成24年 5 / 8 ~ 11 / 13 6 名
- ・ 秋田県立衛生看護学院助産科（助産学実習）
期間 平成24年 5 / 21 ~ 6 / 15 10 名

○ふれあい看護体験

- ・ 7 / 25 横手市内の中学 2 年生 16 名

○研修会参加状況

院外研修

研 修 会 名	日 時	場 所	参加者数
第 3 回秋田県緩和看護セミナー	4/7	秋田市	1 名
平成24年度第1回訪問看護ステーション協議会研修会	4/14	秋田市	1 名
秋田県がんのリハビリテーション研修会	5/12・13	秋田市	2 名
平成24年度固定チームナーシング研究会（第8回東北地方会）	5/20	福 島	6 名
平成24年度固定チームナーシング学習会	5/27	東 京	6 名
'12看護必要度評価者院内指導者研修	6/3	秋田市	2 名
こども発達障害の理解、診断と治療・療育の視点	6/7	秋田市	2 名
平成24年度秋田県看護協会通常総会	6/13	秋田市	6 名
ノーリスト持ち上げない看護	6/14	秋田市	1 名
平成24年度プリセプター・フォローアップ研修	6/18	横手市	2 名
平成24年度秋田県病院協会総会 第 1 回研修会	6/19	秋田市	1 名
その人らしい最期のときを支えるエンゼルケア	6/30	秋田市	1 名
平成24年度看護管理者連絡会議	7/10	秋田市	1 名
秋田県看護協会看護制度委員会ウオーミングアップ研修会	7/21	秋田市	1 名
平成24年度透析療法従事職員研修	7/21・7/22	埼玉県	1 名
秋田県糖尿病療養指導士（CDE-AKITA）研修会	7/22~4回	秋田市	1 名
第23回東北ストーマリハビリテーション講習会	8/9~11	仙台市	2 名
看護師のための睡眠講座	8/11	秋田市	1 名
第 4 回 J 感染制御ネットワークフォーラム	8/25	仙台市	2 名
第 8 回 S S ユーザー会・第 6 回 S S ユーザー看護部会	8/25	大 阪	2 名
平成24年度特定保健指導者実践者育成研修会	9/3	秋田市	1 名
A S P アカデミーセミナー in 仙台 2012	9/8	仙台市	2 名
人間ドック健診情報管理指導士 ブラッシュアップ研修会	9/9	東 京	1 名
災害支援ナース育成講習会（実践編）	9/14	秋田市	1 名
平成24年度認定看護師交流会	9/19	秋田市	1 名
平成24年度 第 2 回日本手術医学学会教育セミナー	9/20・21	山形市	2 名
シリーズがん看護 事例から学ぶ がん化学療法看護	10/12	秋田市	1 名
第 6 回秋田滅菌および感染対策研究会	10/13	秋田市	2 名

平成24年度秋田県医療安全管理者養成研修	{10/13. 22. 23 11/6~9	横手市	2名
リスクマネージャー交流会	10/25	秋田市	2名
学び直そう！救命救急基礎技術（急変時の対応から看護記録まで）	10/25	横手市	5名
シリーズがん看護 事例展開	10/31	秋田市	1名
緩和ケア実施研修	11/6	大曲市	1名
第51回全国自治体病院学会	11/8・9	香川県	3名
秋田県消化器内視鏡技師研究会	11/18	秋田市	4名
第26回日本手術看護学会 年次大会	11/23. 11/24	横浜	2名
平成24年度秋田県新人責任者研修	{11/30・12/1 12/9・12/21	横手市	1名
平成24年度助産師活用講習会	12/2	秋田市	1名
平成24年度看護管理者研修	12/4	横手市	1名
平成24年度東北ブロック医療安全に関するワークショップ	12/3~12/7	仙台市	1名
'12看護必要度評価者院内指導者研修	12/9	秋田市	2名
平成24年度秋田県新人教育担当者研修	{12/23 H25・1/17・18	横手市	1名
秋田県病院協会 看護管理研究部会 研修会	1/18・19	秋田市	1名
秋田県糖尿病看護ネットワーク	1/29	秋田市	1名
第5回秋田県糖尿病看護ネットワーク	2/2	横手市	2名
普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習会	2/5・6	仙台市	1名
BLS プロバイダーコース	2/9	横手市	1名
人間ドック健診情報管理指導士 ブラッシュアップ研修会	2/17	東京	2名
内視鏡外科手術機取扱いセミナー	3/2	東京	1名
平成24年度患者安全推進全体フォーラム	3/16	東京	1名

学会参加

研 修 会 名	日 時	場 所	参加者数
第17回日本緩和医療学会	6/22・23	神 戸	1名
第51回全国自治体病院学会	11/8・9	香 川	3名
第43回日本看護学会（看護教育）学術集会	9/5・6	盛 岡	2名
第43回日本看護学会（成人看護1）学術集会	9/29	仙 台	2名

院外発表

研 修 会 名	日 時	場 所	発表者
第4回J感染制御ネットワークフォーラム 「薬剤混合のベストプラクティス」 感染リンクナース	8/25	仙台市	佐藤 愛
第51回全国自治体病院学会 「腹水穿刺時にWebカメラを用いた取り組み」 3C病棟	11/8・9	香 川	高橋亜由美
秋田県消化器内視鏡技師研究会 施設紹介「当院の消化器センター」 消化器センター	11/18	秋田市	長井美憂希
平成24年度横手地区支部看護研究発表会 「術後ドレーン自己抜去予防への取り組み」 3B病棟 ～ドレーン収納型ベストへの取り組み～	12/12	横手市	佐々木孝子
在宅緩和ケア研修会 訪問看護センター	H25・3/14	横手市	高橋千鶴子

院外活動

内 容	日 時	場 所	参加者数
「看護の日」事業への参加	5/19	横手市	1名
看護協会主催 わくわく子育てフェスティバル	10/3	横手市	1名
看護協議会主催 いきいきサロン（血圧測定・健康相談）	年3回	横手市	3名
平成24年度第3回自殺予防街頭キャンペーン	H25・3/3	横手市	1名
救護班 送り盆まつり	8/16	横手市	2名
救護班 ぼんでん祭り	H25・2/16	横手市	2名

講師派遣

内 容	日 時	場 所	氏 名
第23回東北ストーリーナビゲーション講習会	8/9～8/11	仙台市	佐藤美夏子
平成24年度在宅看護の基礎知識	8/27	ふれあい館	高橋 礼子
健康教育の技法	10/3	衛生看護学院	池田 弘恵
楽しい子育て・孫育て講座	10/13	横手市Y2プラザ	鈴木 智都

取得

内 容	氏 名
秋田県糖尿病療養指導士（CDE－AKITA）	高橋 正子
透析技術認定士	小田嶋明子
医療安全管理者養成研修終了	高本 和子
医療安全管理者養成研修終了	藤井 洋子

<文責 木村カズ子>

2 A病棟

【病棟数】

39床 （重症加算病床3床・LDR室2床）

【担当科】

産婦人科・内科・消化器内科・循環器内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H24年度 病棟の概要】

産婦人科と主に消化器内科との混合で当院、唯一の女性病棟である。

産科は、LDR室が設置、運用され、快適なシャワー・トイレ付、御家族の付添可、昼食・夕食はレストラン食の提供などで好評、夫の立ち合い分娩も増加している。担当助産師は、個別に外来保健指導および産後指導に熱心で、特に母乳保育を中心とした指導に力を入れ取り組んでいる。助産師学生の実習も受け入れており、後輩の就職にも役立っている。

婦人科は、化学療法治療やターミナル期緩和ケアの対象が増加傾向にあり、薬剤の取り扱いなど他部署との連携を密にした看護、管理をしている。

内科に関しては、患者様の高齢化・一人暮らしなど複雑な背景が多く、施設との関わり、介護サービスの検討、在宅介護の家族指導などMSW・ケアマネージャー・施設相談員との連携は更に重要になってきている。社会的背景などで病院の入院生活に頼る傾向も見受けられるが、退院調整で早期より対応策を講じているため、特殊なケースを除いては長期化する入院は稀になってきている。褥瘡回診、NST回診、ICT回診から情報提供・交換をして、指導を有効に取り入れた看護に努め、看護研究も家族指導に関するテーマで業務に役立てている。

年間分娩数 116名（中期分娩を含む）

年間手術数 140件（内 全麻93件）

【平成24年度 病棟目標】

1) 個々の役割を認識し、固定チームナーシングを定着させる

- ・業務、マニュアルの作成、改訂
- ・情報共有できる記録とワークシートの運用
- ・役割を相互理解し、コミュニケーションの良い環境作り

2) 医療事故防止に努める

- ・ヒヤリハット報告の事故レベルを「0」に近い目標値にする
- ・事故の再発に繋げない

【平成24年度 病棟の反省】

1) について

開始当初よりそれぞれの役割を自覚して業務に取り組み、固定チームナーシングを一応実践、「報告・連絡・相談」のコミュニケーションがとれ良い方向に向いている。チームワークシートの運用も検討を加えながら有効に活用しているが、まだ伝達漏れなどある。チームリーダー、日々リーダーの負担が多いこと、受け持ち看護師としての自覚を持った患者様との関わり、各会議への参加率UP、経験2年目のフォロー体制など継続課題として今後も取り組んでいく。新卒看護師2名は夜勤勤務可能と独り立ちすることができた。

2) について

インシデント発生報告数2月中旬時点で66件、事故レベルⅢa1件、多い発生事故は前期、転倒関連24%、後期チューブ類自己抜去21%で上位を占めた。年間で見ると後期の発生件数が半数近くに減少している。病棟自体で統計をとり、数値検証することで何が問題なのかを把握して対処できた。病棟の特殊性から同様の事故が発生する傾向にあり、来年度も情報共有や観察・対応の強化など再発防止に心がけていきたい。

<文責 木下文字>

3 A病棟

【病床数】

49床 （重症加算室3床 亜急性期病床10床含）

【担当科】

呼吸器科 循環器科 脳神経内科 内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H24年度概要】

要介助者が年々増加する中、胃瘻からの栄養管理を行う患者は、平均すると日々3～5名程度と以外に少なくなってきた。代わりにトロミ食や嚥下食を始め、食事の全介助を必要とする患者が多くなり、夜勤勤務者の大きな負担になっている。しかし、夜間看護補助者勤務の開始にともない、夜間の共同業務の軽減化がはかられた。また要介護者の入院比率が高いことで、看護補助者の要員を増やしてもらい、日勤での業務負担も軽減している。

全介助者は通常35～37名程度までに至っている。しかし、毎日の厳しい業務にも関わらず、スタッフの専門職としての職業意識の高さに本当に助けられ、看護ステーションの中ではいつも笑いの絶えない雰囲気でも過ごせたと思う。

前年度3月からの固定チームナーシング開始から一年が経ち、リーダーやメンバーの役割も徐々に定着しつつある。チームでのカンファレンスも増え、チーム全員での色々な問題への取り組みや新人教育に向けた活動が良い方向に向かっている。リーダーへの負担が多いことなど問題はまだまだあるが、実りのある一年だった。

【H24年度 病棟目標】

1. チームカンファレンスを定着させる。
2. リーダー・メンバーの各役割を認識する。

【目標の反省】

1. 各チームのリーダー・サブリーダーが月一回のチーム会を開催し、チーム内の問題を話し合い、リーダー会で全体の問題共有をすることができた。しかし、毎月行うことが出来なかったため次年度への課題となる。また、看護計画の修正が必要な患者カンファレンスが定期的に行われたが、それ以外のカンファレンスがなかなかもうけられなかったのが課題となった。
2. 朝のカンファレンスや、チーム内の報連相の形態が定着しつつある。リーダーは記録のチェックや業務整理、指導など可能な限りおこなってはいたが、日勤でのスタッフ不足の際はメンバー業務の兼務が必須となりリーダーとしての役割が果たせない場合も多かった。

<文責 高橋礼子>

3 B病棟

【病床数】

44床 （重症加算病床 3床含）

【担当科】

消化器外科 泌尿器科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H24年度 病棟の概要】

外科、泌尿器科の混合病棟となっているが、内科の重症患者の入院や、他の病棟からの手術目的・重症化した患者の転入も多い。患者の高齢化に伴い、認知症など合併症を抱えての手術となり、手術前後の管理も高度化してきています。外科、泌尿器科とも化学療法患者も多く、病棟担当薬剤師と連携をとり、副作用の出現の減少に努めています。またスタッフや、患者様の被曝の軽減のため啓蒙も積極的に行っています。

当病棟の特徴として呼吸器装着、CHDFによる高次医療や、人工肛門造設患者の管理、透析導入前後の管理など専門性が求められます。退院調整で早期より対応をとり、退院後の生活に支障がないように、患者・家族指導を行い、MSWや担当ケアマネージャーとの連携をとりながら患者様の立場に立って看護するよう努力しています。

年間外科手術件数 400件 泌尿器科手術件数 58件

【H24年度 病棟目標】

1. リーダー業務を円滑に行い、固定チームナーシングを充実させる。
2. カンファレンスを有効活用し、現場教育に役立てる。

【目標の反省】

1. 3チームとなり各チームの役割分担が明らかになり、看護ケアに責任が持て達成感に繋がった。一方、日々のチームメンバーが少ないため、日々リーダー業務ができないことが大きな問題となってしまった。
2. 日々のカンファレンスは業務に左右されることも多く、また看護計画の修正にも活かされていない。次年度の課題として、チームリーダー・メンバー相互で日々患者カンファレンスを通して、新人看護師を指導育成していく体制を確立していくことが求められた。

<文責 藤井洋子>

3 C病棟

【病床数】

47床 （重症加算室2床含む）

【診療科】

消化器内科を中心に 呼吸器内科 脳神経内科 循環器内科 他

【看護方式】

固定チームナーシング

【H24年度 病棟概要】

スタッフ数 19名（師長 主任含む）

夜勤 準夜勤務者 3名（土日祝日 2名）

深夜勤務者 3名（H25. 2月～）

4月から新人看護師3名が配属され、新人教育をしながら急性期看護に取り組みました。

深夜勤務者2名での従事でしたが、2月からは深夜勤務3名になり、病棟全体で医療安全に心掛け大きな事故もなく病棟運営することが出来ました。

患者さんの層としてはESD・EST・EIS・RFA・TEAなどクリティカルパスでの運用。また、化学療法・術前検査入院で手術に繋げる急性期看護の一方、高齢者や一人暮らしの方の退院調整に苦慮する場面も多くありました。

今後も地域住民の高齢化を考えると、益々、治療の一方で療養環境を整える退院支援に重点を置く必要性があり、コメディカルとの連携をはかりながらチーム医療を目指して行きたいと思えます。

年間治療数 ESD：73件 EST：29件 EIS：25件 RFA：13件 TEA：38件

【病棟目標】

1. 固定チームとして各々の役割を発揮しリーダーシップが発揮できる
※チームの中で新人を育てる
2. インシデントレポートを充分に活用し医療事故防止に努める

【目標の反省】

1. 小集団活動を活発に行ったことでチーム目標の達成度は高かった。しかし、部屋持ちしなごらのリーダーでは負担が多く発揮出来ないこともあった。また12月からウオーキングカンファレンスを始め業務改善に努めている。新人教育にあたっては新人用ノートを活用し達成度などを共有することで統一した指導ができた。見守りではあるが、夜勤をこなせるようになっていく。繰り返し継続した指導を行っていく。
2. インシデントレポートの周知を図ることで、再発防止に繋がっている。インシデントの共有は意識度を高めるが、評価されていない。どう評価していくか考えていくか今後の検討事項である。

<文責 下村優子>

4 C 病棟

【病床数】

46床 （重症加算病床 2床、 亜急性病床 4床含む）

【担当科】

整形外科 小児科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H24年度 病棟の概要】

整形外科医師が3名となってから手術件数、入院患者ともに増加してきている。高齢者の転倒による大腿骨頸部骨骨折や橈骨遠位端骨折が多かった。さらに椎体系や人工関節の予定手術の患者も高齢化してきている。相変わらず患者背景は地域性からか独居や老人世帯、息子との二人暮らしなどが多い。DPCによる在院日数の短期化でコメディカルとの連携は必須であった。今後もカンファレンスを密にし、スムーズに在宅での生活に移行できるよう援助していきたい。

小児科は相変わらず季節的なRSや喘息、マイコプラズマ肺炎が多かった。RSウイルスの罹患による中耳炎の治療入院も昨年同様多く、入院患者家族には耳鼻科への通院で負担をかけている。耳鼻科設置の声が非常に多い状況である。

【H24年度 病棟目標】

1. コメディカル、地域連携と協力し、継続した看護を提供する
2. 現状を把握し、役割・業務を確立させる

【H24年度 目標の反省】

1. 入院時から退院に向けての目標設定が徐々にできるようになってきた。途中で目標が変更することになっても、問題点を挙げ、家族と退院に向けて話し合いができる機会が増えた。
2. 固定チームナーシングの定着、意識づけは少しずつ出来てきている。ただし、個人個人の力量やモチベーションの格差があるため、今後同じ目標に向かって進むことができるようにしていきたい。

<文責 木村真貴子>

外来部門

【外来診療科】

内科 消化器内科 循環器内科 アレルギー呼吸器科 外科 整形外科
婦人科 小児科 泌尿器科 眼科 心療内科 麻酔科 放射線科

【特殊外来】

頭痛外来 ペインクリニック 更年期外来 予防接種外来 禁煙外来

【外来患者数】

1日平均患者数：665名
救急外来患者数：11404名／年
紹介患者数：3158名／年
新患患者数：1968名／年
救急搬送患者数：893名／年

【検査数・処置件数】

内視鏡検査 上部内視鏡：6208件／年 下部内視鏡検査：2266件／年
放射線検査：C T造影検査：2963件／年 MR I造影検査：275件／年
血管造影検査（心臓カテーテル検査：38件／年 T A E：39件／年）
自己血採血：128件／年（泌尿器科：6件 整形外科：59件 婦人科：62件）

【24年度の概要】

昨年度から準備を行ってきた禁煙外来が4月から開始。健診センターが窓口になり予約制で診察を行った。また、呼吸器科医師が、1年の期限であるが常勤医が2名となり呼吸器科が充実された。

小児科では、予防接種外来を1回／週から2回／週に増やしました、月～木曜日の午後外来（16時30分から17時まで）の診察を開始し、午後外来（予約外来）の診察時の煩雑さが軽減された。

看護科では、病棟・外来一元化が導入され、外来での看護スタッフの減少があったが、医師事務作業補助者の導入により、予約外患者の問診のカルテ入力、検査説明、入院患者の入院受付、診察時のカルテ代行入力等が進み、医師診察業務・看護業務の軽減が図られた。また、配置部署の移動により、外来スタッフ間の応援体制を強化した。

ファーストレベル研修1名参加。

【外来目標】

- 1、限られたスタッフで患者に満足のいく看護を提供する。
- 2、外来業務の標準化。

【目標の反省】

- 1について

病棟・外来の一元化により外来スタッフ数の減少があり、多忙な部署への応援体制を強化する必要があった。各スタッフが、配属部署以外の応援ができるようにすること、また、他の業務内容を把握し対応できるようにすることにより、限られたスタッフで、看護の質を保てるようにすることを目標とした。一スタッフが複数の科や、他の業務内容を把握・対応することが出来るために、部署の配置移動や、部署内での業務分担の変更等を行い、緊急時やスタッフの欠員時に、外来内で応援体制を整えることができるようになった。

2について

外来での業務が、各科によって多少違いがあるという問題があった。特に受付業務が直接患者対応に結びつく問題であり、また、医師事務作業補助者の業務導入もあったため、受付業務の標準化を整えることを目標とした。

受付事務員による、話し合いを1回／月行い、業務内容の比較や問題点について話し合いを行い、受付業務の手順・マニュアルの標準化を図った。

<文責 佐々木佳子>

手術室・中央材料室・洗濯室

<手術室構成>

4室稼働（A／B／C／D）

A：主に人工物挿入（バイオクリーンルーム）

B：一般手術

C：一般手術

D：眼科手術

<H24年度手術件数>

外科	400件
整形外科	377件
産婦人科	140件
泌尿器科	58件
内科	3件
合計	978件
全身麻酔件数	・ ・ 582件
緊急手術件数	・ ・ 91件

<H24年度部署目標>

「安全な手術室看護の提供」

1. 術前・術後訪問の継続
2. 手術室に於ける新人教育の充実

<評価・まとめ>

術前・術後訪問に関しては、結果を取りまとめ、日本手術看護学会東北地区学会に発表することができた。これからも継続していくよう努める。新人教育に関しては、マニュアルの見直しと並行し、環境の変化による精神的・肉体的ストレスの把握に努めた。

次年度からは、新たに眼科も加わる為、心機一転身を引き締めて、安全な医療の遂行に邁進する覚悟です。

<文責 佐藤昌悦>

人工透析室

<構成スタッフ> 8～9名

看護主任 高橋 佳子

看護副主任 小田嶋明子 小田嶋ゆう子 中村勇美子

看護師 佐々木美紀子（H24. 5. 1～4 Cへ移動） 伊藤 優子

小野 真美（H24. 4. 1～） 渡辺 僚太（H24. 4. 1～） 佐々木智美

<ベッド数> 15床

<患者数> 平均患者数 44名

月間平均患者件数 約550件

	述べ件数	新規	依頼	臨時	転入	転院	死亡
H24年度	6.683	7	15	8	2	3	5

<特徴>

透析療法は、移植しなければ生涯継続する必要があり、患者自身の自己管理が不可欠である。そのためには、患者自身が透析を取り入れた生活スタイルを確立できるように、身体的・精神的・社会的でのアセスメントを行い、援助を行っていくのが透析看護の目標である。

現在、人口の高齢化に伴って、慢性維持透析患者ならびに新規導入患者も高齢化が進み、また、糖尿病が4割以上占めるなど重症合併症が増加してきている。そのため、現場では、以前より種々の難題を抱える患者に対応していかなければならず、援助していくのが大変になってきている。このような精神的、肉体的負担の多い患者さんに対処していくには、透析医療にかかわる医療スタッフの連携が必須である。

<勤務体制>

日勤4～5名・準夜2名

月・水・金 3クール（午前の部・午後の部・夜間の部）

火・木・土 2クール

<目標>

安全で質の高い透析を提供します

- 1、新人教育マニュアルを作成する
- 2、働きやすい職場環境作り
- 3、トリプルチェックの徹底

<目標の反省>

- 1、新人教育マニュアルを作成する

透析室では、今まで新人を受け入れたことがないため、新人教育マニュアルはなかった。そのため今年度は、新人を育てるため、1年間でマニュアルを完成させ、スタッフ全員が周知徹底することを目標にした。

その結果、マニュアルを完成させ、スタッフ全員が統一した指導ができ、1年間で目標を達成することができた。新人教育にあたったプリセプターは、初めてにもかかわらず教育熱心で頑張った成果がみられ、日々新人は育っている。

2、働きやすい職場環境作り

離職職員0を目標に離職防止を目指した。

透析室は、1フロアで常に患者さんにみられながらの同一業務のため、他の部署とは違ったストレスがある。その中で、離職防止に向けて職員全員が働きやすい環境づくりを心掛けることは大切な事である。

スタッフ全員がコミュニケーションを取る中で場を和ませる等、悩みが表出できるような話しやすい雰囲気づくりに心掛けている。その成果もあってか、1年間離職したスタッフはおらず、離職を考えているような言動や表情は見られなかった。今後も離職者が出ないように働きやすい職場環境づくり心掛けていこうと思う。

3、リプルチェックの徹底

マニュアルを遵守し、透析の一連の流れを通して確認を行うことで、医療事故が0になるよう目指した。

1年間でヒヤリハットは4件あったが、医療事故には至らなかった。ヒヤリハットは、その都度検証し、改善に努めている。透析を準備する段階や施行中・施行後にトリプルチェックのためサインをしているが、時々漏れることがある。抜けている箇所が決まってきているため、話し合いを持ち、改善できるように細かい取決めをして徹底を図った。今後も引き続き、徹底できるよう努力していきたいと思う。

<1年間のまとめ>

H24年度は、H23年度に比較して、延べ件数が368と減少した。その理由として、新規導入者が1名増えたものの、死亡者数が4名増えたことと依頼者数が10名減ったことが挙げられる。依頼者数が減った原因は、H23年4月に余震のため受け入れた依頼者が多かったためと思われる。しかし、年々新規患者が増えており、透析待機の患者が控えていることから、今後益々患者数は増加することが予想される。また、高齢化及び重症合併症の患者が増えてきている。

スタッフ数は、4月に2名増員になったが、1名は5月より病棟へ移動となったため実際は1名増員である。しかし、1名は新人であり、1名は夜勤免除者である。

3月からは4月導入予定の固定チームナーシングに向けて準備を開始した。今後は、看護方式を固定チームナーシングにし業務改善や業務整理を行いながら、安全で質の高い透析看護を提供していきたいと思う。

<文責 高橋佳子>

訪問看護センター

<平成24年度4月1日現在のスタッフ>

看護師	主任	小田嶋恵美子
看護師	副主任	佐々木康子
看護師		佐藤 友紀
事務		三浦由紀子

<移動>

平成24年5月	看護師	副主任	佐々木康子（退職）
6月	看護師	篠木	希望（育休明けから訪問看護センターへ）
11月		同上	（訪問看護センターから内科外来へ）
11月	看護師	師長	高橋千鶴子（3B病棟から訪問看護センターへ）
平成25年1月	看護師	主任	小田嶋恵美子（訪問看護センターから内科外来へ）

<機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。実践にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在、訪問看護の対象者は、終末期看護、中心静脈栄養、胃瘻、腸瘻、尿道カテーテル挿入、気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方の利用が増えている。

<特記事項>

秋田県立衛生看護学院、衛生看護科の在宅実習が今年で5年目を迎え、今年も実習生6名を受け入れ実習指導にあたった。

また、今年で7年目となる介護保険サービス事業所の情報公表に関しては、今年度より訪問調査は行われず、書類のみの調査となった。

<平成24年度訪問看護件数>

・訪問看護総件数	1454件
・訪問診察総件数	319件
・臨時訪問件数	125件
・訪問看護利用総人数	372人
・新規対象者数	29人
・死亡者数	26人（自宅13人、病院13人）

H24年度 訪問地区別利用者数

訪問地区	利用者数
横手	53
平鹿	6
大雄	1
山内	1
雄物川	0
増田	0
十文字	0
合計	61

H24年度 介護認定内訳

要支援	0
要介護1	0
要介護2	4
要介護3	6
要介護4	12
要介護5	32
医療保険	7

H24年度 年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	3	2	1
50～54	1	1	0
55～59	0	0	0
60～64	2	2	0
65～69	1	1	0
70～74	3	2	1
75～79	5	3	2
80～84	11	6	5
85～89	14	6	8
90～94	16	4	12
95～99	3	1	2
100	1	0	1
合計	61	28	33

H24年度 疾患別利用者数

疾患別	人数
脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）	13
心疾患（心不全等）	6
悪性疾患	13
特定疾患・難病（パーキンソン病等）	0
精神疾患（老人性痴呆等）	3
筋骨格疾患（骨折・関節症・骨粗鬆症等）	1
脳性麻痺	2
脳症（低酸素・インフルエンザ）	0
先天性疾患	1
呼吸不全	0
その他	22
合計	61

H24年度 利用者の医療処置状況

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	14
胃瘻	16
褥瘡	6
中心静脈栄養カテーテル	14
在宅酸素	3
気管カニューレ	3
ネーゼル	2
人工肛門	2
人工呼吸器	1
PTBD	0
腸瘻	1
処置なし	10
膀胱瘻	0
食道瘻	1
ペースメーカー	3

<文責 小田嶋恵美子>

M E 室

【体制】

< 室 長 > 吉岡 浩
 < スタッフ > 川越 弦 柏谷 肇 鈴木和平

【主な業務】

医療機器中央管理および院内機器管理（病棟・外来・手術室・透析室・新生児室など）
 各種血液浄化 胸・腹水処理 回収式自己血輸血 ラジオ波焼却装置操作
 心臓カテーテル検査 植込型および体外式ペースメーカー管理
 在宅医療における医療機器管理 教育・啓蒙 各種委員会への参加

【参加する委員会・諸会議】

医療安全管理委員会 医療安全カンファランス リスクマネージャー委員会
 医療安全管理室医療機器安全管理部会（透析機器管理委員会含む）
 手術室運営委員会 救急センター運営委員会 診療材料検討委員会
 防災対策委員会 会医療ガス安全管理委員会 業務連絡会議
 手術室月例会議 透析室月例会議

【各施行件数】 ※) 病棟管理の小型機器等は除く

	症例数	備考
持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）	4	総施行回数22回
エンドトキシン吸着（PMX-DHP）	4	総施行回数7回
白血球除去療法（LCAP）	4	総施行回数37回
腹水処理	13	総施行回数44回
人工呼吸器	24	
マスク型人工呼吸器（NIPPV）	3	
在宅人工呼吸管理者	1	
心臓カテーテル検査	36	
体外ペーシング	4	
ペースメーカー植込み	10	新規7件 交換3件
ペースメーカー外来	124	ケアリンクによるフォロー68件
下大静脈フィルター留置術	6	
回収式自己血輸血	32	整形30件 婦人科2件
ラジオ波焼却装置	5	

【中央管理室設置機器】 ※) 但し、貸出機に限る

機種	メーカー	モデル	備考
輸液ポンプ	テルモ	TE-161	26台
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	11台
シリンジポンプ	テルモ	TE-361	3台

ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-6701	2台
		BSM-3201/3202	各1台
人工呼吸器	IMI	VELA CP	1台
		VELA ST	1台
		AVEA	1台

【主な機器の異動】

① 『新規導入・更新機器』

機種	メーカー	モデル	設置部署	備考
セントラルモニター	日本光電	WEP-5218	3A病棟	1台
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-6701	ME室	1台
無停電装置	GS YUASA	THA1000-10-U	3A・4C病棟	2台
心電図送信機	日本光電	ZS-910P	ME室	10台
閉鎖式麻酔器	GE ヘルスケア	ESPIRE View Pro	手術室	1台
エアベッド加温装置	タイコ ヘルスケア	ウォームタッチ 5300A	手術室	3台
深部静脈血栓予防装置	COVIDIEN	Kendall SCD 700	手術室	7台
眼科手術用顕微鏡	カルツァイス	OPMI Lumera 700	手術室	1台
カメラコントロールユニット	Ikegami	MKC-507	手術室	1台
LCD ディスプレイ	Ikegami	MLW-2626C	手術室	1台
HDビデオレコーダ	JVC	SR-HD1500	手術室	1台
白内障・硝子体手術装置	ABBOT	ホワイトスターシグネチャー	手術室	1台

② 『廃棄機器』 ※) 病棟管理の小型機器等は除く

機種	メーカー	モデル	設置部署	備考
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-7202	ME室	1台
心電図送信機	日本光電	ZB-810P	各病棟	7台
心電図送信機	日本光電	ZB-811P	各病棟	5台
心電図送信機	日本光電	ZB-821P	各病棟	2台
心電図送信機	日本光電	ZB-861P	ME室	1台
輸液ポンプ	テルモ	TE-131	ME室	8台
閉鎖式麻酔器	アコマ	KMA-1300F II	手術室	1台
セントラルモニター	日本光電	WEP-3214	4C病棟	1台
呼気ガスモニター	GE (旧IMI)	ウルティマ SiV	ME室	1台
深部静脈血栓予防装置	COVIDIEN	ウォームタッチ 5200	手術室	3台

【点検・故障修理等の状況】 ※) 定期点検を除き、且つ記録に残っているもの

機種	メーカー	モデル	件数	メーカー修理
輸液ポンプ	テルモ	TE-161	8	
人工呼吸器	IMI	VELA-CP	1	
深部静脈血栓予防装置	大正医科	フオートロンEXCEL	3	1
深部静脈血栓予防装置	COVIDIEN	Kendall SCD-700	2	2
送信機	日本光電	ZS-940P	7	5
その他の送信機	日本光電	ZS-940P以外	2	廃棄

パルスオキシメーター	GE	タフサット	10	5
パルスオキシメーター	フクダ	スマートパルス	1	1
パルスオキシメーター	フクダ	その他2種	3	廃棄
電子血圧計	テルモ	エレマーノ	6	2
電子血圧計	テルモ	T3	2	廃棄
透析監視装置	日機装	DCG/DBG-03	40	5
透析液作製装置	日機装	DAD-50	5	1
透析液供給装置	日機装	DAB-20E	5	1
熱水消毒用ヒーター	日機装	DRH-45C	7	7
水処理装置	ダイセ	VCR-81HS	3	
浸透圧測定装置	日機装	OSA-21	3	1

送信機の修理は高額となる場合が多く、今年度で50万円もの修理費用が発生した。取り扱いには十分注意してもらいたいところである。電子血圧計やパルスオキシメーターは台数に比例して修理頻度も多い。機器によっては修理よりも更新費用の方が安く、早々に機種変更をしていくこととしている。

【機器におけるインシデント報告件数】

輸液・シリンジポンプ	7
ペースメーカー業務	2
モニター関連	1
血液浄化	2
人工呼吸器	1
酸素投与	1
手術室機器	2
透析室機器	6

報告件数は22件であったが、事例内容が同一のものを含む。
原因の多くは「ヒューマンエラー」。

【院内報の発行】

- 4/20 送信機や小型機器の取扱いについて、他
- 5/30 閉鎖式吸引への質問、他
- 7/6 節電対策、静脈血栓症予防装置SCDについて、他
- 11/28 医療機器の電源確保について、事例紹介、他
- 1/21 Tピースについて、シリンジやエクステンションのロック化について、他
- 3/8 エクステンションチューブの再考、キシロカイン製剤について

【業務改善・質改善等】

- ①医療機器安全管理部会が隔月開催と、ほぼ定期的で開催されている。
- ②定期点検、水質検査等は問題なく行われており、結果も問題ない。
- ③医療安全管理室との連携のもと、教育計画が立案され、ほぼ予定通りに実施した。
- ④セントラルモニター「WE P-4218」への無停電装置の導入により、短時間ではあるがバッテリーによる稼働が可能となった。

- ⑤シリンジやエクステンションチューブのロック化推進、使用の適正化、TピースのME管理により安全性を向上させることができた。
- ⑥消化器センタースタッフの協力のもと新たな管理台帳を作成し、修理・故障対応など、内視鏡及び周辺装置の適切な管理を開始することができた。
- ⑦病棟管理の電子血圧計やパルスオキシメーターの運用について機種の統一や消耗品の管理、故障修理対応など、その運用が効率よく行われるようになった。

【学術発表・他】

- 6/22～24 第57回 日本透析医学会
「多人数用透析液供給装置「DAB-E」給水部への消毒方法の検討」(川越)

【学会・研修会への参加】

- 5/21 県南CEセミナー
- 4/14 体外式ペースメーカー研修会(柏谷)
- 7/13 CARTの基礎知識について
- 7/21 県技士会「秋田・山形」Yボードセッション
- 8/24～26 血液浄化専門臨床工学技士「指定講習会」(川越)
- 10/6 ペースメーカー研修会(柏谷)
- 1/23 医療の安全対策研修会
「医療機器と安全管理、医療メディエーションと医療安全」(川越)

【院内研修の実施】

- 4/6 新採用者オリエンテーション「医療機器の取り扱い」
- 4/19・25 新採用者ポンプ研修「TE-161およびTE-331の基本操作」(1班・2班)
- 5/1 新採用者ポンプ研修「TE-131、161、331とDCG-03付属シリンジポンプ」(透析)
- 5/1 新採用者に対する機器研修「輸液・シリンジポンプ、モニター、除細動器」(既卒者)
- 5/15 心電図モニター導入時研修「WEP-5208の取扱い」(3A病棟スタッフ)
- 5/21 深部静脈血栓症予防装置「SCD-700の取扱い」(手術室スタッフ)
- 5/23 新採用者ポンプ研修「TE-131、371の使用法」(手術室新採用者)
- 5/23 新採用者ポンプ研修「TE-131、161、331とDCG-03付属シリンジポンプ」(透析)
- 5/24 AED「AED-9231の使用法」(医療職以外のスタッフ他)
- 5/25 ベッドサイドモニター「BSM-6701の使用法」(手術室新採用者)
- 6/12 透析室機器研修「DCG、アシスタント、機械室機器」(透析新採用者他)
- 6/27 麻酔器導入時研修「ESPIRE View Pro」(手術室看護師)
- 8/29 除細動器研修「TEC-5531およびTEC-7721」
(新採用者・未経験者・希望者)
- 10/25 新採用者ポンプ研修「TE-161およびTE-331の基本操作」
(3B病棟新採用者)

- 1 / 3 「人工呼吸器①」準備と基本操作、概要（新採用者・未経験者・希望者）
- 3 / 6 「人工呼吸器②」換気モード、トラブル観察（新採用者・未経験者・希望者）
- 3 / 25 「ポンプ中級編」警報の原因と対処、観察（新採用者・未経験者・希望者）

【総括】

「ME室」が実際の「医療機器安全管理室」というややこしい状況から数年が経過し、より多くの機器や部署に携わるようになった。機器は更新や機種統一が進み、鏡視下手術装置など高額機器の台数増も見込まれる。更に次年度より眼科の白内障手術が始まることで新たな顕微鏡装置も導入された。今後も機器の更新と管理機器は増えることが想定され、自分たちの役割はますます重要になると思われる。より質の高い安全な医療を提供するため、今後も驕ることなく研鑽していかなければならない。

機器のトラブルは発生頻度が少ない割に、いざ発生すると致命的となりやすく、その原因はヒューマンエラーが多い。対応は機器に性能を求めるだけでなく、携わる人間の質も問われることであり、自らも意識を高めつつ職務を努めていきたい。

<文責 川越 弦>

臨床検査科

スタッフ	佐藤恵美子	(技師長)
	平塚多喜雄	(室長)
	小丹まゆみ	(室長)
	佐々木絹子	(室長)
	工藤真希子	(主任)
	長瀬 智子	(主任)
	佐々木美奈子	(主任)
	和賀 幸子	(主任)
	大嶋 聡子	(主任)
	柴田 一美	(副主任)
	加賀谷美智子	(検査技師)
	村上さとみ	(検査技師) (平成24年 7月71日まで)
	松井富美子	(業務員)

目標 正確かつ迅速な結果報告で安心できる良質な医療へ寄与する

検体検査

4月から新しいスタッフが加わり「心機一転」頑張っていたが、途中退職者があり結局いつもの気忙しい毎日であった。

生理検査

超音波検査では、腹部エコー、乳腺エコーの検査対象が健診受診者のみだったのが、外来患者様にも実施することとなり業務は拡大したが、経験する症例のバリエーションが大幅に増え、緊張の連続であった。日々鍛練の大切さを感じながら業務に当たった。

病理検査

理医の来院日、週3回のサイクルに慣れ、業務配分が円滑になった。また、結果報告の時間短縮が成されていることを実感している。

検査科全体としては、皆の長年の願いであった、「嘱託職員の労務環境改善」が実現できた。時間外待機および早朝検診業務は、職員の人数が少ない為止むを得ず、ずっと嘱託職員も負担してくれていた。しかし、数年前「早朝検診は職員だけで」から始まり「時間外は月1回ずつ」待機をすると少しずつ改善に努めてきた。そして、年度途中からではあるが時間外待機と早朝検診は職員だけで負担し、嘱託職員の業務を軽減する！が実現した。

これには職員の意識改革と大きな努力が必要であった。途中退職者が2年続き、日々の業務に多大なる影響が出ることを痛感した為、話し合いを重ね業務分担の見直しをした上で、全員の意思が結集してやっとのこと成しえた。これは、検査科における全員で成し遂げた大きな改革である。

全自動尿分析装置 AUTION MAX AX-4030を導入して

平成24年5月より、全自動尿分析装置 AUTION MAX AX-4030が導入された。今までの尿分析装置との大きな違いは、2つの試験紙フィーダーを内蔵しており、多種類の試験紙を搭載できることである。これにより、平成25年4月より健診センターの尿検査を項目数の少ない試験紙（ケトン・ビリルビン除く）に変更し、外来入院検体と使い分けて検査することが可能となった。今回の導入により、試験紙のコスト削減につながった。また、トラブルが多かった前機器に比べて、測定精度、メンテナンス性が向上し、業務の効率化・高速化が得られた。今後ともよりいっそう、正確かつ迅速な結果報告に努めていきたい。

便潜血測定装置OCセンサーDIANAを導入して

平成24年4月、便潜血測定装置OCセンサーDIANAが導入された。この分析装置は、一度に最大250検体の測定が可能で、測定からデータ処理まで多機能を搭載している。従来の機器は、最大10検体の処理能力しかなく、何度も検体を載せては測定操作を繰り返し、作業効率の悪い業務を行っていた。また、健診の便潜血検査件数が年々増加し、業務への負担がさらに大きく、結果報告にも時間を要していた。今回の導入により、一度に多量検体を架設できることから、迅速な結果報告、業務の効率化が得られた。

<文責 和賀幸子>

年間検査実績(件)

検体検

尿一般	30,958	生化学		赤沈	3,669
尿定性	17,554	血糖	26,723	血ガス	2,081
尿沈渣	10,606	HbA1c	15,964	免疫関連	2,971
便潜血反応	4,739	血液一般	72,135	輸血関連	3,102
インフルエンザ	2,843	凝固線溶	9,682	乳幼児	2,226
一般細菌	2,209	感染症	15,615	外注	21,366
結核菌関連	1,050	腫瘍マーカー	8,271	外注率(%)	

生理検査

心電図	11,751	簡易聴力検査	7,199	腹部エコー(検診)	1,647
ホルター心電図	330	スパイログラフィー(VC・FVC)	2,191	甲状腺エコー	55
マスターダブル	294	眼底カメラ	1,823	頰動脈エコー	323
マスタートリプル	6	脳波	63	心エコー(UCG)	1,749
トレッドミル	10	MCV	168	指尖容積脈波	6
24時間心電血圧計	14	新生児聴力検査	163	血圧脈波	294

病理細胞診

生検	982	術材	946	細胞診	731	婦人科細胞診	3,977
----	-----	----	-----	-----	-----	--------	-------

<文責 佐藤恵美子>

食 養 科

平成23年度年報の原稿をしたためたのが、ついこの間のように感じるのに、また平成24年度年報に着手する時期がやってまいりました。まさに「光陰矢の如し」否、激流の如しです。

ところで毎年、管理栄養士・栄養士をめざす実習生（大学・短大・高校生）たちが来院します。そこで、ひととおりの業務（献立作成・発注・検収・栄養管理計画書作成・調理・盛り付け・配膳等々）を体験して頂くことにしていますが、先頃、実習を終えた一人の学生から便りを頂戴しました。そこには、「管理栄養士は、一人のドクターとして働いているような姿がとても印象的でした。」と書かれてありました。これは、NSTラウンド・諸々の病気に対する栄養指導風景・透析室見学等を体験しての感想だと思われます。

実際、NST業務については、医師をはじめ各メンバーが栄養に関しての問題点を話し合い主治医に提案したり、ベッドサイドにて直接患者さんに触れ、栄養不足からくる体重減少に対する栄養補給の方法・栄養剤や点滴の選択や投与方法、また下痢や嘔吐や逆流といったトラブルへの改善策を検討するのですが、これらに対応していくためには、確かに高度な医学的知識を要します。また、我々が実践している栄養指導は疾病の重症化予防・治療の基本となる重要なものであり、指導するという事は、患者さんの代謝への介入であり一種の医学的な侵襲です。このように考えると、まさに我々の業務は医療行為に他なりません。

医学界は日進月歩です。それは我々の業界も同じであり、昨日まで正しいと思って指導していた事が、今日になっていきなり覆される事も往々にしてあるのです。ゆえ、我々は日々、積極的に研鑽を積まなければいけない事を痛切に感じます。

私はこの1通の便りをとおして、深く考えさせられた気がします。

時代のニーズに応えられる管理栄養士、そして学生が感じ取ったような一人のドクターに近づけるよう頑張らなければいけないと改めて思います。

また、これからも後進の育成の為、微力ながら尽力してまいりたいと思います。

*スタッフ

技師長	原田 優子
主任	川越 真美
主席調理技能士	天羽 勝義
調理主任	小松 信宏
嘱託事務員	幕沢 美紀・藤原 由香
嘱託職員	松井世津子・佐藤 殉子・高橋 麗・石川 勝美・百合川智賀子 高橋 広美・高橋加奈子・二坂由紀子・長瀬 卓 富永美保子（平成24年7月退職） 平井 貴子（平成24年8月退職） 細川 陽子（平成24年9月退職） 赤川 千恵（平成25年3月退職）
パート職員	田中 澄子・小山 訪子・藤原 明香

計22名

*活動状況

《院内活動実績》

平成24年10月14日	コメディカル研究発表会 「糖尿病教室12年間の取り組みとその成果について」	川越 真美
-------------	--	-------

《出前健康講座実績》

平成24年4月3日	四ツ屋会館にて	川越 真美
平成24年6月25日	樋ノ口会館にて	原田 優子
平成24年12月28日	余目会館にて	原田 優子

***実習生受け入れ状況**

平成24年8月1日～2日 横手清陵学院高等学校インターンシップ 高橋 和恵
 平成24年8月20日～9月1日 秋田栄養短期大学 壽寿木 葵

***主なでき事**

平成24年6月1日～2日 第64回病院給食協議会開催（横手セントラルホテルにて）
 *当番病院＝市立横手病院
 平成24年7月1日 患者サポート体制「総合案内」スタート
 平成24年9月11日 東北厚生局による「施設基準適時調査」
 平成24年12月1日 「秋田県糖尿病療養指導士」に認定となる (原田 優子)
 平成24年12月14日 秋田県平鹿地域振興局による「巡回指導」

平成24年度食数及び給食材料費

区分	食 数				1人1日当たり単価			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	3939	2495	4538	10972	758	723	544	662
5月	3946	3083	3468	10497	763	575	668	676
6月	4338	3110	3540	10988	640	666	570	625
7月	4206	3077	3413	10696	705	602	565	631
8月	4604	2855	3701	11160	619	731	586	637
9月	4915	3611	3196	11722	597	530	684	600
10月	4611	3173	3816	11600	672	723	567	651
11月	4504	2934	3050	10488	631	628	657	638
12月	5174	3220	3735	12129	708	715	667	697
1月	4107	3151	2985	10243	798	603	774	731
2月	4875	3188	2956	11019	616	608	634	619
3月	4969	3505	2626	11100	661	576	706	645
合計	54188	37402	41024	132614	8168	7680	7622	7812
平均	4516	3117	3419	11051	681	640	635	651

平成24年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	肥満症					1	2						
	糖尿病	4	1	3	2	2		6	2	3	1	3	3
	脂質異常症				1	1	3		2	1			
	慢性腎不全				1		1		1				
入院	手術後食	2	2	2	1	2						3	1
	糖尿病	5	2	3	1	6	3	6	1	2	1	4	2
	心疾患												
	慢性腎不全			1	1			1	1	1			1
	ミキサー食	1			1	1	1	4		1			
	クローン病		1					1		2			
その他													
集団	糖尿病			9	3	3	1	2	2	8		3	3
合計人数		11	6	18	11	16	12	14	10	15	2	13	10

<文責 原田優子>

健康管理センター

スタッフ

所 長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師	鈴木久美子	(看護科兼務)
保健師	松浦 喜美	(看護科兼務)
保健師	伊藤真理子	(看護科兼務)
看護師	高松志美子	(平成24年 6 月から・看護科兼務)
副主査	柴田 昌洋	
事務員	菊地 智子	
事務員	藤倉 美穂	
事務員	奥山沙耶香	
事務補助	笹山 早苗	(平成24年 7 月まで)
事務補助	藤井 利香	(平成24年 8 月から11月まで)
事務補助	佐藤 薫	(平成24年 8 月から11月まで)
事務補助	深瀬 誓子	(平成24年 8 月から11月まで)

概 要

主な健診項目での対前年度比では、延べ受診者数で11,844名となり、昨年度と比較して3.77%の増となりました。なお実質の受診者数は、8,145名です。請求額は164,144千円で10,664千円、6.95%増となり、健康管理センター開設以来はじめて1億6千万円を突破しました。この実績は、院内関係部署各位のご理解ご協力により達成されたものであり、心より感謝申し上げます。

健診受診者への対応と二次検診予約窓口への対応や受診者への継続フォローといった本来の業務の他、外来部門での健康診断や予防接種の担当や、院内職員健康管理として衛生委員会の指示のもと感染データ管理や各種予防接種対応などといった部署外の業務も当センターが引き続き担っております。加えて今年度は国立がん研究センターから当院に「次世代多目的コホート研究」への協力要請があり、当センターが窓口となって研究協力を行う事となりました。これらから、当センターの業務の範囲や量は年々拡大・増加し続けております。

引き続き当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づく「地域医療・保健に貢献します。」の基本方針実現に努めるとともに、二次検診を通して保険診療部門へ貢献する事で、健全な病院経営に資するよう頑張っております。

平成24年度目標

1. 二次検診受診率の向上
2. 療事故ゼロを目指す
3. 日本人間ドック学会「人間ドック機能評価Ver2.0」の申請準備

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
政管一般健診・付加	1,842	2,465	2,671	2,980	3,125
日帰り人間ドック	957	939	1,018	1,000	1,109
宿泊人間ドック	184	185	182	259	275
脳ドック	134	128	158	161	181
市役所関係職員健診	2,477	1,900	1,933	1,946	1,919
事業所健診	718	759	675	803	930
子宮がん検診	1,950	1,889	2,080	2,009	2,029
乳がん検診	1,500	1,634	1,669	1,730	1,749
B型肝炎検査	431	462	473	491	527
小計(件数)	10,193	10,361	10,859	11,379	11,844
増減率(%)	6.47	1.65	4.81	4.79	3.77
二次検診(自動車健保)	56	—	—	—	—
合計(件数)	10,255	10,361	10,859	11,379	11,808
請求額(千円)	130,993	135,925	146,627	153,480	164,144
増減率(%)	5.61	3.77	7.87	4.67	6.95

参考資料

特定健康診査	受診者	122名	請求額	836,360円
特定健康指導	受診者	9名	請求額	79,380円
内臓脂肪CT	受診者	51名	請求額	153,000円
肺CT	受診者	25名	請求額	300,000円
腫瘍マーカー	受診者	585名	請求額	1,826,340円
ピロリ抗体	受診者	58名	請求額	58,000円
乳腺エコー	受診者	31名	請求額	62,000円
HPV検査	受診者	91名	請求額	273,000円

平成24年度(2012年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数	請求金額	検査料金	消費税
協会けんぽ一般健診	2,973	49,115,932	46,777,079	2,338,853
付加健診	152	3,419,403	3,256,575	162,828
子宮ガン検診	133	423,570	403,400	20,170
子宮ガン(オプション)	538	1,635,178	1,557,313	77,865
乳ガン(オプション)	492	2,058,197	1,960,188	98,009
肝炎ウイルス検査	480	952,320	902,400	45,120
日帰り人間ドック	1,109	36,004,302	34,289,812	1,714,490
宿泊人間ドック	275	17,037,805	16,226,481	811,324
脳ドック	181	6,044,130	5,756,315	287,815
市役所関係職員健診	1,919	17,285,566	16,462,444	823,122
事業所健診	930	15,425,841	14,691,278	734,563
婦人科検診	1,358	5,015,034	4,776,223	238,811
乳ガン視触診・マンモグラフィー	1,257	5,403,297	5,145,998	257,299
B型肝炎検査・接種	527	735,819	700,780	35,039
CT・腫瘍マーカーほかオプション	841	2,672,340	2,545,086	127,254
特定健康診査・特定保健指導	131	915,740	872,134	43,606
合計	13,296	164,144,474	156,323,510	7,816,164

< 文責 柴田昌洋 >

事務局

介護報酬と同時改定となった平成24年度の診療報酬改定は、診療報酬本体でプラス1.38%、薬価改定等はマイナス1.38%となり、全体ではプラス0.004%とわずかながらプラス改定となりました。入院、外来ともに一日あたりの診療単価は増えましたが、在院日数が短くなったことなどから患者数が減少し、決算は厳しいものとなりました。

今年度は、地域医療連携室の体制強化、患者サポート体制の構築、感染対策室を独立させ、9月議会では定数条例の改正を行って組織体制の強化に努めた一年でした。また、年度の後半は、眼科の手術開始に向けて、関係部署が連携して対応にあたりました。

患者サービスの面では、患者サポート体制の一環として総合案内を開始したほか、増改築事業に伴って郵便ポストの設置場所が遠くなり不便になったことから、「院内ポスト」を設置し、患者さんの利便性の向上を図りました。

患者さん中心に安心・安全な医療の提供に努め、地域の人々に信頼される病院を目指して努力してまいりました。今後も引き続き、経営の健全化に努め、地域の人々の信頼に応えるべく努力してまいります。

<文責 佐藤正弘>

総務課

企画係

スタッフ 係長 高橋 功 (兼総務課長、経営企画課主幹)
副主査 黒澤 雄悦 (兼経営企画課企画経営係副主査)
嘱託事務員 阿部千鶴子 (兼医療安全対策室)

業務内容

- ・病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・病院機能評価の取得・継続に関すること。
- ・病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・病院広告及び広報に関すること。
- ・病院ホームページに関すること。
- ・皆様の声（投書箱）の回収、回答等の処理。
- ・外来・入院患者さんアンケート調査、集計等処理。
- ・職員提案制度に関すること。
- ・臨床研修医制度に関すること。
- ・市立横手病院学術振興基金に関すること。
- ・医療安全対策及び院内感染対策における庶務に関すること。
- ・秋田県医療学術交流会事務局に関すること。

人事異動により、スタッフ3人中、2名が異動になりました。このため、不慣れな点が多く、また、企画係は、組織上、横手市病院事業（病院部）の企画経営課を兼務するため、対応に遅れがあり、いろいろと院内外へご迷惑をおかけした点があるのではないかと反省しております。

そのようななかではありましたが、「24年度病院目標」の策定を受けて、これに基づく院内各部署・部門別目標の策定及び総括、病院機能評価の更新や経営改善に向けた調査、検討を継続的に行いました。経営改善に向けた検討項目のうち、「医師等修学資金貸与制度」については、医師や看護師等の確保の点から、実施に向けた情報収集及び検討を行いました。国、県等における「医師不足・偏在改善計画」等との兼ね合いから、引き続き、検討していくことといたしました。

業務内容の項目のうち、事務事業の改善については、診療医業に関わる部分は「業務改善委員会」が担当しており、企画係では、事務部門における経費節減について重点をおき、病院事業として大森病院との物品の共同購入等のに向けた調査等も行いました。また、ポスター印刷機を購入したことに伴い、その利用及び使用料に関する要綱を定めて平成24年10月1日より適用を開始しました。

しかし、職員提案制度は周知されているものの、24年度においては提案制度に合致した案件は無く、組織活性化とともに課題として残されました。

広報活動でも病院広報誌を4回（29～32号）発行し、市内全戸配布を行うとともに病院ホームページを随時更新し、最新の内容となるように努めてまいりました。

また、患者さん及びそのご家族様等からの「皆様の声」は77件（感謝33件、苦情34件、要望10件）をいただいております。直ちに関係部署へ投書内容を知らせるとともに改善すべき点や謝罪すべき点等の対応を取り、その内容を院内掲示や投書いただいた方へ回答いたしております。

外来・入院患者さんアンケート調査については「患者サービス向上委員会」、臨床研修医制度に関しては「臨床研修管理委員会」、市立横手病院学術振興基金については「学術研究実績」の項に記載されておりますが、その事務について担当いたしました。また、学会発表については、その参加者だけでなく、広く院内の職員へも知っていただくように、B棟4階に掲示板を設置されており、24年度においては5件のポスター掲示が行われました。

医療安全対策においては事務1名が兼務し、庶務を担うとともに院内感染対策でも係として対外的な折衝事務等を行い、その活動や研修会等の支援を行いました。

秋田県医療学術交流会事務局としては、平成24年11月25日（日）秋田市 秋田県総合保健センターにおいて「第20回秋田県医療学術交流会学術大会・総会」を開催し、一般演題11題、会員交流演題2題の発表と特別講演として「物語を旅する」と題して、探検家 高橋 大輔 氏の講演を行いました。

当院からも一般演題で「仮想化技術による医療情報システムの効率化」と題して、医療情報管理室 千葉 崇仁さん、会員交流で「霧箱を用いた身近な放射線存在の啓発を行って」と題して、診療放射線科 細谷 謙さんが発表を行いました。

内19会員（病院・施設）から130名、当院からは31名の参加となっております。また、今回は20回という節目の大会であり、「創立20周年記念誌」として第10回から19回までの演題の抄録集を発行いたしました。

<文責 高橋 功>

総務係

スタッフ	藤木正文、菊池 優、亀谷良文、後藤美佐子、佐藤ひろみ、長澤克彦、三浦和也、津川明子、藤田千紘、高橋道夫
業務内容	人事・給与支払等管理業務 旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務 文書收受・発送・保管業務 電話交換業務 公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務 選挙事務（院内入院患者の不在者投票） 互助会会計事務

医局秘書担当

スタッフ	谷口明美
業務内容	医局関連庶務業務全般 医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】 医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務 医局費、旅行積立金収支報告処理業務 医師給与に関する書類の作成業務 医局行事のセッティング業務

事務当直

スタッフ	佐々木悟、茂木伸悦、小田島定男、照井利明
業務内容	夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備

スタッフ	照井祐一、堀江 努、佐藤 賢、今氏尊保、金 征徳
業務内容	夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

<文責 藤木正文>

管財係

スタッフ	係長（薬品担当） 阿部光子
	物品担当 菅原祐司、照井真澄、伊藤有希子
	施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ
	ボイラー室 柿崎更生、杉田健一、堀江敦司、山中慎太郎、千葉禎彦、佐藤幸夫
	駐車場 珍田 健、黒沢秀利、谷口英明、向井直樹、久米友樹 佐々木政雄（～9/30）

*係長（薬品担当）

業務内容

- ・管財係統括

- ・医療機器の購入に関すること
- ・医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・酸素使用状況調査
- ・職員被服の見積・発注
- ・未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・棚卸資産調査、統計に関すること
- ・院内掲示に関すること
- ・行政財産使用許可業務
- ・その他管財係に関する業務

*施設担当

業務内容

- ・施設の営繕、保全に関すること
- ・建物、設備の保全に関すること
- ・防災に関すること酸素使用状況調査
- ・廃棄物に関すること
- ・医師住宅の施設管理に関すること
- ・危険物の管理保全に関すること
- ・駐車場に関すること
- ・用地の取得、処分に関すること
- ・工事請負契約、委託契約、賃借契約に関すること
- ・警備に関すること
- ・除排雪に関すること
- ・医療用ガスの保全に関すること
- ・院内の環境整備に関すること
- ・エネルギー管理に関すること
- ・未払金入力処理
- ・開設許可事項変更届出事務に関すること
- ・消防・危険物等届出事務に関すること
- ・行政財産使用許可業務
- ・その他施設に関する業務

*用度担当

業務内容

- ・医療材料・消耗品の価格交渉、発注、払出業務
- ・石油製品の価格交渉、契約
- ・市有物件災害共済会事務
- ・未払金入力処理
- ・特定治療材料の調査に関すること
- ・医療材料等の使用状況調査・在庫管理に関すること

- ・委託契約、賃借契約に関すること
- ・備品購入、備品修理に関すること
- ・備品台帳の管理
- ・その他用度に関する業務

*ボイラー室

業務内容

- ・ボイラー室の保守管理
- ・空調機械保守管理
- ・冷暖用ファンコイル保守管理
- ・蛍光灯交換及び管理
- ・冷房・暖房運転
- ・自家発電機の管理
- ・重油取り扱い及び管理
- ・医療ガス情報監視、点検及び酸素ポンベ交換
- ・その他施設に関する業務

○宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請件数

警報関係	37件
施設関係	47件
蛍光灯関係	45件
ナース関係	53件

○委託契約業務

件数	41件
----	-----

○賃借契約業務

件数	32件
----	-----

○医薬品見積状況

試薬	H24. 4. 1	534品目
薬品	H24. 12. 1	1564品目

○医療機器契約業務

契約件数	内視鏡洗浄消毒装置	他44件
契約総額	¥196, 442, 633. -	

○建設改良

- ・電話交換機更新工事
電話交換機・内線電話機（PHS含む）・PHSアンテナ等を更新
- ・A棟非常用照明設備更新及びその他工事
A棟の非常用照明器具及びA・B棟1階のトイレ呼出機器を更新

平成24年度 医療機器購入一覧

番号	品名	科 課 名
1	内視鏡洗浄消毒装置	消化器内科
2	高解像 LCD モニター	消化器内科
3	高周波焼灼電源装置	消化器内科
4	簡易画像記録装置	消化器内科
5	内視鏡 DCR 撮影端末増設および更新	消化器内科
6	超音波診断装置	外科
7	オクトパス万能開創器	外科
8	手術室生体情報管理システム	麻酔科
9	エアーストレッチャー	麻酔科
10	血液凝固測定器アクタライク	麻酔科
11	レサシフロー	産婦人科
12	分娩監視装置 ベビーアクト	産婦人科
13	Web 画像システム拡張	放射線科
14	画像システム ハードウェア更新	放射線科
15	レポート作成用 PC	放射線科
16	ハンフリーフィールドアナライザー	眼科
17	レッドコード(メディカルプロ)	リハビリテーション科
18	リハビリシステムバージョンアップ	リハビリテーション科
19	ハンドウェイト用ラック	リハビリテーション科
20	ディジョックボード (セット)	リハビリテーション科
21	スチームコンベクションオーブン	食養科
22	深部静脈血栓症予防装置	ME室
23	麻酔器	ME室
24	ベッドサイドモニターPVM	ME室
25	ベッドサイドモニターBSM	ME室
26	医用テレメータ	ME室
27	無停電電源装置	ME室
28	送信機	ME室
29	電動油圧手術台	ME室
30	X線線量計	診療放射線科
31	全自動尿分析装置	臨床検査科
32	採血業務支援システム増設	臨床検査科
33	低温プラズマ滅菌装置	手術室
34	メーティスシリーズベッド ベッドサイドレール	看護科
35	自動視力計	健康管理センター
36	電子カルテ端末更新	医療情報管理室
37	サーバ仮想化構築	医療情報管理室
38	画像系ネットワーク更新	医療情報管理室
39	イリゲーションポンプ	手術室
40	ハイローストレッチャー	2病棟
41	CPM	4C病棟
42	フライトパーソナル・プロテクション・システム	手術室
43	光学視管	手術室
44	電子ミシン	中材
45	眼科用手術機器一式	眼科外来・手術室

薬品購入実績

	23年度	24年度
内服	146,696,787	139,949,627
注射	427,071,265	426,216,578
外用	29,497,748	25,549,059
血液	25,009,039	20,643,739
試薬	64,771,651	66,850,940
合計	693,046,490	679,209,943

(消費税含まない)

医療消耗品（特材、一般）購入金額一覧

	H23			H24		
	医療消耗	特材	一般	医療消耗	特材	一般
4月	21,809,046	7,650,406	14,158,640	30,361,739	14,973,357	15,388,382
5月	25,035,490	10,780,814	14,254,676	22,313,707	8,807,261	13,506,446
6月	26,696,385	12,331,506	14,364,879	29,079,227	14,971,431	14,107,796
7月	24,148,420	9,601,387	14,547,033	29,555,638	14,501,154	15,054,484
8月	31,429,813	15,214,964	16,214,849	31,204,269	15,322,463	15,881,806
9月	28,456,728	14,818,716	13,638,012	27,981,524	10,355,973	17,625,551
上期	157,575,882	70,397,793	87,178,089	170,496,104	78,931,639	91,564,465
10月	28,683,162	13,305,130	15,378,032	30,575,244	12,019,939	18,555,305
11月	32,345,848	15,985,250	16,360,598	30,659,755	12,595,979	18,063,776
12月	36,420,327	18,383,856	18,036,471	33,110,157	13,557,451	19,552,706
1月	25,579,546	11,627,853	13,951,693	24,249,114	8,595,551	15,653,563
2月	25,788,462	10,298,527	15,489,935	22,646,890	9,471,394	13,175,496
3月	23,229,014	8,642,622	14,586,392	21,765,015	7,747,243	14,017,772
下期	172,046,359	78,243,238	93,803,121	163,006,175	63,987,557	99,018,618
合計	329,622,241	148,641,031	180,981,210	333,502,279	142,919,196	190,583,083

< 文責 阿部光子 >

医事課

平成24年度診療報酬請求では、入院収益は前年度と比較して-3.3%、外来収益は前年度と比較して-3.2%となったが、入院単価は43,651円で前年と比較して1,085円の増、外来単価は9,205円で前年と比較して120円の増となった。

単価増の理由としては、平成24年度診療報酬改定により新規届出項目として、患者サポート体制充実加算・データ提出加算・急性期看護補助体制加算等の取得や手術単価のアップ、DPC機能評価係数Ⅱの効率性指数・カバー率指数・救急医療指数のアップがあげられる。

特にDPCに関しては、前年度と同様に診断群分類ごとの平均在院日数について検討を行い、各担当医師と協議をしながら平均在院日数の短縮に努めた。

会計窓口では、診察を終えた患者さんが当日の医療費計算ができていないのかを確認できる「会計受付窓口」を新たに設置した。これにより、患者さんが診察終了後直接会計支払い窓口へ殺到しないため、会計収納業務時の混雑がなくなりスムーズな対応が可能となった。

医事課組織

- ・ 医事係 入院事務担当 外来事務担当
- ・ 会計係
- ・ 医療相談室

平成24年4月1日現在のスタッフ

浮嶋 優子	柿崎 正行	石山 博幸	照井 圭子	百合川深里
石塚 紫	伊藤 雅子	田澤 妙子	谷川香奈子	伊藤 雅子
佐々木有紀子	瀬田川春香	佐々木和貴子	照井希世子	高橋真知子
高橋由紀子	青池 満雄	村田 芳江	伊藤喜美子	藤原 明子

医事課の業務内容

- ※窓口業務 受付窓口・会計窓口
- ※医療費請求業務 入院・外来・公費負担請求
- ※医療相談業務 医療相談窓口

<文責 浮嶋優子>

医療安全管理室

概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。

平成20年4月より、医療安全管理室に専従の医療安全管理担当者を配置しており、23年度から医療安全管理者が交替し2年目の活動となった。

医療安全管理者は、病院全体の医療安全に関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務める。

構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長 | 吉岡 浩 |
| 2) 医療安全管理室副室長（専従医療安全管理者） | 木村恵美子 |
| 3) 医薬品安全管理者（兼任） | 石田 良樹 |
| 4) 医療機器安全管理者（兼任） | 川越 弦 |
| 5) 医療安全管理室事務（兼任） | 阿部千鶴子 |

業務

- 1、院内報告制度の整備ひやりハット報告書の検討集計・分析
- 2、医療安全の委員会に関する活動
医療安全管理委員会・リスクマネージャー委員会・感染対策委員会・救急運営委員会・輸血療法委員会・化学療法委員会 etc.
- 3、医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案 ひやりハット通信の作成・回覧
- 4、医療安全の為の指針やマニュアルの作成
 - 1) 医療安全に関する指針・規程の見直し
 - 2) 医療安全マニュアルの作成
- 5、医療安全に関する研修・教育

平成24年度医療安全研修会

月	内容	担当	対象	日付
4月	新採用者研修 医療安全対策(総論・各論)	医療安全管理室	新採用職員	4月3日
	基礎看護技術の研修 採血・吸引について	看護科	看護科新人看護師	3月30日
5月	血液による感染症	秋田赤十字血液センター	看護科新人看護師・新規採用職員・希望者	5月18日
	心肺蘇生の手順とAEDの使用方法	整形外科医師 ME川越	看護科新人看護師・新規採用職員・希望者	5月24日

6月	転倒のリスク評価とその予防 不眠とせん妄への対策	秋田大学病院精神科准教授 神林崇氏	医師・研修医・看護科・薬剤師	6月6日
	KYT-危険予知トレーニング	テルモ株式会社	新人職員・2～3年目	6月25日
8月	中途採用職員研修	医療安全管理室	中途採用者（看護師）	8月1日
	医療安全研修 「医療安全管理について」 講師：秋田組合総合病院成 田雪美氏（GRM）	医療安全管理室	全職員	8月24日 9月27日 （フォロー研修）
	除細動器の勉強会	医療機器安全管理責任者	研修医・看護科（昨年受講できなかった方）	8月29日
9月	造影剤検査のリスクマネージメント	放射線科技師長 第一三共（株）	医療職	9月7日
10月	看護補助者研修 当院の医療安全管理	医療安全管理室	看護補助者	10月2日
11月	CVポートの管理について	医療安全管理室	医師・薬剤師・看護師	11月5日 19日21日
	自己血採血について	医療安全管理室	2A／4C病棟看護師・外来看護師・他	11月27日
1月	医療安全パネルディスカッション「各職場に於ける医療安全への取組み」	医療安全管理室	全職員	1月23日
	人工呼吸器の取り扱い 初級編	医療機器安全管理ME川越	研修医・新人看護師・希望者	1月30日
3月	MRI検査の事故防止 放射線検査被爆について	医療安全管理室 診療放射線科	医師・研修医・看護師 放射線技師	3月4日
	換気モード設定・装置と患者確認気道管理について	医療機器安全管理ME川越	研修医・新人・病棟看護師	3月6日
	輸液・シリンジポンプの安全使用について	医療機器安全管理ME川越	研修医・新人看護師・最近研修に参加できなかった方	3月25日

6、医療安全に関する院外からの情報収集と対策 医療安全情報の掲載

7、医療安全に関する院内評価業務

投薬確認の監査薬品保管に関する監査

救急カートの整備状況監査

【主な内容】

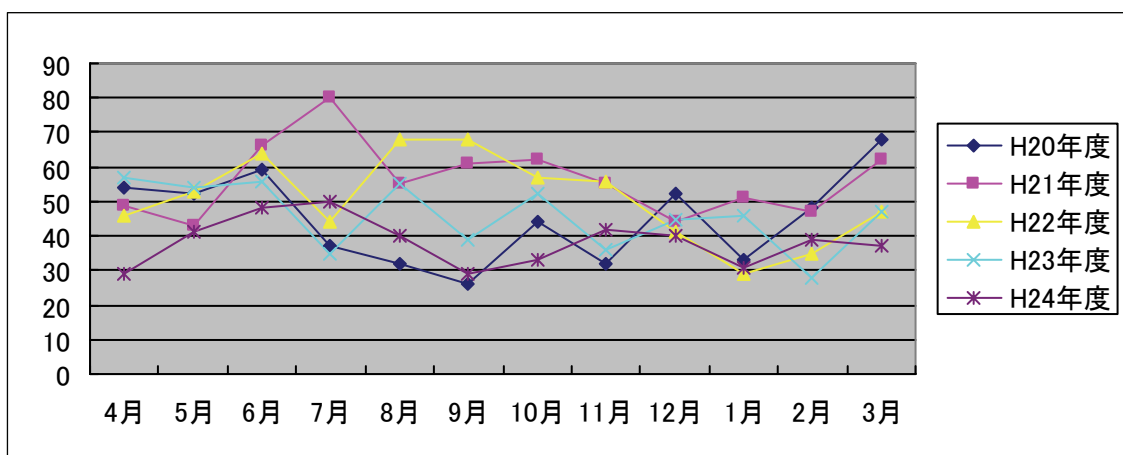
- 1) H24年6月より医療安全管理室から感染対策室が分離設置され、皮膚・排泄ケア認定看護師（褥瘡対策担当）が看護科配置となり、医療安全管理室の構成員が改定された。
従って「医療に係る安全管理の為の指針」の改定を行った。
- 2) H24年度4月より診療報酬改定となり患者サポート体制充実加算により、「医療相談室運用規定」作成、「患者相談窓口要綱」が改定となった。各部門の担当者と共に週一回カンファレンスを開催し、患者相談の対応・報告体制が強化された。

- 3) 当院の「抗凝固剤の休薬について」及び「診察終了時の再受診希望者の受付け方法について」が改善された。
- 4) 毎週医療安全カンファレンスを開催し、多くのインシデント報告の対策検討を行った。そして関係機関と連携し再発防止とマニュアル改定を行い、院内全体が医療安全へ取り組むことができた。

平成24年度ヒヤリハット集計

年度毎提出件数 月別

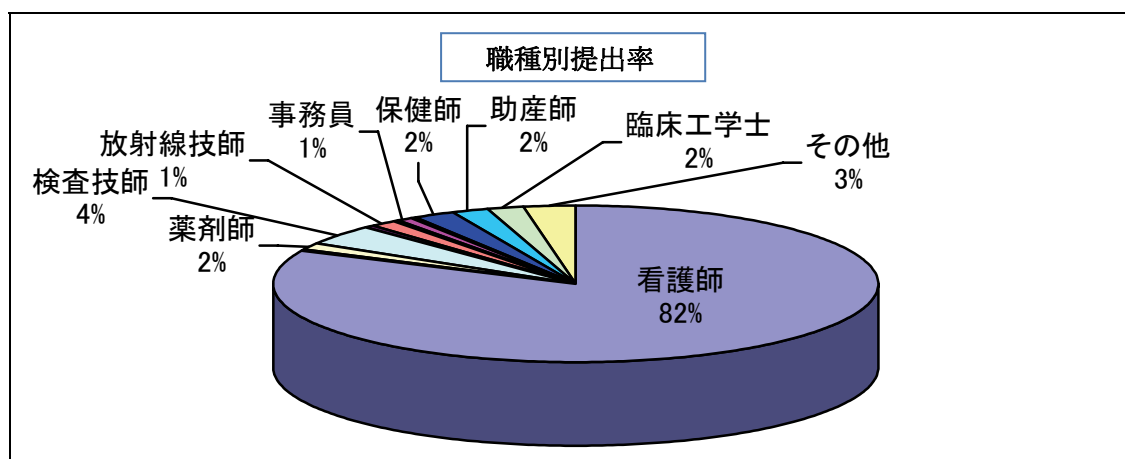
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H20年度	54	52	59	37	32	26	44	32	52	33	48	68	537
H21年度	49	43	66	80	55	61	62	55	44	51	47	62	675
H22年度	46	53	64	44	68	68	57	56	41	29	35	47	608
H23年度	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550
H24年度	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459



職種別提出件数 月別

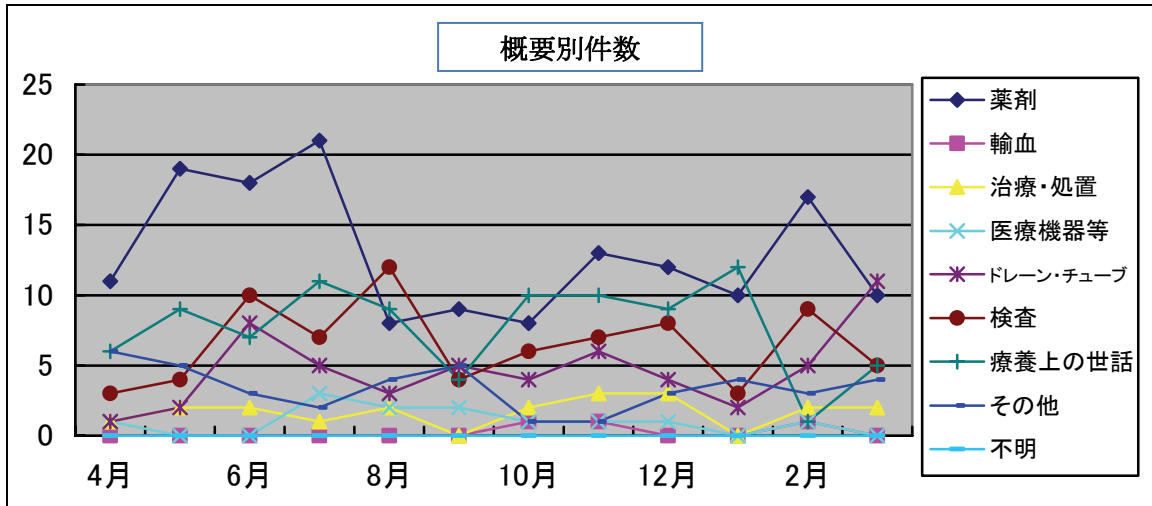
職種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医師	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
看護師	24	33	40	42	29	24	32	35	29	25	30	30	373
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
薬剤師	1	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	7
検査技師	0	1	3	1	4	2	0	1	2	0	4	1	19
助手	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
放射線技師	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	6
理学療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
作業療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言語療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

事務員	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイラー技師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
保健師	0	1	1	2	1	0	0	1	0	3	0	1	10
助産師	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	8
MSW	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学士	0	1	0	4	2	0	0	1	0	0	1	0	9
その他	2	2	2	0	1	1	0	0	3	0	0	2	13
合計	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459



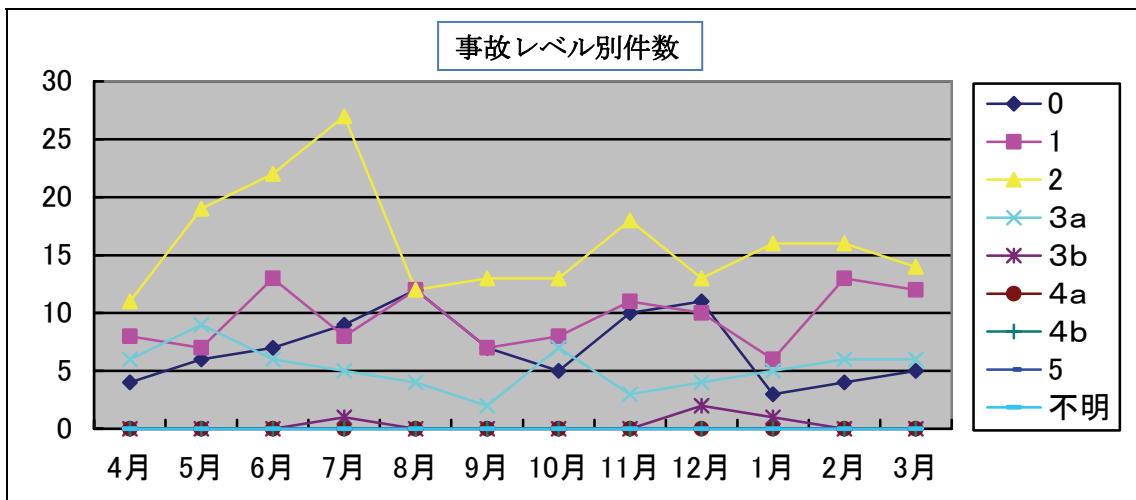
ヒヤリハット概要 月別

概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤	11	19	18	21	8	9	8	13	12	10	17	10	156
輸血	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3
治療・処置	1	2	2	1	2	0	2	3	3	0	2	2	20
医療機器等	1	0	0	3	2	2	1	1	1	0	1	0	12
ドレーン・チューブ	1	2	8	5	3	5	4	6	4	2	5	11	56
検査	3	4	10	7	12	4	6	7	8	3	9	5	78
療養上の世話	6	9	7	11	9	4	10	10	9	12	1	5	93
その他	6	5	3	2	4	5	1	1	3	4	3	4	41
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459



平成24年度レベル分類 月別

事故レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	4	6	7	9	12	7	5	10	11	3	4	5	83
1	8	7	13	8	12	7	8	11	10	6	13	12	115
2	11	19	22	27	12	13	13	18	13	16	16	14	194
3 a	6	9	6	5	4	2	7	3	4	5	6	6	63
3 b	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	4
4 a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459



<文責 高本和子>

医療情報管理室

平成24年度は病院医療情報システムの消費電力を中心とした運用コスト削減を図り、併せて電子カルテ運用の適正な管理を行うことを目的とした。

<電子カルテ>

電子カルテシステム関連として、日々のシステム更新に加え、

- ①老朽化した電子カルテ・オーダーリングシステムのドメインサーバーの更新の実施
- ②ドメインサーバー更新に併せてサーバー仮想化技術を用いて心電図参照用システムなど11台のサーバーを4台に統合
- ③リハビリテーションシステムを更新
- ④放射線画像システムのネットワークを更新
- ⑤昨年度5ヶ年計画で実施することとした、次期電子カルテシステムへのリプレースを踏まえたWindows 7 端末の導入について、その2年目として70台の端末設定を実施
- ⑥院内がん登録システムの更新

を実施した。

また、例年に引き続き、電子カルテソフトベンダーからのS Eの定期訪問事業を実施し、各部署の要望等を取り入れたシステム更新を実施した。

<平成24年度のスタッフ>

藤盛 修成	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子	
浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	木村 宏樹	佐藤 恵
伊藤 誉幸	千葉 崇仁	高橋 清		

<医療情報管理室の業務内容>

- ・電子カルテシステムを主とした院内医療情報システムの更新及び保守
- ・院内情報システム機器の更新・修理・新規設置等の作業
- ・新規システム導入に関する企画・立案及び各部署への助言
- ・病診連携システム導入に関する調整
- ・院内職員に対するシステム関連のヘルプデスク作業
- ・診療情報に関する統計的資料の作成及び分析

<文責 千葉崇仁>

地域医療連携室

平成24年度より、従来の業務に患者相談窓口や退院調整に関する業務も加え、新たな地域医療連携室となった。患者さんに退院後も適切な医療を提供できるよう院内各部門との連携を図りながら、関係医療機関と連絡調整するための窓口としての業務が拡大された。

地域医療連携業務としては、今年度は、診察2425件、検査733件、合計3158件のご紹介をいただいた。昨年度と比較し、診察の紹介件数は61件の減少となったものの、検査の紹介件数が82件の増加となり、紹介件数全体としては21件の増加となった。検査機器等のPRや予約方法の改善を行うなどして、紹介件数のより一層の増加につなげたい。

また、11月6日には地域医療連携セミナーを開催し、22施設の先生方のご参加をいただいた。外科粕谷孝光医師より「当院におけるNST活動の現況」、小川伸感染管理認定看護師より「市立横手病院感染対策の取り組み」と題してセミナーが開催された。平成17年に始まったこの地域医療連携セミナーも8回目を迎え、年1回の貴重な情報交換の場として有意義なものとなっている。地域医療連携を円滑に進める上で今後も続けていきたい。

スタッフ

室長	藤盛 修成
医事課長	浮嶋 優子
医事課	高橋 美幸

業務内容

- ・医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・紹介患者の経過報告
- ・医師異動や外来担当変更時、変更内容について医療機関へ連絡
- ・紹介元医療機関と病院側との諸連絡の取次ぎ
- ・紹介患者実績や検査利用状況などの統計資料を月1回作成
- ・地域医療連携だより「かじか」発行
- ・医療機関訪問・・・7月下旬と12月下旬の年2回、48医療機関訪問
（丹羽院長、吉岡副院長、藤盛副院長、船岡副院長、江畑副院長）
- ・地域医療連携セミナー・・・11月6日（会場：横手セントラルホテル）
セミナー・・・院外22人、院内40人 計62人参加
懇親会・・・院外19人、院内29人 計48人参加

平成24年度 紹介率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
①初診患者数	1454	1326	1176	1325	1615	1371	1544	1336	1398	1469	1442	1496	16952
②救急搬送数	61	76	72	77	95	77	65	70	69	95	70	66	893
③紹介患者数	150	163	183	183	180	179	167	164	135	115	114	135	1857
紹介率(%)	14.5	18	19.6	19.6	17	18.7	15	17.5	14.6	14.3	12.8	13.4	16.2

紹介率 = (②+③) / ① × 100%

(①・・・時間外、休日、深夜受診の6歳未満の小児患者を除く)

平成24年度平均紹介率 = %

平成24年度 紹介内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
診 察	182	217	223	217	219	226	220	226	171	183	165	176	2425
C T	29	27	34	34	20	23	22	31	17	18	18	22	295
M R I	36	40	34	37	34	39	32	33	16	24	29	29	383
M C V	2	5	4	2	1	2	3	2	3	1	3	3	31
E E G	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホルター心電図	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
U C G	1	3	0	2	1	1	2	2	1	3	1	3	20
計	250	292	295	292	275	291	279	295	208	230	216	235	3158

平成24年度 紹介内訳 (診療科別)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科	18	13	20	9	22	16	14	15	9	18	9	9	172
消化器内科	54	74	66	78	66	74	85	70	59	54	50	55	785
循環器内科	16	15	14	19	18	13	12	15	17	15	13	21	188
呼吸器内科	5	6	6	10	9	9	11	11	0	9	9	3	88
外 科	13	11	14	10	12	10	13	18	14	12	15	9	151
整形外科	32	37	38	25	35	40	25	36	28	31	29	38	394
婦 人 科	11	20	21	27	21	17	19	18	12	17	10	15	208
小 児 科	21	29	33	23	28	40	29	23	24	18	16	18	302
泌尿器科	8	11	7	13	7	7	11	15	9	9	14	8	119
眼 科	7	7	5	6	3	2	4	6	2	4	3	8	57
心療内科	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
麻 醉 科	0	2	3	1	0	0	1	4	0	1	1	0	13
放射線科	65	67	68	71	54	62	54	64	33	42	47	51	678
計	250	292	295	292	275	291	279	295	208	230	216	235	3158

平成24年度 紹介内訳 (地域別)

紹介件数

	診察	検査	計
横 手 市	1664	722	2386
湯沢市・雄勝郡	266	3	269
大仙市・仙北郡	146	7	153
県 内	174	1	175
県 外	175	0	175
計	2425	733	3158

依頼検査

	CT	MRI	MCV	EEG	UCG	ホルター心電図	計
横 手 市	294	373	31	1	20	3	722
湯沢市・雄勝郡	0	3	0	0	0	0	3
大仙市・仙北郡	0	7	0	0	0	0	7
県 内	1	0	0	0	0	0	1
県 外	0	0	0	0	0	0	0
計	295	383	31	1	20	3	733

<文責 高橋美幸>

医師事務支援室

概要

平成23年度より医師事務支援室が稼働となり組織的に活動を行ってきたが、平成24年度から健康管理センター配置の医師事務作業補助者1名を増員し、13名での運用を行った。

診断書等の作成では、出来上がるまでの日数の短縮、電子カルテやオーダーリングシステムへの入力・カルテへの記載では、新たに老年科の外来時、医師のオーダー代行入力や退院サマリーの作成に着手した。また、診療に附随する事務的業務では、各検査の説明をほとんどの診療科で実施した。更に院内がん登録業務に関し研修を受けるなど、新しい業務の取組を開始している。

今後も医師の事務作業の軽減を目標に、見直しや改善を行う予定である。

構成

室長	藤盛 修成			
室長補佐	浮嶋 優子			
医師事務作業補助者	伊藤 尚子	小川由美子	佐藤 裕香	今野 奏
	小松田はつみ	島田万里子	佐藤ゆかり	柿崎志穂子
	加藤 広美	長谷川澄子	三浦由紀子	菅原真由美
	高橋 美幸			

業務内容

- 診断書等の文書作成補助
 - ・診断書、入院証明書等の記載代行。書類に関する問い合わせ、内容の紹介。
- 診療記録への代行入力
 - ・電子カルテやオーダーリング等の代行入力
- 医療の質の向上に資する事務作業
 - ・外来患者への検査説明
 - ・外来患者への問診と入力
 - ・院内がん登録
 - ・予定入院患者の入院準備、入院説明
- 行政上の対応
 - ・NCD代行入力
 - ・救急医療情報入力
 - ・JAS 麻酔台帳作成

<文責 浮嶋優子>

委員会活動

リスクマネージャー委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。リスクマネージャー委員会は、医療事故防止を図るための実質的な委員会として、ひやりはっと報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・実施・評価を行う。

委員会の構成員

委員長	吉岡 浩				
副委員長	木村恵美子				
委員	寺田 宏達	奥山 厚	石岡 充彬	渡邊 健太	佐藤セツ子
	佐々木佳子	木下 文子	藤井 洋子	高橋千鶴子	高本 和子
	木村真貴子	佐藤 昌悦	川越 弦	石田 良樹	小宅 英樹
	法華堂 学	高橋 貞広	平塚多喜雄	天羽 勝義	鈴木久美子
	照井 圭子	菊池 優			

委員会開催日

平成24年	4月10日	5月8日	6月12日	7月10日	8月12日	9月18日
	10月9日	11月13日	12月11日			
平成25年	1月8日	2月12日	3月12日			

主な協議事項

各月毎に①インシデント事例紹介・検討 ②院内監査報告 ③ヒヤリハット集計報告がされた。

- 4月 「時間指定注射薬の過剰投与」
*医療安全管理委員会規程の一部改正
- 5月 「患者情報の入力間違い」
- 6月 「鉗子クランプによるENBDチューブの閉塞」
*マニュアルの一部改定「医療安全マニュアル 4」薬剤関係について
- 7月 「注射の実施間違い」
*医療安全研修（全職員対象）のお知らせ
- 8月 「退院確定」の実施間違い
- 9月 「人工透析患者の採血忘れ」
- 10月 「輸液ポンプの設定間違い」
- 11月 「トイレ内の緊急時の対応について」
- 12月 「時間外の輸血持ち出し時の患者名記載間違い」
- 1月 「転倒による外傷発生」
*「埋め込み型ポートの使用方法和管理」マニュアル追加
- 2月 「同日再診察受付の不備による診察遅延」
*医療安全研修会（3箇所中継）の報告
- 3月 「血液浄化装置付属シリンジポンプの接続異常による薬剤の急激な投与」
*診療報酬上、医療安全管理体制の指針に沿った委員会の設置が必要。現行の医療安全管理委員会とリスクマネージャー委員会を「医療安全管理対策委員会」に変更し、構成メンバーを医師・薬剤師・看護師・ME・事務部門等、すべての医療安全管理担当者（各部署長）へ改正。

<文責 高本和子>

医療事故対策委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大きな医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。

構成員

委員長	診療科	丹羽 誠	病院長
	診療科	吉岡 浩	医療安全管理室室長
	診療科	藤盛 修成	
	診療科		※主治医
	看護科	木村カズ子	
	事務局	佐藤 正弘	
	医事課	浮嶋 優子	
	医療安全管理室	木村恵美子	医療安全管理者

件数

報告4件：体位変換時の骨折、転倒による頭部外傷、など書面で報告が行われ委員会メンバーが承認確認をした。

対応

- 1、事故発生に対する検証と原因の分析を行った
- 2、受傷早期に整形外科受診後処置をした。
- 3、医療事故事例の原因分析から各部署で再発防止に取り組んだ。

最後に

平成24年度は、日本医療機能評価機構への報告事例はありませんでした。

<文責 高本和子>

医療安全管理委員会

目的

医療安全管理委員会は、院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

目標を達成するために医療安全管理室と連携してリスクマネージャー委員会からの提言を受け委員会を適宜開催する。

所掌

- (1) 医療事故の防止のための対策の決定
- (2) 医薬品の安全管理に関する対策の決定
- (3) 医療機器に係る安全管理に関する策定の決定
- (4) 安全管理に関するマニュアルの決定

委員会の構成

		氏名	備考
診療科	病院長	丹羽 誠	
	副院長	吉岡 浩	医療安全管理室室長
		船岡 正人	
		藤盛 修正	
		江畑公仁男	
薬剤科	科長	石田 良樹	医療安全管理室副室長
リハビリテーション科	技師長	小田嶋尚人	
診療放射線科		藤原 理吉	
臨床検査科		佐藤恵美子	
食養科		原田 優子	
看護科	総看護師長	木村カズ子	
	副総看護師長	佐藤セツ子	
ME室	臨床工学士	川越 弦	医療機器安全管理責任者 (主査)
健康管理センター		柴田 昌洋	書記担当
事務局長		佐藤 正弘	
		木村恵美子	医療安全管理室副室長 医療安全管理責任者

委員会開催日

平成24年 4月26日 5月31日 6月24日 8月30日 10月25日
 平成25年 2月28日 3月28日

協議決定内容

- 1) ワーキンググループ「予防接種の注射誤注射について」の報告
- 2) 市立横手病院患者相談窓口要綱について
患者サポート体制充実加算（H24年4月～）
- 3) 事例報告と改善策「患者情報の入力間違い」：死亡診断書へ生年月日の誤記載
- 4) 事例報告と改善策「鉗子クランプによるENBDチューブの閉塞」
- 5) 医療安全管理マニュアル「医療に係る安全管理のための指針」の改定
理由：感染管理室の設置及び褥瘡対策担当が看護科所管へ変更に伴う改定
- 6) 「事故防止・対応マニュアル」について
 - ・患者の無断離院・離棟防止と発生時の対応
 - ・紛失・盗難時の対応理由：総務課課長が配属された事に伴う改定
- 7) マニュアル37「点滴注射の事故防止」マニュアルの改定
「点滴注射の実施入力」および「確認手順、点滴注射の施行手順」内の名称変更
内服薬・外用薬の実施確認
理由：実施確認の厳格化並びに配薬手順の明確化
- 8) 「抗凝固薬の休薬について」の改定
理由：「消化器内視鏡学会診療ガイドライン」改定に伴う改定
- 9) 「診察終了時の再受診希望者の受付け方法について」
- 10) 1月ヒヤリハット提出集計結果

*医療安全管理委員会はH25年4月より「リスクマネージャー委員会」と合同で「医療安全管理対策委員会」と名称を改め、その機能を果たす。
この為、医療安全管理委員会はH24年度までとする。

<文責 高本和子>

倫理委員会

概要

当院における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施について倫理的妥当性を審議する。外部委員1名を含んでいる。

構成員氏名

	役 職	氏 名
委員 長	院 長	丹 羽 誠
副委員 長	副 院 長	藤 盛 修 成
	総看護師長	木 村 カズ子
	リハビリテーション科技師長	小田嶋 尚 人
	薬剤科主任	渡 邊 圭 子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	外部委員・見識を有する者	三 橋 由美子

活動記録

第1回委員会（平成24年9月13日）

倫理審査申請 1

課題名 川崎病における酸性スフィンゴミエリナーゼ活性の解析研究

倫理審査申請 2

課題名 Basal supported Oral Therapy により血糖コントロールの安定した2型糖尿病
患者におけるインスリンの離脱に関する検討

- ・上記2件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。

第2回委員会（平成24年11月6日）

倫理審査申請 3

課題名 高LDLコレステロール血症を有するハイリスク高齢患者（75歳以上）に対するエゼチミブの脳心血管イベント発症抑制効果に関する多施設共同無作為化比較試験（EWTOPIA75試験）

- ・上記1件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。

第3回委員会（平成25年1月11日）

倫理審査申請 4

課題名 二次性カルニチン欠乏症の実態と低カルニチン血症を対象としたレボカルニチン製剤補充療法の多施設前向き観察研究

- ・上記1件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。

第4回委員会（平成25年3月12日）

倫理審査申請 5

課題名 厚生労働省がん研究助成金による「多目的コホートによるがん・循環器疾患の疫学研究」班に対する、研究対象者に発生したがん、脳卒中、心筋梗塞、急性死症例に関する医療情報の提供

- ・上記1件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。
- ・第34回日本手術看護学会東北地区での学会発表にあたり、平成25年2月6日付けで申請があった「術前・術後訪問定着に向けて－術前・術後訪問用紙の改善－」について、委員長による審査確認をした結果、委員会を開催するまでもなく、プライバシーに関する問題はないとして承認したことが報告された。
- ・学会発表の倫理審査は、一般的基準に合致するかどうかを委員長が判断し、後日委員会に報告する方法にすることとした。

<文責 佐藤正弘>

栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

- 協議事項**
- ①栄養業務の運営に関する事項
 - ②栄養業務の向上に関する事項
 - ③各職域間の円滑な運営に関する事項
 - ④施設・設備の改善に関する事項
 - ⑤その他栄養サービスに関する事項

委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成24年度の主な議題を示しました。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院長	丹羽 誠	3 C病棟師長	高本 和子
副院長	船岡 正人	4 C病棟師長	木村真貴子
食養科長	粕谷 孝光	薬剤師	小宅 英樹
事務局長	佐藤 正弘	食養科技師長	原田 優子
医事課会計係長	柿崎 正行	主任	川越 真美
総師長	木村カズ子	主席調理技能士	天羽 勝義
2 A病棟師長	木下 文子	嘱託調理師	松井世津子
3 A病棟師長	藤井 洋子	嘱託調理師	佐藤 殉子
3 B病棟師長	高橋千鶴子	嘱託調理師	高橋 麗

平成24年度委員会開催日および主な議題

平成24年4月18日

- *年間計画表について
- *東北厚生局による立ち入り検査結果から
- *平成24年診療報酬改定について
- *「第64回病院給食協議会」の開催について

平成24年7月25日

- *「第64回病院給食協議会」の結果報告
- *流動食用プディング化剤「ソフティアENS」について
- *非常食（備蓄品）について
- *厨房改築工事について

平成24年10月17日

- *東北厚生局適時調査結果について
- *食中毒発生時におけるプロセスについて
- *残食調査に関するアンケート結果について

平成25年1月9日

- *横手保健所による立ち入り検査結果について
- *幼児食アンケートについて
- *個人対応について
- *食中毒発生時におけるプロセス（案）について

<文責 原田優子>

NST委員会

目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

構成員

Supervisor	丹羽 誠					
Chairman	粕谷 孝光					
Director	船岡 正人					
Core Staff	江畑公仁男	古関 佳人	木村カズ子	佐々木康子	柴田 瞳	
	吉水 桃子	横井 道子	梅川 瑠衣	鳥山十亜良	高橋 智佳	
	佐藤由美子	阿部 萌子	深沢 美里	小田島勝子	原田 優子	
	川越 真美	小宅 英樹	佐々木美奈子	百合川深里	亀谷 良文	

役割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する
2. 抽出した症例に対してNST Core Staff による症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NSTメンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
6. その他、栄養療法に関する事柄

○NST栄養評価、回診（毎週月曜日15時～）

4月2日	9日	16日	23日
5月7日	14日	21日	28日
6月4日	11日	18日	25日
7月2日	9日	23日	30日

8月6日 13日 20日
9月3日 10日 24日
10月1日 15日 25日
11月5日 12日 19日 26日
12月3日
1月21日 28日
2月4日 18日 25日
3月11日 15日 18日 25日

○NST症例検討会（毎月第2水曜日17時30～18時30分）

6月13日 第1回
7月11日 第2回
8月8日 第3回
9月12日 第4回
11月16日 第5回
12月12日 第6回
1月9日 第7回
2月13日 第8回

○NST勉強会（第2水曜日17時30～18時30分）

平成24年7月11日 第1回勉強会

テーマ 「エンシュアリキット・エンシュアH」について
内容 経腸栄養管理の留意点
講師 (株)アボットジャパン

平成24年9月12日 第2回勉強会

テーマ 「口腔ケアについて」
内容 口腔ケアについて動画で再確認

平成25年1月9日 第3回勉強会

テーマ 「食物繊維と栄養管理」
内容 食物繊維の繊維と役割 近年における食物繊維の摂取状況など

<文責 百合川深里>

褥瘡対策委員会

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。院内における褥瘡予防体制確立のための活動や、褥瘡発生事例の対策に関する調査や審議を行っている。

【構成員氏名】

委員長	医師	伊勢 憲人		
副委員長	医師	武内 郷子		
褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子		
委員	病棟師長	木下 文子		
	病棟看護師	遠藤ちずる	鈴木 利恵	煙山由紀子
		安藤 宏子	高橋はるみ	奥山かずえ
		山石 陽子	高橋 華澄	佐々木美智子
		地主 愛		
	訪問看護師	佐藤 友紀		
	手術室看護師	岩村 久子		
	透析室看護師	小田嶋明子		
	薬剤師	渡邊 圭子		
	管理栄養士	川越 真美		
	臨床検査技師	工藤真希子		
	理学療法士	高橋 茂実		
	医事課	百合川深里		
	総務課	阿部 光子		
事務局	管材係	菅原 祐司		

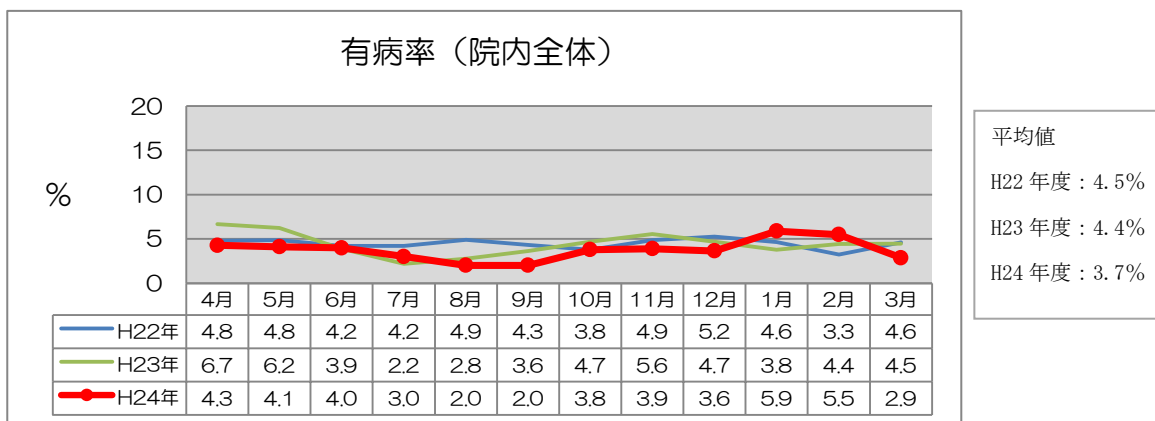
【主な活動内容】

- 1) 褥瘡対策委員会開催
4/12、5/10、6/14、7/12、8/9、9/13、10/11、11/8、12/13、1/11、2/14、3/14
- 2) 褥瘡回診（1週間に1回）ならびに褥瘡ハイリスク患者カンファレンスの実施
- 3) 体圧分散寝具等の整備
- 4) 学習会の実施
卒後1年未満新規採用者・プリセプター研修：「創傷ケア・褥瘡ケア実技研修」6/26
看護補助者研修：「褥瘡予防ケアの演習」7/13
看護科褥瘡対策研修：「ポジショニングの実際」9/4、9/6
全職員褥瘡対策研修：「褥瘡の治療：VAC療法について」1/11

【動向】

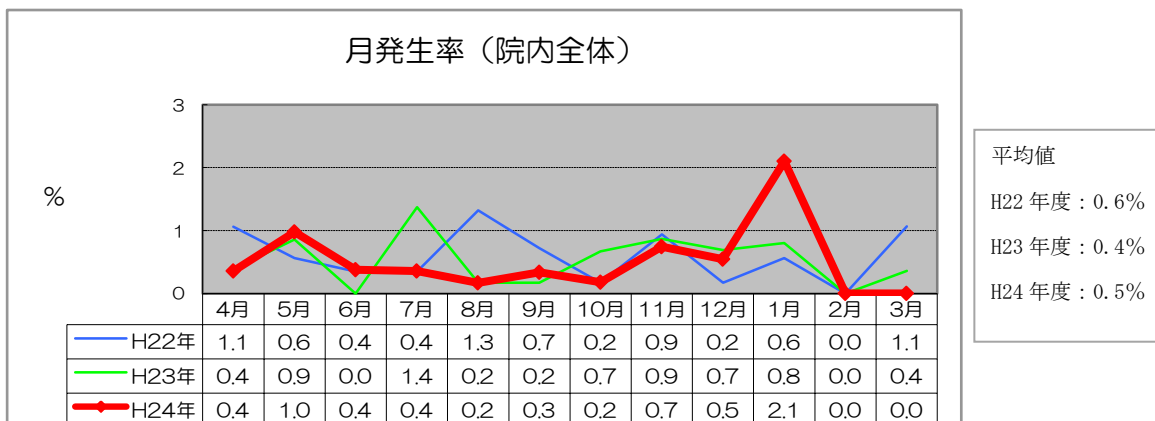
1) 褥瘡有病率の推移

●褥瘡有病率＝調査期間中に褥瘡を保有する患者数÷調査期間の入院患者数×100



2) 褥瘡新規発生率の推移

●褥瘡新規発生率＝調査期間中に褥瘡発生した患者数÷調査期間の入院患者数×100



平成24年度は、褥瘡発生率1.0%以下維持を目標に褥瘡対策の推進を図った。年間の平均値は1.0%以下となっているが、月によっては1.0%を大きく上回ることもあり、不安定な結果であった。今後も褥瘡発生予防に重点をおき、褥瘡対策の推進を図っていきたい。

<文責 佐藤美夏子>

緩和ケアチーム委員会

【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に
来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになるこ
とを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院と
しての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。
その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及を行いスキルアップを目指す
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために①勉強会及びケースカンファレンス②緩和ケアチーム（PCT）回診③院内勉
強会④緩和ケアマニュアルの整備等を行う。また、在宅支援などについて、コメディカルと話
し合いを行い、調整をはかる。

【24年度構成員】

委員長： 丹羽 誠

副委員長：高橋共子

委員： 滝澤 淳・石田良樹・佐藤セツ子・池田弘恵・高橋麻理子・柿崎美幸・佐々木文子
山田百合子・高橋歌澄・鈴木真紀子・正木美香・高橋康子・加賀谷優紀・佐藤秀子
佐々木康子・原田優子・鈴木 努・石山博幸

事務局： 亀谷良文

【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

【特記事項】

- ① 緩和ケア回診：毎週月曜日・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象
- ② 勉強会の開催：8月9日 オピオイドについての勉強会 参加者55名
- ③ 院外勉強会への参加
 - ・厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
 - ・6月16日「秋田がんささえ愛」の日、講演お手伝い・ボランティア
 - ・9月6日 県南緩和ケア研修会への参加
 - ・秋田県緩和ケア実施研修への参加（外旭川病院ホスピス・仙北組合総合病院）
 - ・3月14日 横手市医師会主催・在宅緩和ケア勉強会の開催 参加者120名
- ④ 緩和ケアマニュアルの見直し
- ⑤ 緩和ケアチーム委員会のポスター作成
- ⑥ 11月6日 病院祭での緩和ケアに関する資料の掲示
- ⑦ 緩和ケアチームの働きについて広報へ掲示

<文責 高橋共子>

救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。（平成14年12月）

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

救急センター運営委員

委員長	江畑公仁男	
副委員長	藤盛 修成	
委員	小松 明	工藤真希子
	法花堂 学	渡邊 圭子
	佐藤 鋼子	川越 弦
	木村恵美子	和賀美由紀
事務局	木村 宏樹	

本年度の活動状況

平成24年4月5日	救急搬送受入不能事例について検討
平成24年5月24日	AED・BLS研修会（68名参加）
平成24年6月8日	救急搬送者統計について検討
平成24年6月25日	エマージェンシー訓練
平成24年9月12日	エマージェンシー訓練について検討
平成24年10月24日	救急救命講習会（20名参加）
平成25年1月15日	救急症例検討会について検討
平成25年2月27日	救急症例検討会（63名参加）

<文責 木村宏樹>

手術室運営委員会

概要

- ◎ 手術室業務報告
(各科月間手術件数・手術時間・麻酔時間・在室時間・手術室スタッフの時間外)
- ◎ 手術室で行っている業務改善報告
- ◎ 外科系医師・麻酔科医師・手術室スタッフ・MEの連携を図る

<構成メンバー>

委員長	寺田 宏達	手術室室長、麻酔科科長
委員	吉岡 浩	副院長・外科科長・ME室室長
	江畑公仁男	副院長、整形外科科長
	畑澤 淳一	産婦人科科長
	千葉 修治	泌尿器科科長
	木村カズ子	総看護師長
	石橋由紀子	手術室主任
	川越 弦	ME室主査
事務局	佐藤 昌悦	手術室師長

<H23年度議題内容>

- *術衣・靴下等が外注委託になりました。(安全性が増した)
- *予算計上していたステラッドが搬入されました。
- *本郷修平医師が、9月より麻酔科研修に来ております。
- *手術室・中材の間にある洗い場のリフォームが完成。
- *男子更衣室のロッカーが新しくなりました。(小さくして個数を増やした)

次年度は、新たに眼科の手術が造設なる見込みであるが、医療事故を起こすことなく「安心・安全な医療の提供」を継続し、維持できるように努めていきたい。

<文責 佐藤昌悦>

糖尿病委員会

【委員会活動概要】

急増する糖尿病患者様に、糖尿病委員会は病院および地域へ啓蒙活動の推進役として取り組んでいる。

平成24年度は、糖尿病教室の定期開催、委員会メンバーの糖尿病に関する知識の底上げと地域連携に重点を置き、今年度も秋田県糖尿病療養指導士が誕生した。

院外の研修会参加で専門的な糖尿病の知識習得。県南地域での糖尿病治療に関わる医師やスタッフと交流が持てた。

また、恒例の糖尿病習慣行事は消化器センターで糖尿病に関する展示と試食、細葉医師を講師に招いて、糖尿病の基礎知識習得の一般参加者対象に研修会を開催した。

【構成メンバー】

委員長	奥山 厚							
副委員長	照井 洋子	和賀美由紀						
食養科	原田 優子	川越 真美						
薬剤科	佐々木洋子							
リハビリ科	小田嶋尚人							
健康管理センター	鈴木久美子							
看護科	小田嶋明子	高橋 智美（～6月）	佐々木 綾（7月～）	黒沢真知子				
	高橋 亮子	久米 鮎美	深沢 美里	鈴木健太郎	高橋 正子			
総務課	高橋 功							

【活動報告】

委員会開催 6回

糖尿病教室開催 10回（6月～4月）

講義担当者：小田嶋医師 管理栄養士 薬剤師 保健師 理学療法士

〈かまくらの会：糖尿病患者会〉

日本糖尿病協会秋田県支部理事会出席（照井）

〈糖尿病週間行事：委員会主催〉

11月4日 各コーナーでのDM指導相談、試食。

講師に秋田大学、当院での糖尿病診察にあたっている細葉医師から

『糖尿病の治療と最新治療』の講演があった。

講演参加者はスタッフを含め60名 展示など会場来場者は80名

委員会スタッフ・ボランティアスタッフ20名が会場運営。

〈研修会運営〉

糖尿病看護ネットワーク世話人会出席（照井）

糖尿病・看護・療養指導を考える試行錯誤の会参加要請（年3回）

<文責 照井洋子>

臨床検査適正化委員会

概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行なうことを目的とし、平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

構成員

- 委員長 丹羽 誠 (医院長)
- 委員 船岡 正人 (副医院長)
- 藤盛 修成 (副医院長)
- 畑澤 淳一 (検査科科长)
- 伊勢 憲人 (外科科長)
- 浮嶋 優子 (医事課長)
- 木村カズ子 (総看護師長)
- 佐藤恵美子 (検査科技師長)
- 長瀬 智子 (内部精度管理責任者)

委員会開催日及び検討事項

平成24年10月3日 (水)

1. 平成23年度日本医師会・平成24年度日臨技コントロールサーベイ結果報告
2. 委員の交代について：8月より伊勢先生が委員となる。
3. ヒト遺伝子倫理指針準拠依頼について倫理委員会へ問題提起することに決定。
4. R F・M-A L B 試薬の変更について
試薬改良に伴い検討を行い問題なく、本委員会の認証を得て取り入れたい。但しR Fは基準値の変更あり、表記は2段となる。

平成25年3月13日 (水)

1. 平成24年度日本医師会コントロールサーベイ結果報告
2. 外部委託契約について平成25年度も現行通り、S R L、A K Hに決定
3. その他事案
 - ①クレアチニン表記を小数点以下1桁から2桁へ変更する。(平成25年4月より)
 - ②R F検査試薬変更に伴い結果表記が2段となる。(平成25年4月より)
 - ③結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン- γ 検査方法の変更について
Q F TからT-S P O Tへ変更する。

- ・オーダー発生から結果報告まで全てシステムに対応する
- ・採血時間制約の緩和
- ・結果報告時間の短縮

④検診尿試験紙変更について

Bil とケトン体を除いた試験紙の採用を検討したところ、測定項目の減少＝コスト削減となることから、検診検査での使用を決定。

<文責 長瀬智子>

図書委員会

[目的]

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

[スタッフ]

委員長	泉 純一	(診療科)	平成23年4月～
副委員長	谷口 明美	(総務課)	平成14年9月～
書記	谷口 明美		
委員	島田万里子	(医師事務支援室)	平成19年4月～
委員	阿部千鶴子	(総務課)	平成20年1月～

[図書室概要]

面積・・・48.05㎡

座席数・・・4席

設備・機器・・・コピー&FAX機(1台)・コンピューター(2台・1台インターネットに接続・1台院内LANに接続)・プリンター1台

書架・・・移動式書架

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・単行書(約990冊)・製本雑誌(約2200冊)・CD-ROM(4枚)
・和雑誌(58誌)・洋雑誌(20誌)・学会誌(3誌)

配架・・・単行書(NLMC分類順)
・和雑誌(あいうえお順)・洋雑誌(アルファベット順)
・患者図書(大分類・中分類・小分類順)

サービス・文献データベース①医学中央雑誌Web版
②メディカルオンライン(2012年4月より導入)
・相互貸借依頼先;秋田大学附属図書館医学部分館・上尾中央総合病院図書室
国立国会図書館・日本医師会(個人申込み)
・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

[活動]

- ・委員会開催日;5/29・11/7・3/21の3回
 - ・図書購入予算の確定と管理
年度始めに各科に予算配分をし、各科月毎に購入収支簿を作成後、院内LANで月1回全職員に伝達。
 - ・購入図書の受入れと配架作業;毎月の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。
院内LANで月1回新着図書の情報提供
 - ・製本作業・蔵書点検作業。
- *今年度より医療関係者のための総合情報サイト「メディカルオンライン」を導入した。「文献」

データベースは日本国内学会誌・商業誌900以上のタイトルから閲覧可能、医中誌、PubMedなどのデータベースとリンクするので、検索が容易にできる。
院内の教育環境を整え医療の向上を図るため努力していきたい。

[統計]

- ・ (文献複写依頼数)

秋田大学附属図書館医学部分館—13件
国立国会図書館—1件
日本医師会図書館—30件

- ・ (医中誌Web)

アクセス回数—3192回
検索回数 5492回
ログイン回数 223回

- ・ (メディカルオンラインジャーナル) ログイン回数1927回

患者図書サービス

[目的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[概要] 所蔵図書 (約1800冊)、備品・・・ブックトラック、固定書架 (図書室内)

[活動]

各病棟ディルームに蔵書一覧ファイルを設置し、FAXでの貸出しサービスを行っている。今は主として娯楽書主体の貸出しサービスである。ただ医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、自ら病気や治療について情報を得て学べる一般向けの医学情報誌を提供することを視野におき、患者さんの要望に応じていきたい。

[統計]

<患者図書貸出し数> (平成24年4月～平成25年3月)

病棟	貸出数	利用人数	月平均貸出数	月平均利用者数
2 A病棟	91冊	24人	7.58冊	2人
3 A病棟	51冊	19人	4.25冊	1.58人
3 B病棟	64冊	19人	5.33冊	1.58人
3 C病棟	104冊	34人	8.67冊	2.83人
4 C病棟	179冊	57人	14.92冊	4.75人
宿泊ドック	29冊	11人	2.42冊	0.92人
合計	518冊	164人		
月平均	43.17冊	13.67人		

<文責 谷口明美>

臨床研修管理委員会

概 要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の研修プログラムは内科系重視の内科コース、外科系重視の外科・整形外科コースがあり、それぞれ募集定員2名となっている。

研修プログラムの中の『精神科研修』では、横手興生病院・市立角館総合病院に、『地域保健・医療研修』では、横手保健所・市立大森病院・秋田県赤十字血液センターに協力をいただいている。

また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院・市立角館総合病院・由利組合総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

構成員氏名

委員長	船岡 正人（研修実施責任者）
副委員長	吉岡 浩、藤盛 修成、齋藤 紀先（内科コースプログラム責任者） 加藤 健（H24. 4月～6月 外科・整形外科コースプログラム責任者）
委員	江畑公仁男、粕谷 孝光、小松 明、畑澤 淳一、奥山 厚 根本 敏史、和泉千香子、塩屋 斉、滝澤 淳、武内 郷子 伊勢 憲人（H24. 7月～H25. 3月 外科・整形外科コースプログラム責任者） 佐藤 正弘、 伊藤 善信（横手保健所長） 杉田多喜男（横手興生病院長） 西成 忍（西成医院長、横手市医師会長） 小野 剛（市立大森病院長） 佐々木道基（市立角館総合病院精神科長） 面川 進（秋田県赤十字血液センター）
オブザーバー	丹羽 誠
事務局	高橋 功、黒澤 雄悦

委員会開催年月日及び案件

○管理委員会

平成25年3月18日

- 案件 平成25年度研修医採用予定について
- 平成25・26年度研修プログラムについて
- 平成25年度研修日程について
- 平成25年臨床研修病院合同説明会日程について

○評価・プログラム委員会

平成24年9月5日

案件 平成25年度初期研修医採用面接結果について
平成25年度初期研修医マッチングについて
平成24年9月28日

案件 平成24年度マッチング順位付けについて
平成24年度マッチング中間公表結果について
平成25年3月8日

案件 1年次研修医の研修評価について
平成25年度臨床研修日程について
平成26年度臨床研修プログラムについて

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成24年4月5日、5月10日、6月7日、7月5日、8月9日、
9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、
平成25年1月10日、2月7日、3月7日

○平成24年度 臨床研修医

当院プログラムによる研修医 (1年次) 渡邊 健太
秋田大学医学部附属病院からの研修医 (2年次) 石岡 充彬
本荘第一病院からの研修医 (2年次) 豊島 あや、嵯峨 祐史、小野 太輔
佐藤 由和

○マッチング日程

平成24年6月21日 参加登録開始
8月9日 参加登録締切
9月13日 希望順位登録受付開始
9月27日 希望順位登録中間公表前締切
9月28日 中間公表
10月11日 希望順位登録最終締切
10月25日 組み合わせ結果発表

○平成25年度採用臨床研修医

内科コース 定員2名 伊藤 周一、高橋 晋
外科・整形外科コース 定員2名 宮嶌 和宏

○病院説明会参加状況

平成24年4月28日 青森県臨床研修病院合同説明会 (弘前市 青森県主催)
平成24年7月15日 民間主催の合同説明会 (東京都 県協議会企画)
平成25年2月20日 秋田県臨床研修病院合同説明会及び意見交換会
(秋田市 県協議会主催)
平成25年3月20日 東北ブロック臨床研修病院合同説明会 (仙台市 東北厚生局主催)

<文責 黒澤雄悦>

臨床研修プログラム

市立横手病院臨床研修病院群基本研修プログラム内科コース

○研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（産婦人科、精神科、小児科）と選択科を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択科を研修する。選択科を12ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（外科系、整形外科、泌尿器科、放射線科、麻酔科）、地域保健を研修したい場合に対応できる。

○臨床研修の目標の概要

1. 一般目標 医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。
2. 行動目標 卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

○プログラム責任者

市立横手病院 呼吸器内科・アレルギー科科長 齋藤 紀先

○研修医の指導体制 マンツーマン方式による。

○協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

- ・研修実施責任者 佐々木道基
- ・指導医 佐々木道基、岩城 忍

横手興生病院（精神科）

- ・研修実施責任者 杉田多喜男
- ・指導医 杉田多喜男、杉田俊生、杉山智成、金山浩信

○臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 伊藤 善信
- ・指導医 伊藤 善信

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、三浦 勉、大場雅史、福岡岳美、中西真一、澤邊 淳

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

○研修開始時期：西暦2012年4月1日

○研修スケジュール

	1年次	2年次
4月	内科（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院） 選択科（市立横手病院・横手保健所・赤十字血液センター）
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月	救急部門（市立横手病院）	
11月	産婦人科（市立横手病院）	
12月	精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）	
1月	小児科（市立横手病院）	
2月		
3月	選択科（市立横手病院・横手保健所）	

※救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3ヵ月の研修とする。

市立横手病院臨床研修病院群基本研修プログラム外科・整形外科コース

○研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（外科系、小児科）を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択必修科目（産婦人科、精神科、麻酔科）を研修。2年次に選択科を8ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（整形外科、泌尿器科、放射線科）、地域保健を研修したい場合に対応できる。

○臨床研修の目標の概要

1. 一般目標 医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。
2. 行動目標 卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

○プログラム責任者

市立横手病院外科科長 加藤 健（H24. 4～H24. 6月）

市立横手病院外科科長 伊勢憲人（H24. 7月～）

○研修医の指導体制 マンツーマン方式による。

○協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

- ・研修実施責任者 佐々木道基
- ・指導医 佐々木道基、岩城 忍

横手興生病院（精神科）

- ・研修実施責任者 杉田多喜男
- ・指導医 杉田多喜男、杉田俊生、杉山智成、金山浩信

○臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 伊藤善信
- ・指導医 伊藤善信

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、三浦 勉、大場雅史、福岡岳美、中西真一、澤邊 淳

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

○研修開始時期：西暦2012年4月1日

○研修スケジュール

	1年次	2年次
4月	外科系（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院）
5月		産婦人科（市立横手病院）
6月		精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）
7月	救急部門（市立横手病院）	麻酔科（市立横手病院）
8月	内科（市立横手病院）	選択科（市立横手病院・横手保健所・赤十字血液センター）
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月	小児科（市立横手病院）	
3月		

※救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3ヵ月の研修とする。

<文責 黒澤雄悦>

治験委員会

構成員氏名

委員長 吉岡 浩
委員 船岡 正人 佐藤 正弘 石田 良樹
外部委員 三橋由美子
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

委員会開催日及び検討事項

平成24年度は検討する案件がなかったため開催しておりません。

<文責 渡邊圭子>

化学療法委員会

1. 概要

本院の化学療法を実施する体制等の設備を図るとともに、抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発を行い、もって化学療法の安全な施行の推進を目的とする。

2. 構成員

委員長	医局	粕谷 孝光				
副委員長	医局	加藤 健				
	薬剤師	小宅 英樹				
委員	医局	畑澤 淳一	奥山 厚	齋藤 紀先	伊藤 卓雄	
	医療安全管理室	木村恵美子				
	看護科	佐々木佳子	下夕村優子	高橋 共子	柿崎 美幸	
	臨床検査科	長瀬 智子				
	薬剤科	谷川 裕子				
	医事課	百合川深里				

3. 委員会開催日

化学療法委員会：平成24年4月19日、6月21日、9月20日、
平成25年2月21日

化学療法審議会：平成24年7月31日、9月3日、10月9日、10月23日、
平成25年1月10日、3月11日

4. 主な活動内容

1. 化学療法の適切かつ安全な施行に関すること
2. 抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発に関すること
3. 関係各診療科及び関係診療施設等との連携調整に関すること
4. 化学療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
5. 化学療法審議会の管理・調整
6. その他、化学療法に関する事柄

5. 今年度承認されたプロトコール

ペメトレキセド+ベバシズマブ療法、DTX療法、WeeklyDTX単独療法、S1+bev療法、
ゼローダ+bev療法、ハーセプチン+GEM併用療法、アリムタ単独療法、
CBDCA+CPT11併用療法、CPT11+NDP併用療法、PTX+bev療法、アザシチジン療法

<文責 百合川深里>

病院教育委員会

当委員会は、院内の職員研修について病院全体で体系的、効果的に実施することを検討するとともに、学術交流を奨励し、推進するために設置された委員会である。

委員会構成

委員長	丹羽 誠
副委員長	藤盛 修成
委員	木村カズ子
	郡山 邦夫
	佐藤 正弘
	高橋 功 (24.10.1～)
書記	藤木 正文

委員会開催

平成24年10月2日(火) 会議室2

協議案件

- ・平成23年度職員研修実績について
- ・平成22・23年度職員院外研修実績について
- ・施設基準・加算に関連した研修会について
- ・平成24年度職員研修計画について

上記の案件について報告、提案等を行い、承認されております。

なお、今年度の委員会活動への要望として、職員全員を対象とした研修会が集中した時期(10月下旬～11月)があり、ほぼ毎週、研修会があるということやそのほかに各部署ごとや職種ごとの研修会や勉強会も行われたため、好ましくない研修環境が発生したとの指摘がありました。

このため、職員全体が対象となる研修会(医療安全、感染対策、診療報酬、交通安全等)を年間を通じて計画的に実施できるように、調整し、院内に周知することを次年度への課題としたところである。

<文責 高橋 功>

クリニカルパス委員会

概要

院内におけるクリニカルパス作成及び普及を推進・支援し、診療の質及び患者サービスの向上に寄与することを目的とする。

構成員

委員長	藤盛 修成			
委員	斎藤 紀先	畑澤 淳一	加藤 健	江畑久仁男
	小松 明	塩屋 斉		
	奥山 厚	和泉千香子	伊藤 卓雄	藤井 洋子
	吉田紗希子	永須 直美		
	藤本 和子	藤沢 親子	末次エリカ	高橋亜由美
	町本 典子	熊谷 剛		
	郡山 邦夫	小宅 英樹	原田 優子	照井 圭子

平成24年度退院患者パス適用率

診療科	パス適用件数 (件)	退院患者数 (人)	パス適用率 (%)
内科	0	70	0%
外科	420	777	54.1%
整形外科	0	369	0%
産婦人科	333	451	73.8%
小児科	1	606	0.2%
泌尿器科	52	158	32.9%
アレルギー・呼吸器内科	37	309	12.0%
消化器内科	581	1486	39.1%
循環器内科	14	234	6.0%
麻酔科 (ペインクリニック)	0	21	0%
	1438	4611	31.2%

平成24年度新規作成パス

- ラパロ胃切除 (外科) H24年11月より
- ラパロ結腸切除 (外科) H24年11月より
- ラパロ直腸切除 (外科) H24年11月より
- 食物負荷試験 (小児科) H25年2月より

<文責 照井圭子>

医療情報管理委員会

電子カルテシステム稼働4年目を迎え、関連する医療情報システムの円滑かつ安全な運用や院内情報システムの総合的運用およびシステムのリプレイスについて協議。

構成員

委員長	藤盛 修成			
副委員長	小松 明			
委員	木村カズ子	佐藤セツ子	藤原 理吉	佐藤恵美子
	佐藤 正弘	浮嶋 優子	柿崎 正行	千葉 崇仁

活動報告

平成24年9月3日（月）

- ①電子カルテ端末選定について
- ②病診連携システム運用について
- ③サーバリプレイスについて

平成24年12月4日（火）

- ①システム関連予算要求について

<文責 千葉崇仁>

電子カルテ委員会

(目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
 - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること。
 - ・オーダーリングシステムの内容の検討に関すること。
 - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関すること。
 - ・その他カルテについての重要事項に関すること。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

構成員氏名

委員長	藤盛 修成				
副委員長	粕谷 孝光 (H24. 8. 1 ~)				
	加藤 健 (H21. 4. 1 ~H24. 7. 31)				
委員	和泉千香子	佐藤セツ子	佐々木佳子	小田嶋恵美子	高橋 佳子
	照井 洋子	高橋 礼子	下夕村優子	高橋 共子	高橋 正子
	石橋由紀子	小宅 英樹	木村恵美子	藤原 理吉	小田嶋尚人
	原田 優子	佐藤恵美子	鈴木久美子	浮嶋 優子	照井 圭子
	木村 宏樹	千葉 崇仁	佐藤 恵		

活動報告 (検討内容)

平成24年6月16日

- ・訪問看護カルテについて
- ・医師指示について
- ・カルテ記載について
- ・検温表について 他

平成24年8月8日

- ・電子カルテコメント活用基準について
- ・カルテ記載について 他

平成24年12月4日

- ・電子カルテにスキャナー後書類の保管について
- ・カルテ記載について 他

平成25年3月5日

- ・コメント欄使用について
- ・受付済みの検査・放射線オーダーの修正、削除権限について
- ・検査予約の権限について
- ・ログイン時のパスワードについて 他

<文責 木村宏樹>

DPC委員会

平成21年4月よりDPC対象病院となり3年経過し、委員会では来年度の機能評価係数の対策、適切なコーディング、在院日数分析を中心に検討を行った。

また、分析の結果を踏まえ、各診療科との症例検討などを行い、次年度への対策も検討した。

今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析が必要になってくると思われるので委員会で取り組んでいきたい。

構成員

委員長 畑澤 淳一

副委員長 藤盛 修成

〃 江畑公仁男 (H24. 8. 1～)

〃 加藤 健 (H21. 4. 1～H24. 7. 31)

委員 丹羽 誠 塩屋 斉 佐藤セツ子 藤井 洋子

小宅 英樹 郡山 邦夫 浮嶋 優子 佐藤恵美子

照井 圭子 木村 宏樹 千葉 崇仁 佐藤 恵

活動報告

平成25年1月30日

- ・平均在院日数について
- ・コーディングについて

平成25年3月28日

- ・平成25年度医療機関別係数について
- ・コーディングについて

<文責 木村宏樹>

地域交流推進委員会

当委員会は平成21年度より、地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、当院に対する理解向上を目的とした地域交流委員会を設置されました。

所期の目的の達成のため、「市立横手病院出前健康講座」を行うこととしており、対象は地域の公民館、いきいきサロン等で、主催者より講演依頼があった場合、当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行うものとしております。

講座も4年目となり、講演内容の充実に努め、23年度からは診療放射線科、24年度には臨床検査科からの講座を新たに加え、29講座を準備して地域住民の方たちに理解しやすい内容となるように努めております。以下、24年度の実施状況は下記のとおりとなっております。

委員会名簿

委員長	吉岡 浩 (医局)
委員	船岡 正人 (医局) 木村カズ子 (看護科) 石田 良樹 (薬剤科)
	原田 優子 (食養科) 小田嶋尚人 (リハビリテーション科)
	藤原 理吉 (診療放射線科) 佐藤恵美子 (臨床検査科)
	柴田 昌洋 (健康管理センター) 佐藤 正弘 (総務課)
	高橋 功 (医事課)

委員会開催状況

24. 4. 9 (月)

- 案件
- ・23年度出前健康講座実施状況について
 - ・24年度出前健康講座メニューについて (臨床検査科分 追加)
 - ・規約改正及び地域交流推進委員会の委員について (臨床検査科より選出)
 - ・24年度上半期の分担について
 - ・その他 (アンケートの実施、データベース化の検討)

24. 10. 11 (水)

- 案件
- ・24年度上半期の実施状況について
 - ・24年度下半期の分担について
 - ・その他 (第1回委員会での検討事項への対応の報告)

講演実施状況

月 日	地区・事業所名	場 所	講 座 名	講 師	参加者
4 / 3 (火)	大雄 四ツ屋	四ツ屋会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 川越 真美	14名
5 / 8 (火)	上境	ふるさと館	正しい傷の手当てについて	認定看護師 佐藤美夏子	24名
5 / 26 (土)	前郷一番町	明照保育園	保育園における感染防止・予防	認定看護師 小川 伸	30名
6 / 25 (月)	平鹿 樋ノ口	樋ノ口会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	22名

7/11(水)	寺村	寺村会館	正しい薬の使い方	薬剤師 小宅 英樹	30名
7/23(月)	野脇	野菜集荷所	放射線の影響と画像の見方	放射線管理士 藤原 理吉	20名
8/2(木)	八丁	松林会館	臨床検査技師ってご存知ですか？	臨床検査技師 佐藤恵美子	18名
8/15(水)	中村	中村会館	脳卒中発症後のリハビリ	理学療法士 高橋 貞広	12名
9/20(水)	荒町・川目	荒町会館	感染性胃腸炎とインフルエンザ予防	認定看護師 小川 伸	16名
10/3(水)	化石	化石会館	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	15名
11/2(金)	朝倉碓	あさくら館	放射線の影響と画像の見方	放射線技師 郡山 邦夫	25名
11/26(月)	根田川	根田川集落センター	正しい傷の手当てについて	認定看護師 佐藤美夏子	17名
12/28(金)	余目	余目会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	12名
1/8(火)	杉沢	自治会館みたけ	薬の正しい使い方	薬剤師 石田 良樹	25名
1/11(金)	中杉沢	中杉沢会館	誤嚥ってなあに	作業療法士 高橋 洋	12名
2/5(火)	朝日ヶ丘	朝日ヶ丘児童センター	胃腸の病気について	医局 奥山 厚	28名
2/6(水)	横手区	平源旅館	放射線被ばくの説明と相談	放射線技師 法花堂 学	25名
2/21(木)	寺内	寺内集落センター	生活習慣病予防と運動	理学療法士 小田嶋尚人	22名
3/13(水)	田町	田町会館	心臓と高血圧	臨床検査技師 平塚多喜雄	12名

19ヶ所(いきいきサロン17ヶ所、保育園1ヶ所、公民館1ヶ所)延べ379名(23年度 28ヶ所561名)の地域住民の方々に講演を行いました。

残念ながら、前年度より大幅に開催回数、参加者が減少し、特に公民館が4ヶ所から1ヶ所へ、事業所及び町内会が未開催となりました。しかし、地域的な広がりでは、横手地区だけでなく大雄・平鹿地区のいきいきサロンでの開催が出来ました。

今後への改善点としては、①開催数が少なくなったことを受け、広報に努めつつ、速やかな対応で年間を通じての平均的な実施を図ること ②横手市全体を視野に入れた実施体制の再構築 ③講座の充実に向け、講演メニューの検討を行うことが挙げられており、次年度への課題としております。

<文責 高橋 功>

薬事委員会

◆概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とする。検討事項は下記の項目とする。

- ①院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）
- ②医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す（同種同効品目の比較検討、削減）
- ③委員からの提案された事項についての審議
- ④副作用事例の収集・報告・伝達・対策

◆構成員

	委 員	氏 名
委員長	副院長	藤盛 修成
	副院長	吉岡 浩
	副院長	船岡 正人
	副院長	江畑公仁男
	診療部長	畑澤 淳一
	診療部長	小松 明
	循環器科科長	根本 敏史
	循環器科科長	和泉千香子
	消化器科科長	奥山 厚
	泌尿器科科長	伊藤 卓雄
	外科科長	伊勢 憲人
	外科科長	粕谷 孝光
	産婦人科科長	滝澤 淳
	呼吸器科・アレルギー科科長	齋藤 紀先
	呼吸器科・アレルギー科科長	細木 敬祐
	内科科長	塩屋 斉
	消化器科科長	武内 郷子
	放射線科科長	泉 純一
	麻酔科科長	寺田 宏達
	整形外科科長	富岡 立
	薬剤科科長	石田 良樹
	3 A病棟師長	高橋 礼子
	医事課主査	照井 圭子
	総務課長補佐	阿部 光子
オブザーバー	院長	丹羽 誠

◆委員会開催日及び検討事項

	開催日	検討事項
第1回	H23年5月16日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック品採用検討、1品目採用(リバクト配合顆粒) ※院外処方箋一般名処方の開始と対象薬剤の選定 ※院外処方における後発医薬品変更報告書の連絡方法変更
第2回	H23年7月18日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック品採用検討、5品目採用

		(ハルナール錠、ラキソパロン内用液、アゼチンA軟膏、マイコスポールクリーム) (フェンタニル注) ※H23年度薬品破損金額について
第3回	H23年9月19日	※新規採用申請医薬品・限定採用医薬品について ※ジェネリック品採用検討、5品目採用 (フルベニド錠、マイスリー錠、ムスタ錠、ペンシリン注1g・2g) ※院外採用品の新設と規約改正について
第4回	H23年11月21日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※ジェネリック品採用検討、7品目採用 (ラジックス細粒・20mg錠・40mg錠、ロビノール錠1mg・2mg) (ファルモルビシン注10mg・50mg) ※販売中止品への対応の検討(プロアミン12X注) ※注射用カリウム製剤を2品目から1品目へ統一可能か検討 ※自己導尿用消毒液の市販品新規購入について
第5回	H24年1月16日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※ジェネリック品採用検討、3品目採用 (フロモックス錠、フロモックス細粒、アドリアン注) ※販売中止品への対応の検討(アスパール液1%)
第6回	H24年3月13日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※ジェネリック品採用検討、1品目採用(フオイン錠) ※夜間診療カート内約束処方変更(小児用解熱剤) ※販売中止品への対応の検討(プロルモン錠、エプロン坐剤、ウロキナーゼ注) ※販売名変更製品への対応(ニカルボン注射液、プロトナ錠、エカバル錠) ※ネス注射液の変更について(液量減量品へ変更)

◆平成24年度採用品目の動向

新規採用医薬品	31品目
院外採用医薬品	16品目
限定採用医薬品	105品目 (延べ数)
使用中止医薬品	37品目
ジェネリック医薬品への切替え	内服薬 14品目 注射薬 6品目 外用薬 2品目

◆まとめ

ジェネリック薬品については医局アンケートなどを行うことで、診療科の先生方のご意見も参考にさせていただき、各方面の皆様の理解とご協力をいただきながら更に導入を進める事ができました。後発品採用比率は10.4%から11.4%となり、今年度目標としていたラインはある程度達成できたのではないかと思います。

今年度は内服薬・外用薬のジェネリック導入品が多く、院外処方箋についても一般名処方開始された為に、患者さんの中には少し戸惑いを感じる方もいたようでしたが、医事課窓口や各部門でも丁寧に説明していただき、大きなトラブルもなく切り替えができたと思います。

今年度は院外採用医薬品という採用区分が新設され、規約改正も行なわれました。

この事によって希望する薬を以前よりも使用しやすい環境が整い、院内在庫管理負担の増加なく、診療科の先生方のニーズにも対応していけるようになると思われます。ジェネリックがある品目は積極的に切替を推進し、優れた新薬は使用しやすくなるように、病院薬品管理全体としてうまくバランスがとれた方向に運用できれば好ましいと思います。まだ始まったばかりの制度ですので、問題点があれば試行錯誤しながら改善していきたいと思っています。

<文責 佐々木洋子>

衛生委員会

概要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

構成員

委員長	船岡正人
副委員長	藤原理吉（診療放射線科）
委員	丹羽 誠（院長） 粕谷孝光（産業医） 佐藤正弘（事務局） 木村カズ子（看護科） 鈴木久美子（健康管理センター） 小川 伸（感染対策室）
委員（労働組合推薦）	熊谷 剛（リハビリテーション科） 末次エリカ（看護科） 高橋大樹（看護科） 鈴木 務（リハビリテーション科） 佐藤裕基（診療放射線科）
書記	亀谷良文（総務課）

委員会開催日時及び検討事項等

【開催日時】 毎月最終木曜17:00～17:30

【検討事項等】

- 4/26 嘱託医師の労災対応について、新規採用の抗体価報告、メンタルヘルスの実施内容検討看護科の夜勤回数について検討
- 5/31 衛生委員会年間計画について、放射線被ばく量報告、職員検診内容見直しについて、メンタルヘルスチェックの実施内容確認
- 6/28 職員検診がん検診受診希望状況報告、夜勤回数について検討、メンタルヘルスチェックの実施状況報告
- 7/26 結核の接触者調査に関する報告、放射線被ばく量報告
- 8/30 職員検診について、産業保健セミナー参加報告、放射線被ばく量報告
- 9/28 新規採用職員の小児ウイルス疾患抗体価について、職員採用時のツ判検査について、メンタルヘルスについて、健康診断・二次検診について
- 10/25 放射線被ばく量半年分報告、メンタルヘルスチェック報告会について、流行性小児ウイルス疾患抗体価採血未実施者報告、QFT検査導入について
- 11/29 QFT検査導入について、結核発症者の対応について、放射線被ばく量報告、インフルエンザの診断書について、ノロウイルスにかかる出勤規制について
- 12/27 職員の二次検診について、医療監視の結果報告、インフルエンザワクチンの接種報告、インフルエンザ診断書作成について、看護補助者抗体価検査について
- 1/31 職員の二次検診について、QFT導入について、流行性小児ウイルス疾患抗体価採血未実施整備について、HBs抗体陰性者追加ワクチン接種状況について、メンタルヘルスチェックの今後の管理について、離職防止委員会について
- 2/28 放射線被ばく線量報告、インフルエンザ予防接種について、職員検診二次検診について、QFT導入について
- 3/28 放射線被ばく線量報告、新規採用者の健康診断他について

<文責 三浦幸恵>

患者サービス向上委員会

目的：選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標：①接遇意識を高めることができる

②患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる

構成員：委員長 木村カズ子

委員 丹羽 誠 江畑久仁男 佐藤セツ子 細谷 謙 柿崎正行
佐藤正弘 高橋 功

○委員会開催日

平成24年12月5日

①平成24年度外来アンケートの実施・時期について

②平成24年度入院アンケート上半期の集計結果と今後の入院アンケートの時期について

・上半期の集計結果を踏まえて今後継続するか検討した。その結果、入院アンケートは今年度より年2回（1月・6月）1カ月間実施と決定。

③平成24年度接遇研修会について

・今年度は職員が講師（接遇トレーナー）となり、全員参加できるような研修会とする。

○患者満足度アンケート調査

アンケート結果は院内10箇所の外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにし掲示

・入院アンケート調査実施

実施期間 平成24年4月1日～平成24年9月31日（上半期6カ月間）

実施期間 平成25年1月1日～平成25年1月31日（1カ月間）

・外来アンケート調査実施

実施期間 平成24年12月17日～平成24年12月21日（5日間）

○接遇研修（全職員対象）

日時：平成24年12月 17：30～18：15（看護科4回） 参加者222名（参加率96.6%）

平成25年1月 17：30～18：15（看護科以外3回）参加者122名（参加率64.2%）

場所：4階会議室1 参加人数344名（参加率82.1%）

講師：木村カズ子（接遇トレーナー）

テーマ：「具体的事例から学べる患者対応」～患者対応技術の基本～

<まとめ>

今年度の接遇研修はできるだけ参加できるような工夫をし、患者対応技術の基本①身だしなみ②立ち居ふるまい③言葉づかいの研修会を行いました。患者さんが求める身だしなみとは、患者さんに共感を与える態度・技術、敬語づかいをめぐるトラブル、クッション言葉の使い方など、DVDを通して具体的事例から基本を再認識することができました。患者満足度調査の結果では沢山のご意見・ご要望をいただきました。貴重なご意見を活かし、地域の皆様が安心して利用できる病院、利用しやすい病院を目指していきたいと思います。

<文責 木村カズ子>

広報委員会

【概要】

広報委員会は、当院の医療情報や活動状況について、病院広報誌・病院ホームページを通じて、地域の住民及び医療機関等に広く情報提供することを目的とする。

病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者さん、地域の皆様、秋田県内の各病院、地域医療携室関連の施設などに向けて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載している。平成22年度より横手市内の市民向け回覧板で回覧することになり、平成23年度からは横手市内全戸配布（フルカラー印刷）となった。

病院ホームページは、平成22年3月24日に市立病院として横手・大森の両病院に統一性を持たせ、リニューアルした。平成23年度よりトップページフラッシュ動画を四季で変化させ当院の様子をお伝えできるようにした。

また、平成24年度より看護師、コメディカルのメンバーを増員。地域の皆様のお役に立てるよう最新情報を提供していきたいと考えている。

【構成員】

委員長	診療科	船岡 正人		
副委員長	総務課	高橋 功		
委員	感染対策室	小川 伸	診療放射線科	細谷 謙
	医事課	柿崎 正行	医事課	石山 博幸
	地域医療連携室	高橋 美幸	総務課	黒澤 雄悦
	総務課	阿部千鶴子		

【委員会開催日及び検討事項】

平成24年7月6日	広報委員について（報告） 広報誌30号発行について 広報誌30号の内容について ホームページについて
平成24年9月7日	広報誌31号発行について 広報誌31号の内容について ホームページについて
平成24年11月27日	広報誌32号発行について 広報誌32号の内容について ホームページについて

【病院広報誌の発行】

平成24年5月	第29号発行
平成24年9月	第30号発行
平成24年11月	第31号発行
平成25年1月	第32号発行

<文責 黒澤雄悦>

診療記録開示審査委員会

概要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

構成員氏名

	役 職	氏 名
委 員 長	副 院 長	吉 岡 浩
副 委 員 長	院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	木 村 カズ子
	事務局長	佐 藤 正 弘
	医事課長	浮 嶋 優 子

活動記録

平成24年度は、23件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

<文責 佐藤正弘>

年報編集委員会

【目的】

市立横手病院の年報を編集することを目的とする

【構成員】

委員長	診療科	小松 明
	リハビリテーション科	山谷 加奈
	診療放射線科	細谷 謙
	薬剤科	渡邊 圭子
	看護科	畠田 麗子
	看護科	佐藤 鋼子
	臨床検査科	小丹まゆみ
	食養科	天羽 勝義
	総務課	藤木 正文
	医事課	柿崎 正行

【委員会開催】

- 平成24年 8月20日
前年度の反省及び今年度の方向性
今年度年報の原稿依頼
- 平成24年10月10日
提出済み原稿の校正
未提出原稿の督促と期日
- 平成24年11月 7日
提出済み原稿の校正と回覧
未提出原稿の督促と期日
- 平成24年12月12日
提出済み原稿の最終校正

<文責 柿崎正行>

個人情報保護委員会

【目的】

患者様の個人情報の確実な保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規程等について検討するとともに、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

【構成員】

委員長	佐藤 正弘		
委員	丹羽 誠	木村カズ子	
	高橋 功	浮嶋 優子	
	柿崎 正行	千葉 崇人	

【業務】

- 電子カルテシステムの稼動に伴い、各種医療情報システムのセキュリティ強化の検討
- 「個人情報保護規程」等各種規程・要領等の改正
- 全職員対象の個人情報保護に関する研修会の開催

【委員会開催状況】

平成24年度については、委員会を一度も開催しなかったものの、新入職員研修会、看護科の随時採用者に係るシステム研修の際に個人情報保護に関する研修を実施した。

また、平成23年度に導入した電子カルテ端末制御管理システムについては、USBメモリ等の外部メモリ・ストレージの使用について、許可されたものしか使用不可とし、さらにコピーのログを保存することとしたのに加え、システム上から棚卸を継続実施することにより、USBメモリ等の所在について確認を行なった。

<文責 柿崎正行>

医療ガス安全管理委員会

構成員

委員長 江畑公仁男（副院長：整形外科）（監督責任者）
副委員長 吉岡 浩（副院長：外科）
委員 寺田 宏達（医師：麻酔科） 照井 洋子（看護科） 和賀美由紀（看護科）
高田真紀子（看護科） 高橋 共子（看護科） 高橋 正子（看護科）
石橋由紀子（看護科） 柏谷 肇（ME） 佐々木洋子（薬剤科）
柿崎 更正（ボイラー技士） 阿部 光子（総務課：事務局）
伊藤 建一（総務課：実施責任者）

委員会開催日

平成25年3月26日（水）

委員会での協議、活動報告

1. 平成24年度の医療ガス供給設備保守点検の結果報告及び不良箇所改善事項協議。
2. ヒヤリハットの報告（2件あり）
3. 医療ガス供給設備の整備工事の計画概要を説明。
4. 平成25年度の事業計画として保安講習会の開催、医療ガス供給設備の整備工事の施工、保守点検の実施時期を確認。
5. 酸素ガス取扱い上の周知文書を配布。各部署への周知を図る。

○医療ガスは目に見えないものであり、なお且つ高圧ガスであることから取扱いを間違えると重大な事故につながる恐れがあります。

当委員会では、医療ガスの取扱い上の周知を図り、安全な使用のため知識の習得にも力を入れていきたいと思っております。

<文責 伊藤建一>

防災対策委員会

委員構成

自衛消防隊長 丹羽 誠
自衛消防副隊長 吉岡 浩、船岡正人、藤盛修成
防火管理者 佐藤正弘
委員 木村カズ子、佐藤セツ子、高橋千鶴子、木村真貴子、木下文子、藤井洋子、高本和子、木村恵美子、川越 弦、藤原理吉、佐藤恵美子、原田優子、小田嶋尚人、熊谷 剛、石田良樹、佐々木佳子、柴田昌洋、浮嶋優子、高橋 功、阿部光子、藤木正文、柿崎更生、伊藤建一

開催日

第1回 平成24年6月15日
第2回 平成24年10月10日

第1回委員会

平成24年6月28日（木）に実施する防災訓練について

【概要】3A病棟から火災が発生した想定で避難訓練を実施する。⇒職員を患者役として非常用ストレッチャーを使用して階段からの避難訓練のほか、指揮、通報連絡、初期消火、防護安全、非常持出訓練などを実施し、災害対策本部へ避難状況等について報告を行う。また消火器を使用したことのない職員を対象に消火訓練を実施し、夜間警備員等による屋内消火栓を使用しての放水訓練を実施する。

第2回委員会

平成24年10月24日（水）に実施する防災訓練について

【概要】夜10時に食養科より火災が発生した想定で夜間体制での防災訓練を実施する。⇒実際の夜間体制で、火災による初期消火、通報連絡、避難誘導等の訓練を限られたスタッフの中で連携し実施する。なお、急患で点滴中の患者と夜間透析中の患者が数名いる想定で訓練を実施する。また消火器を使用したことのない職員を対象に消火訓練を実施する。

水害時のシュミレーションについて

市の取り組みの一環として当院の水害時シュミレーションを作成してみた。

当院では、受電設備、非常用自家発電装置、電話交換機などのライフライン設備が地下または1階フロアにあることから、浸水時は電気・通信・給水機能が停止し病院機能がマヒする事態になりかねないと想定される結果となった。この状況でどこまで医療を継続することか出来るのか、今後検討が必要である。

○今年度は火災訓練を2階実施し、夜間体制での訓練も実施した。夜間においてはスタッフ数が非常に少なくなり、対応に苦慮すると思われます。今後はさらにあらゆる場面・災害を想定した訓練を積み重ねて、患者さんの安全確保に努めていきたいと思ひます。

<文責 伊藤建一>

医療廃棄物管理委員会

構成員

委員長 丹羽 誠（副院長・外科）管理責任者
副委員長 佐藤正弘
委員 佐々木美奈子・石田良樹・照井洋子・和賀美由紀・高橋正子・高橋共子
高田真紀子・高橋佳子・石橋由紀子・小田嶋恵美子・小川 伸・藤原理吉
木村恵美子・伊藤建一

委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握
医療廃棄物処理計画の作成
医療廃棄物処理マニュアルの作成
医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

委員会協議・活動など

医療廃棄物の適正処理がされているか、各部署の巡回点検を実施。
在宅医療関連の鋭利な医療廃棄物の廃棄について、当院での受け取り等の対応を検討。

○当委員会では、院内感染防止の観点からも院内感染対策委員会との連携を強化し、医療廃棄物の適正処理に一層努めていきたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

看護科の委員会

教育委員会

【委員会目的】

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

【構成メンバー】

委員長	木村真貴子				
副委員長	石橋由紀子				
委員	永須 直美	中村勇美子	蒔野 美樹	山田 沙織	稲川 雅美
	塚本 梢	高橋まゆみ	高橋 恵子	高田真紀子	桐原 峰子
	草薨美保子	佐藤加代子			

【平成24年度委員会目標】

1. 新人教育プログラムの実践を行う
2. 中堅層の教育、育成の見直しをする

【活動内容】

<新人研修・新人教育>

- 基本技術と基礎知識（4月）
 - 「インスリン、麻薬の取り扱いについて」
 - 「輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて」
 - 「胃瘻について」
 - 「十二誘導心電図モニター装着と取り扱いについて」
 - 「輸血確認準備について」
- 心電図研修会・日本光電（6月）
- 新人評価 3回（7月、12月、3月）
- 夜勤前研修 プリセプター、新人に採血、点滴、吸引の技術チェック施行
- 糖尿病教室見学
- 次年度プリセプター研修（3月）

<継続教育>

- 5年目研修 11/30 グループワーク 3名
「当院の看護ケアにおける長所と短所」
- 卒後3年目（当院就職後含む） 手術室見学及び挿管、抜管介助 5名

○2年目研修 研究・ケーススタディ発表 師長主任会で発表

「ターミナル期の患者の不安に対するコミュニケーションにおける関わり」

3 A 岩澤 希

「慢性期の高齢者における支援方法について」

3 A 梅川 瑠衣

「緩和ケアについて ～ターミナル期の患者と家族の関わり～」

3 C 柿崎 愛

「術前訪問の重要性について ～個別性のある看護展開と術中の体位固定から
学んだこと～」

手術室 佐藤 純平

【平成24度の反省】

昨年は新卒新人の独り立ちに時間を要したことから、今年度は新人教育プログラムの整備に力をいれた。教育委員が中心となって現場の意見をすいあげ、どのように進めていけばよいのかを検討してきた。実際にプログラムを使用するのは次年度からであるが現場の声は反映されてきたと思う。今後は昨年度からの課題である中堅看護師のレベルアップにも力を入れていきたい。

<文責 木村真貴子>

看護研究委員会

【構成メンバー】

委員長 高本 和子

副委員長 高橋 正子

委員 吉方ちあき 佐藤 鋼子 佐藤 郁美 中川原康子 藤井 千昌 高橋 美里
照井かおる 高橋亜由美 高橋 朋子 岩見香名子

【H24年度委員会目標】

- *各部署の研究班に所属し研究委員のレベルアップを図る
—研究計画書に対して、アドバイスできる様になる—

【行 事】（委員会は毎月1回実施）

- *7月20日 出前講義；県立衛生看護学院 齊藤みすず先生 「文献の読み方」
参加者 41名
- *11月8日 全国自治体病院研究発表会参加 3C 高橋亜由美 発表
- *12月12日 秋田県看護協会地区支部研究発表会参加 3B 末次エリカ 発表
- *3月11日 H24年度看護研究発表会
H24年度研究発表 H25年3月11日(月) 参加人数 81名

【座 長】：下夕村優子 高田真紀子

【演 題】

- | | |
|--------------------------------|----------|
| 演題1 「在宅介護を行う家族への退院指導の検討」 | 2A 藤井 綾 |
| 演題2 「廃用症候群患者における効果的な吸入への取り組み」 | 3A 塚本 梢 |
| 演題3 「SMA閉塞症患者の事例検討と看護ケア報告」 | 3B 高橋まきこ |
| 演題4 「経鼻内視鏡検査における前処置方法と苦痛度の関連性」 | 外来 鈴木久美子 |
| 演題5 「新人看護師のインシデントの要因」 | 3C 柿崎 愛 |
| 演題6 「人工股関節置換術後の外転枕の工夫」 | 4C 佐藤 晃子 |

【講 評】

公益社団法人秋田県看護協会 常務理事 福田 幸子先生
「看護研究論文作成を鍊る」

【総 括】

今年度は委員会規定を策定し、改めて委員会の機能・役割を明文化し取り組みました。上半期に県立衛生看護学院 齊藤みすず先生より出前講義と研究計画に助言を頂き、研究を進める上で支援を頂くことが出来ました。

現在、論文作成にあたり外部講師による専門的且つ継続する指導がない状態で看護研究に取り組んでいます。そこで今年度は、院内の認定看護師の協力を頂きながら取り組みました。今後の展望として 研究委員の教育研修を促進し、研究班を支える能力を高めることが必須と考えます。

研究的視点を持って日々の看護業務をすることが 即ち看護の質向上へ繋がります。来年度は研究委員がそれぞれの部署に於いて積極的に指導ができる事を目標としたいと考えます。

<文責 高本和子>

計画記録委員会

【委員会目的】

1. カルテ開示に向け、看護記録の質の向上を図る。
2. 看護計画に基づいた看護ケアを提供するため評価・修正し、看護の質の向上を図る。
患者参加型の看護計画を立案し実践する。

【構成メンバー】

佐藤セツ子	木下 文子	高橋千鶴子	高本 和子	木村真貴子	藤井 洋子
照井 洋子	高橋 礼子	下夕村優子	高橋 正子	高橋 共子	高橋麻理子
森本 和子	高橋まゆみ	高橋 亮子	武藤 夏子	熊澤あゆみ	高橋 華澄
稲川 雅美	高橋 康子	高橋 大樹	赤川恵理子	藤谷 栄	松川かおり
池田 弘恵					

【目標及び活動計画】

目 標： 看護記録の向上と、記録入力の迅速化・明確化を図る。

- 活動計画： (1) 観察項目のチェック・・・5月～7月
(2) ルール決め ……8月～10月
(3) マスターの変更 ……11月～3月

【活動内容】

- (1) 観察項目のチェック
 - ・7月：メディス（全国的に認められている医療用後・記号）参照し、修正作業を行なった。
- (2) ルール決め
 - ・検温表記録の記載基準決定
手術後経過日数 人工呼吸器装着患者 CHDF治療患者 血管造影等
 - ・看護記録から検温表または反対に移行する際の看護記録記載事項
 - ・観察項目記載基準及び計測値等の入力文字基準
- (3) マスターの変更
 - ・各部署でメンバーを決めたが、変更には至らず。
- (4) その他
 - ・個々の看護の振り返りとして、なるべく長期入院患者を対象、監査を行なった。
 - ・7月、術後記録などの経過観察表の見方、血管造影室検査記録の見方、透視室検査などの記録の見方について、各医師に伝達した。
 - ・10/1～全ての看護記録が電子カルテ入力に移行した。
 - ①手術後の記録
 - ②人工呼吸器装着、CHDF施行患者記録血管造影室（アンギオ、心カテなど）・内視鏡室検査（ESD・胃瘻造設など）の記録
 - ③一般造影室検査（ERCP・ブロンコなど）の記録

【目標の反省】

- ・術後経過記録や呼吸器管理などの、重症者記録が全て電カル入力に移行し、初めは入力方法に戸惑いながら、また、問題を出し合い解決しながら取り組んだことで、順調に経過している。
- ・今後も迅速・明確化のために、入力ルールや項目整理などに取り組んでいきたい。

<文責 藤井洋子>

固定チームナーシング委員会

【目標】

固定チームナーシングの確立

【メンバー】

木村カズ子 木下 文子 照井 洋子 菅原奈緒子 佐藤 悦子 藤井 洋子 高橋 礼子
黒澤真知子 佐々木文子 高橋千鶴子 下夕村優子 島田 麗子 高橋 恵子 高本 和子
高橋 共子 高田真紀子 矢野多智子 木村真貴子 高橋 正子 小田嶋勝子
松川かおり 佐藤美夏子 佐藤セツ子

【年間の動き】 平成 24 年 3 月から固定チームナーシング始動

1. 各部署のタイムスケジュール作成
2. 部署マニュアル作成
 - ★固定チームナーシングに沿った内容に整理
 - ★マニュアルを同一形式に統一
 - ①部署の概要
 - ②組織図
 - ③病棟目標・チーム目標
 - ④定義・役割・業務
 - ⑤タイムスケジュール
3. チームワークシート活用について
4. リーダー・サブリーダー業務・日々リーダー業務・受持ちナース・担当ナース業務の確立
7月各業務のデータ分析施行 全病棟看護スタッフ対象
5. 研修会

2012/5/20	固定チーム研究会	東北地方会	於：福島	参加	7名
2012/5/27	固定チーム学習会		於：東京	参加	7名
2012/12/20	師長研修		於：当院	参加	11名
2013/3/18	リーダー・サブリーダー研修		於：当院	参加	15名
2013/3/21	リーダー・サブリーダー研修		於：当院	参加	11名
6. ケースレポート発表会 2013/2/6 参加 68名

【1年間のまとめ】

手さぐり状態で始めた固定チームナーシングであったが、年間計画をほとんどこなし、看護科病棟統一の部署マニュアルもインフォメーションに掲示することができた。さらに業務の見直しで看護補助者との役割分担も共同業務マニュアルを作ることで確立することができた。研修会にも参加し、試行錯誤を繰り返し、チームの見直しをするなど、各病棟それぞれ掲げた目標に向かって頑張ったと思う。

その集大成として、2月にケースレポート発表会をおこなったが、それぞれの発表は、固定チームの意義の「責任と継続性のある質の高い看護実践」をチームで行っているのがよく理解できるものであったし、看護の質が向上しているのわかる内容であった。

この委員会の年間目標は達成されたと思われる。来年度は更なる向上をめざして固定チームナーシングを病棟だけでなく、外来・手術室・透析室・訪問看護にも広めていきたい。

<文責 佐藤セツ子>

師長主任会議

業務、看護科の諸問題を取り入れ意見交換の場をしている。

目的 1. 看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。

内容 1. 業務手順に関すること

2. 看護科の諸問題を討議し、決議する

構成 22名（総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長9名 看護主任11名）

会議 月初め1回

内容 4月 救急搬送依頼の対応について

5月 急性期看護補助体制加算・看護補助者夜勤導入について

6月 ①看護補助者夜勤導入について

②診療報酬改定に伴う創傷・オストミー領域に関する変更事項について

③看護補助者夜勤7月～開始に向けて

看護補助者夜勤のタイムスケジュールと業務について

7月 看護科ポケットマニュアルについて

8月 ①看護補助者夜勤のタイムスケジュールと業務について評価

②新人看護師の夜勤前の研修について

9月 手指衛生サーベイランスについて

10月 ①日本看護学会（看護教育）（成人看護1）に参加しての報告

②个人防护着用と手指衛生について

11月 ①教育委員会主催：2年目看護師ケーススタディ4名発表

②12月～夜勤時間変更について

12月 ①接遇について

②眼科（白内障）の手術について

H24・2月 ①固定チームナーシング ケースレポート発表5名

②洗面タオルのデスポ化について

3月 ①眼科（白内障）の手術について

②ソーシャルメディア等に関するガイドラインと適用について

<まとめ>

2012年度、診療報酬の改定が実施され、ますますチーム医療の推進が求められています。看護職がキーマンといわれるように、医療安全・感染管理・褥瘡対策など、専従で看護職員が担っていく事も多くあります。人員確保・夜勤体制など問題は山積みですが、今後も師長主任会で検討しながら、看護職員が看護の専門性を発揮し、やりがいを持って働けるよう職場づくり、看護の質の向上を実現していきたい。

<文責 木村カズ子>

主任会

【目的】 1. 看護業務に関する諸問題を検討し、看護業務の円滑を図る。

【内容】 1. 業務改善に関する事。
2. 看護手順に関する事。
3. 師長会への提案及び答申。

【構成】 看護科主任

小田嶋恵美子 照井洋子 石橋由紀子 小田島千津子 高橋佳子 高橋共子
和賀美由紀 高橋正子 高田真紀子 佐藤美夏子 小川伸

【会議】 月1回（原則的に第2月曜日）

【平成24年度主任会目標】

1. 長期目標

看護ケアの質向上のため看護科が目標に掲げる固定チームナーシングの導入に向け、継続的なサポートを行う。

2. 中期目標

固定チームナーシング導入に必要なチームリーダーの育成をサポートする。

3. 短期目標

固定チームナーシングを導入することによって生じるチームリーダーの意識と行動の変化を把握し、精神的負担を軽減できるようサポートする。

短期目標行動計画

- 1) 主任会の中でスタッフから相談を受けた内容を提示し情報共有する。
- 2) 固定チームナーシング導入の経過において問題となっている内容を把握する。
- 3) 主任としてサポートできることを話し合い、主任としてもスキルアップする。
- 4) 話し合った結果からチームリーダーのサポート体制を意思統一して行う。
- 5) 結果をもとに、チームリーダーの育成プログラムにフィードバックする。
- 6) 固定チームナーシングに直接かかわることが少ない部署の主任も情報共有できるようにする。

【目標の反省】 行動目標に沿って反省を行った。

- 1) 主任会でディスカッションし情報共有を行った。
- 2) ①応援体制が組めない事があった。
②フォローできない事があった。
③日々の業務で多忙となってしまう、問題点の把握ができなくなる事があった。
④スタッフ不足の問題もあった。

- ⑤リーダーが流れを把握してスタッフがいなくても何とかしようと取り組んでくれた。
- 3) ①主任としてスタッフが満足できる役割をはたす時間がなかったかもしれない。
②スキルアップする時間が不足していた。
③1月21日に固定チームナーシングにおける主任の役割と課題について研修会を行った。
- 4) 情報共有がサポート体制にいくらかでも反映できたのではないかと考えられる。
- 5) 次年度の課題となった。
①外来部門でも固定チームナーシングの導入を感じる事ができた。
②当直体制の問題もあり、スタッフ指導まで関われるのかと感じた。
③3Cに行く機会が多いがリーダーの指示を受けて動いている印象を受けた。
④全体を見渡す人がいないとうまく運営できないという印象は受けた。

<文責 石橋由紀子>

師長会

目的 1. 看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる

2. 病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する

内容 1. 看護科の諸問題を協議し決議する

2. 予算、決算、人事、各委員会に関すること

3. 病院経営への提案及び答弁

4. リーダー教育

5. 部署会議の報告

構成 11名（総看護師長 1名 副総看護師長 1名 看護師長 9名）

会議 月 1回

<まとめ>

平成24年度は新規採用看護師21名で、うち新卒者12名・既卒者9名でした。既卒者には新人と同じように、新規採用職員研修を実施し、技術的な所も確認し病棟配置としました。固定チームナーシングが本格的に稼働し、チーム会・リーダー会、サブリーダーの役割・各部署の状況など師長会で報告・検討しました。

<文責 木村カズ子>

看護補助者会

構成 45名（看護補助者28名 業務員17名） 平成25年3月末

急性期看護補助体制50対1取得ののほかに、急性期看護補助体制夜間100対1取得に向けて看護補助者を増員し、夜勤勤務時間、夜間業務内容など数回にわたり話し合いを行った。平成24年7月～看護補助者2名ずつ夜勤開始（2交代制勤務）となり、8月夜間急性期看護補助者体制加算を取得。「看護の動向を踏まえ、実践となる知識・技術・態度を習得し、チームの一員として質の高い看護サービスの担い手としての役割行動を養う」を目的とし研修会を実施。研修目標は、「看護補助者としての役割が理解できる。医療看護の動向を理解し役割行動に生かすことができる。ケア対象者への倫理的配慮。安全と感染防止への対応など」研修会を計画的に行った。看護補助者を増員したことにより看護師の業務軽減に繋がったことはいままでのないが、業務分担や教育体制の構築など現場にはさまざまな課題がある。看護補助者の経験年数は経験ゼロ～最大15年と幅があるため、積極的な研修への参加や、研修で習得した技術の業務への活用支援など、自ら仕事に喜びを感じ、やりがいや勤労意欲を持って働き続けられるように支援していきたい。

平成24年度看護補助者研修

	開催月	内 容	担 当	
1	4/23	病院の役割・看護補助者夜勤導入について 看護補助者夜勤導入について 標準予防策について	院長 総看護師長 感染管理認定看護師	丹羽 誠 木村カズ子 小川 伸
2	5/10	職業感染について	感染管理認定看護師	小川 伸
3	5/28	ベット清掃標準化について	感染管理認定看護師	小川 伸
4	6/25	N95 マスクの装着方法・演習	感染管理認定看護師	小川 伸
5	7/13	褥瘡予防ケアの演習	皮膚排泄認定看護師	佐藤美夏子
6	8/24	医療安全管理について ～安全安心信頼のために～	秋田組合総合病院 医療安全対策室GRM	成田雪美
7	9/21・24・ 26	感染管理研修会 手洗いと個人防護具の着脱をマスターする	感染管理認定看護師	小川 伸
8	10/2	医療安全研修会 当院の医療安全管理について	医療安全管理者	木村恵美子
9	12/14・17・ 18・19	接遇研修会 「患者対応塾」基礎編 ～具体的事例から学べる患者対応～	患者サービス向上委員会	木村カズ子

＜文責 木村カズ子＞

學術研究業績

医局勉強会

平成24年4月～平成25年3月

平成24年4月	抗生剤による下痢症 Clostridium Difficile 感染症を中心に・・・・・・・・・・	石田 良樹 (薬 剤 科)
平成24年4月	骨粗鬆症診療の現状・・・・・・・・・・	江畑公仁男 (整 形 外 科)
平成24年5月	LOH症候群・・・・・・・・・・	伊藤 卓雄 (泌 尿 器 科)
平成24年5月	産科出血とその対策・・・・・・・・・・	畑沢 淳一 (産 婦 人 科)
平成24年6月	術後腹腔内感染症、嫌気性菌の特徴と治療・・・・・・・・	吉岡麻依子 (外 科)
平成24年6月	HPとその除菌・・・・・・・・・・	荒田 英 (消 火 器 内 科)
平成24年7月	「ヘパリン在宅自己注射」「テラビック」・・・・・・・・	渡邊 圭子 (薬 剤 科)
平成24年7月	NO梗塞 NOリタール・・・・・・・・・・	塩屋 斉 (脳 神 経 内 科)
平成24年10月	当院の外来化学療法の実況・・・・・・・・・・	谷川 裕子 (薬 剤 科)
平成24年10月	「慢性咳嗽」に対する心身医学的アプローチ・・・・・・・・	齋藤 紀先 (呼 吸 器 内 科)
平成24年11月	動脈硬化性疾患予防ガイドライン・・・・・・・・・・	根本 敏史 (循 環 器 内 科)
平成24年11月	食道胃静脈瘤の内視鏡治療・・・・・・・・・・	武内 郷子 (消 化 器 内 科)
平成24年12月	輸血療法の基礎知識・・・・・・・・・・	寺田 宏達 (麻 酔 科)
平成25年1月	モーズ軟膏 SHARE PROTOCOL・・・・・・・・・・	丹羽 誠 (外 科)
平成25年1月	インフルエンザの歴史・・・・・・・・・・	細木 敬祐 (呼 吸 器 内 科)
平成25年2月	当院 ICT の紹介・・・・・・・・・・	武石 知希 (薬 剤 科)
平成25年2月	橈骨遠端骨折の治療・・・・・・・・・・	鈴木 真純 (整 形 外 科)
平成25年3月	超音波ガイド下伝達麻酔・・・・・・・・・・	富岡 立 (整 形 外 科)
平成25年3月	特異な経過をたどった周郭胎盤の一例・・・・・・・・	滝澤 淳 (産 婦 人 科)

平成24年 学術発表

No.	月 日	学 会 名	開催地	演 題	発 表 者	
1	H24. 10. 25	第50回日本癌治療学会学術集会	横浜市	Capecitabine/Cisplatin 併用療法を施行後根治切除し得たStageIV胃癌の一例	医 局	粕谷 孝光
2	H24. 5. 27	JSUM2012 日本超音波医学会第85回学術集会	東京都	脈管のカラードブラ像のミラーイメージ	医 局	中島 裕子
	H24. 5. 27	JSUM2012 日本超音波医学会第85回学術集会	東京都	Ring-down artifact と comet-tail artifact に関する検討		
	H24. 5. 27	JSUM2012 日本超音波医学会第85回学術集会	東京都	肝嚢胞や消化管内にみられたアーチファクトpetit echoに関する検討		
	H24. 9. 23	日本超音波医学会第44回東北地方会学術集会のご案内	福島市	広汎性肝壊死の2例：造影超音波（CEUS）所見を中心に		
3	平成24年4月	Japanese Journal of Radiology		CT findings of spontaneous intraperitoneal rupture of the urinary bladder:two case reports	医 局	泉 純一
4	H24. 4. 21	第52回日本呼吸器学会学術講演会	神戸市	気管支喘息および咳喘息・アトピー咳嗽患者における心理テストを用いた心身医学的評価の試み-第1報	医 局	齋藤 紀先
	H24. 5. 26	第53回日本心身医学学会総会ならびに学術講演会	鹿児島市	気管支喘息及び咳喘息・アトピー咳嗽患者における SDS, STA I, SGE, CAI を用いた心身医学的評価の試み		
	H24. 7. 15	日本交流分析学会第37回学術大会	東京都	吸入ステロイド薬を減薬または終了できた気管支喘息患者における SGE の特徴について		
	H24. 7. 15	日本交流分析学会第37回学術大会	東京都	軽症気管支喘息患者における交流分析的自我状態と SDS, STA I との関連性		
	H24. 11. 18	第17回日本心療内科学会総会・学術大会	福岡市	吸入ステロイド+長時間作業型β刺激薬を減薬できた気管支喘息患者における SGE の特徴について		
	H24. 11. 17	第17回日本心療内科学会総会・学術大会	福岡市	軽症気管支喘息患者における自己成長エゴグラム(SGE)と抑うつおよび不安心理テストとの関連性		
	H24. 9. 14	第75回日本心身医学会東北地方会	仙台市	気管支喘息患者における自己成長エゴグラムと治療adherenceとの関連性		
	平成24年3月	日本診療内科学会誌		術後肺癌患者の慢性症状に対する心身医学的評価の重要性（第2報）		
5	H24. 6. 22	第109回 東北整形災害外科学会	盛岡市	超音波ガイド下麻酔の経験	医 局	富岡 立
6	H24. 5. 13	第24回日本アレルギー学会春季臨床大会	大阪市	気管支喘息及び咳喘息・アトピー咳嗽患者における心理テストを用いた心身医学的評価の試み-第2報	医 局	細木 敬祐
	H24. 11. 17	第17回日本心療内科学会総会・学術大会	福岡市	薬物抵抗性の頭痛に対し双極性障害II型が疑われラモトリギンが奏功した薬物乱用頭痛の一例		
7	H24. 5. 27	JSUM2012 日本超音波医学会第85回学術集会	東京都	USで術前診断できた胆嚢穿孔の1例	医 局	吉岡麻依子
8	H24. 6. 16	日本内科学会東北支部主催 第196回 東北地方会	仙台市	発熱、発心で来院したツツガムシの2症例	医 局	高木 遥子
9	H24. 8. 25	第4回 J感染制御ネットワークフォーラム	仙台市	薬剤混合のベストプラクティス	看護科	佐藤 愛
10	H24. 11. 8	第51回 全国自治体病院学会 香川	高松市	腹水穿刺時にWebカメラを用いた取り組み	看護科	高橋亜由美
11	H24. 6. 23	第57回 日本透析医学会	札幌市	多人数用透析液供給装置「DAB-E」給水部への消毒方法の検討	ME室	川越 弦
12	H24. 11. 9	第51回 全国自治体病院学会 香川	高松市	手指衛生遵守向上への取り組み	感染対策室	小川 伸
	H24. 2. 4	第27回 日本環境感染学会総会	福岡市	当院におけるICTラウンドの取り組み		
13	H24. 1. 20	第23回 日本臨床微生物学会総会	横浜市	当院で分離されたH. Influenzaeの細菌学的検討	臨床検査科	佐々木絹子
14	H24. 5. 26	日本超音波医学会 第85回学術集会	東京都	肝内シャントのdual Doppler を用いた観察	臨床検査科	小丹まゆみ
15	H24. 3. 11	日本超音波医学会 東北地方会 第43回学術集会	仙台市	門脈血栓と発達したCTPV (cavernous transformation of the portal vein)を伴った脾臓の一例	臨床検査科	大嶋 聡子
16	H24. 1月	(社)秋田県理学療法士会 秋田理学療法		大腿骨頸部骨折患者の早期離床と自立歩行に至るまでの関連性	リハビリテーション科	花脇 加奈
17	H24. 11. 9	第51回 全国自治体病院学会 香川	高松市	橈骨遠位端骨折における早期の疼痛が与える影響	リハビリテーション科	熊谷 剛

同好会活動

野球部

今年度は唯一の公式戦である県南病院野球大会の事務局病院であったため、事前準備から野球部員全員で行えた。日頃のチームワークがこういう面でも活躍できた事がすごく誇りに思えた。当日は、前夜からの豪雨で中止も考えられたが、参加病院からの強い要望もあり、強行で開催した。朝早くから事務局病院としてグラウンドの整備をしなければならなかったが、部員全員が協力したおかげで時間通りに開催できた。試合は、1回戦は対リハビリテーションセンターとだったが、不戦勝。代表決定戦は、対横手興生病院と行った。序盤からリードを奪ったものの、横手興生病院も後半から打ちはじめ、点の取り合いとなった。リードは許さない試合運びができたものの、最終回に同点に追いつかれ、2アウト満塁と緊迫した展開に。しかし、最後はヒットを打たれ、サヨナラ負けに終わった。

上記の大会を通じて他病院と親睦を深めることができ、その延長で横手興生病院とJA厚生連平鹿病院と横手市病院交流会を開催した。初の試みだったが、事務局として連絡を取り合い皆で協力して開催できた。試合は2チームの混合チームで紅白戦形式を行い、勝敗にこだわらずプレーに笑顔が見られ、その笑顔につられて皆が大声で笑い励まし合うとても有意義な時間を過ごすことができた。終了後もその勢いを宴会の場に移し、同じく皆で楽しめた。普段交流できない方々との機会を設けることができた。今後も事務局を持ち回りで担当して継続していこうと確認し合った。次年度はJA厚生連平鹿病院が担当する。

県南病院野球大会の運営から試合も含め、部員全員が一丸となって取り組めた事が今年の収穫である。今後も全県大会の出場・勝利もそうだが、野球を通して交流する機会・場を増やし、たくさんの方々に関わり続けられたらと思う。

○ 主な活動内容

日付	内容	場所	結果
6月3日	練習	大鳥公園	
6月30日	練習試合	グリーンスタジアムサブ球場	
7月14日	県南病院野球大会 リハビリテーションセンター 横手興生病院	十文字球場	不戦勝 4 - 5 ×

	1	2	3	4	5	6	7	計
市立横手病院	1	1	0	0	2	0	0	4
横手興生病院	0	0	0	1	2	0	2×	5×

10月6日	横手市病院交流会	大鳥公園球場
11月30日	横手病院野球部 忘年会	松の蔵

<文責 熊谷 剛>

バレーボール部

【活動】

平成24年6月18日	さかえ館で練習
平成24年6月25日	ふるさと館で練習
平成24年7月2日	さかえ館で練習
平成24年7月9日	ふるさと館で練習
平成24年7月23日	ふるさと館で練習
平成24年7月30日	さかえ館で練習
平成24年8月6日	さかえ館で練習
平成24年8月20日	さかえ館で練習
平成24年8月27日	さかえ館で練習
平成24年9月3日	さかえ館で練習
平成24年9月8日	第33回秋田県病院対抗バレーボール大会出場 (会場：県営トレーニングセンター)

【第33回秋田県病院対抗バレーボール大会登録メンバー】

1. 高橋 貞広	リハビリテーション科	2. 小田嶋尚人	リハビリテーション科
3. 熊谷 剛	リハビリテーション科	4. 石川 順基	リハビリテーション科
5. 加賀 直之	リハビリテーション科	6. 佐藤 睦子	看護科
7. 高橋 朋子	看護科	8. 鈴木 時枝	看護科
9. 武石 知希	薬剤科	10. 細川 陽子	食養科
11. 青池 満雄	医事課 (主将)	12. 石塚 紫	医事課
13. 木村恵美子	医療安全管理室 (監督)	14. 鈴木 真純	診療科
15. 高橋まゆみ	看護科	16. 高橋まゆみ	看護科
17. 武藤 夏子	看護科	18. 室澤 陽子	看護科
19. 阿部千鶴子	総務課		

【第33回秋田県病院対抗バレーボール大会結果】

<予選リーグ>

- 1 試合目 雄勝中央病院と対戦し、セットカウント2-1で勝利。
 - 2 試合目 本荘第一病院と対戦し、セットカウント0-2で敗北。
- 1勝1敗で予選リーグ敗退。

<文責 阿部千鶴子>

編集後記

本年度は 5/22 の東京スカイツリー開業に始まり、38 個という史上最多のメダル獲得に日本中が沸いた真夏のロンドンオリンピック、10 月に入ると iPS 細胞作製で山中教授がノーベル賞受賞というおめでたいことが続いた。年末には政権交代し、第二次安倍内閣によるアベノミクスがスタートした。景気の好転に期待したい。

夏の酷暑と冬のドカ雪など、その都度異常気象と言われていたが、こうも毎年続くと異常が正常に思えてくる。自然の摂理とはいえ、健康人でも体調管理には注意が必要である。東北大震災後、ふるさとと離断され、他人のわらじを履き続けなければいけない被災者の方々のことを考えると、胸が痛む。彼らが少しでも落ち着ける環境の整備がさらに進むことを願っている。

<文責 小松 明>